

- 一 諸報告ノ調査廻送及報告例ニ關スル事項
- 二 官報々告事務新聞紙發兌諸社ト通報ニ關スル事項
- 三 諸物品管理物品會計及經費ニ關スル事項

第二十二條 記録掛副官ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 年報編纂及他官廳ノ要求ニ係ル編纂材料調整ニ關スル事項
- 二 記室ノ管理及一切文書保存編纂ニ關スル事項
- 三 靖國神社及遊就館ニ關スル事項

第二十三條 副官ノ内不在缺勤等ノ時ハ互ニ其分掌主務ヲ補助スルモノトス場合ニ依リ特ニ代理ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條 前數條ノ規程ニ拘ハラヌ上裁又ハ機密ニ關スル差使往復及退省後休日臨時ノ處務ハ祕書官ノ所掌ニ屬ス

第三章 參事官服務

第二十五條 參事官ハ行政法律及勅令省令ニ關スル事項及帝國議會ニ關スル事務ヲ整理ス

第四章 文書取扱

第二十六條 本省ニ到來スル文書ハ凡テ大臣官房往復掛ニ於テ接受開封シ件名番號等ヲ簿冊ニ記入スヘシ

第二十七條 往復主務副官ハ到來文書ヲ查閱シ各局人事課法官部ヲ包含ス以下做之ノ審議ニ付スヘシト認定シタルモノ及尋常ノ件ハ其主務ノ各課部ヲ標示シ直ニ之ヲ配付スヘシ

第二十八條 前條受付タル文書ノ内重要ナル事項ハ文書主務副官ニ交付シ同副官ハ次官ノ查閱ニ供シ處分ノ指揮ヲ承ケ又ハ指揮ニ因リ大臣ニ進呈スヘシ

第二十九條 事ノ定例ニ係リ或ハ尋常ノ事件ニシテ大臣ノ處決ヲ要セス又各局ノ審議ヲ要セスト認ムルモノハ往復主務副官ニ於テ本紙ニ次官委任ノ印ヲ捺シ之ヲ文書主務副官ニ交付シ次官ノ決裁ヲ請ヒ文書掛ニ於テ直ニ執行ス

前項ノ外輕易ノ事件ハ高級副官委任ノ印ヲ捺シ之ヲ文書主務副官ニ交付シ同官ノ處分檢印ヲ以テ文書掛ニ於テ直ニ執行スヘシ

第三十條 大臣又ハ次官ニ宛タル親展ノ文書ハ封皮ノ上ニ記號シ記簿ノ後直ニ呈スルカ又ハ祕書官若クハ次官專屬ノ副官ニ交付スヘシ交付ノ後普通文書ノ取扱トナルモノハ前三條ノ例ニ依ル

封皮上(人)ノ番號アルモノハ人事課長ヘ送付スヘシ

第三十一條 凡ソ送付ノ文書ハ送達簿ニ受領者ノ檢印ヲ要スヘシ

第三十二條 事ノ數局ニ聯帶スル文書ハ主務ノ局ニテ處分審案ヲ起草シ關係諸官ノ連印ヲ要スヘシ若シ彼此意見ヲ異ニスルトキハ面議商量シ尙ホ決セサルトキハ直ニ大臣又ハ次官ニ面陳シテ決裁ヲ請フカ又ハ會議ニ提出スヘシ附箋ヲ以テ意見ヲ陳フルヲ許サ

第一類 第三章 陸軍省 陸軍省處務細則

ス

第三十三條 各局調査済ノ審案ハ之ヲ官房往復掛ニ回付シ往復主務副官ハ之ヲ文書主務副官ニ移シ同副官ハ其成案ヲ審査シ完全ナリト認メタル上之ニ檢印シテ次官ニ呈出シ次官査閲檢印ノ上大臣ノ決裁ヲ請フヘシ但文書主務副官審査ノ時參事官ノ主務ニ關シ諮問ヲ必要ト認ムルモノハ同官ニ送付スヘシ

次官ハ大臣ノ代理ヲ爲シ又ハ委任ヲ受クル事件ハ査閲檢印ノ上直ニ執行セシムヘシ前二項ノ外輕易ノ事件ハ次官ノ査閲ヲ要セス文書主務副官ニ於テ處分檢印シテ執行スヘシ

第三十四條 事ノ急施ヲ要シ又ハ機密ニ係ルモノハ通常ノ手續ニ依ラス直ニ大臣又ハ次官ノ決裁ヲ請フコトアルヘシ

第三十五條 凡テ人事ニ係ル事件ハ人事課長ノ擔任ニ屬シ同課長直ニ大臣又ハ次官ノ決裁ヲ請フモノトス其人事ニ關シ上奏又ハ閣議ニ提出スルモノヲ除クスルモノモ亦人事課長ノ所掌トス但之カ爲メ差使往復ノ事ハ第二十四條ノ例ニ依リ專ラ祕書官ノ所掌ニ屬ス

第三十六條 人事及機密ノ文書ハ通常ノ手續ニ依ラス便宜主務者ニ於テ自カラ携帶シテ議ヲ取り又ハ祕封シ主任者ト授受スルヲ要ス其決裁済施行ニ至ル迄ノ順序モ亦便宜ニ從ヒ別ニ人事及機密文書ノ件名簿ヲ調整シテ之ヲ登錄スヘシ

第三十七條 文書主務副官ハ公文ノ原書若クハ審案書ニ大臣又ハ次官ノ檢印ノ濟否ヲ點檢シ其檢印済ノ者ハ紙端ニ(閱)ノ字印ヲ付シ淨寫ニ附シ未済ナル者ハ特命アルモノ、外ハ淨書送達スヘカラス

第三十八條 總テ送達スヘキ文書ハ文書掛ニ於テ淨書記注ノ上僚屬二人之レカ校合ノ證トシテ共ニ紙端ニ小印ヲ押シ文書主務副官ノ點檢ヲ受ケテ後送達日記ニ事件ノ大要ヲ錄シ一貫ノ番號ヲ記注シ尙ホ本書ニ送達日記ノ番號ヲ付シテ往復掛ニ交付シ送達スヘシ人事ニ係ル件人事課ニ於テ取扱フモ亦此例ニ同シ

大臣次官ノ官印ヲ要スル文書ハ文書主務副官ニ於テ其印ヲ鈐ス

第三十九條 總テ令達若クハ通牒等ニ添フヘキ書類表面圖面等ハ其發送ニ要スヘキ數ヲ其主務ノ局ニ於テ調製スヘシ尤印刷ニ付スヘキモノハ此限リニアラス

第四十條 各局ノ發議案竝ニ諮詢ニ對スル意見審案ノ書式ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四十一條 各局ヨリ呈出シタル文書ハ決裁済ノ上ハ指令ヲ要スルモノト雖モ別ニ指令ヲ爲サス文書掛ニ於テ其本書欄外ニ(決裁済)ノ印竝關係諸局ノ印ヲ押シ更ニ往復掛ヨリ之ヲ迴送ス其局ニ於テハ領知ヲ證スル爲メニ印下ヘ局長課長若クハ課員ノ内押印シテ速ニ返送スヘシ但其書面ノ結局一般ヘ令達若クハ通牒トナリシモノハ其令達通牒ニテ領知スヘキヲ以テ別ニ本書回送ノ手續ヲ爲サス

第四十二條 各局ニ於テ文書ヲ受領スレハ日録ニ其要領ヲ取捨シテ簡短ニ記注シ日録ノ第一類 第三章 陸軍省 陸軍省處務細則

番號ヲ官房ノ受領番號ノ下ニ記注シタル上審議上答ノ手續ヲ爲スヘシ若シ單ニ一覽ニ止ルモノハ其閱覽ヲ證スル爲メ本書ニ局長課長若クハ主任ノ者押印シテ往復掛へ返付スヘシ

第四十三條 受領ノ文書ニ對シ審案ヲ呈出スルノ日期ハ左ノ如シ

至急文書 三日内即決ヲ要スルモノハ此限リニアラス

通常文書 七日内

此日期ハ官房受領ノ日附ヨリ其局呈出ノ日迄ヲ算ス

第四十四條 往復掛ニ於テハ各局ニ送付シタル文書ノ内審案ヲ要スルモノニシテ所定ノ日期ニ完結セサルモノアルトキハ稽緩目錄ヲ發ス各局ニ於テ其延滞スル理由ヲ右目錄書ニ附箋シテ送付シ來レハ往復掛副官點檢ノ上之ヲ文書掛副官ニ交付シ更ニ次官ノ査閱ニ供スヘシ

既ニ呈出シタル審案及審議ニ付セサル文書ニシテ大臣又ハ次官ノ特命若クハ局長ノ意見ニ依リ一時處分ヲ見合セ留置ヘキ文書ハ文書主務副官ニ於テ之ヲ保管スルモノトス  
第四十五條 凡ソ處分濟ノ文書ハ其審案若クハ之レニ關スル往復書トモ將來ノ考據引證トナルヘキモノハ一切整頓シテ記室ニ送付シ各自之レヲ保管スルヲ許サス故ニ各局ニハ謄寫ノ簿冊ヲ備ヘス簡略ナル日録又ハ摘要等適宜ニ便法ヲ設ケ勉メテ記注ノ煩冗ヲ省クヘシ

記室ニ於テ文書整頓保存竝ニ參照ノ爲メ文書貸附ノ方法等ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ據ル

○軍事參議官條例二十年五月三十一日 勅令第二十號

朕軍事參議官條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十號

軍事參議官條例

第一條 軍事參議官ハ帷幄ノ中ニ置キ軍事ニ關スル利害得失ヲ審議セシム

第二條 軍事參議官ハ左ノ如シ

陸軍大臣

海軍大臣

參謀總長(二十二年三月陸軍省令第五號ヲ以テ本項ヲ改正ス)

監軍

第三條 凡ソ事陸軍ニ關スルモノハ陸軍大臣參謀總長監軍之ヲ審議シ海軍ニ關スルモノハ海軍大臣參謀總長之ヲ審議ス(同上ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第四條 凡ソ事陸海兩軍ニ關スルモノハ各參議官ニ於テ之ヲ審議ス

○參謀本部條例二十二年三月七日 勅令第二十五號

第二類 第三章 陸軍省 軍事參議官 參謀本部

朕參軍官制陸軍參謀本部條例海軍參謀本部條例ヲ廢シ參謀本部條例ノ制定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十五號

參謀本部條例

第一條 參謀本部ハ之ヲ東京ニ置キ出師國防作戰ノ計畫ヲ掌トリ及ヒ陸軍參謀將校ヲ統轄シ其教育ヲ監督シ陸軍大學校陸地測量部ヲ管轄ス

第二條 陸軍大將若クハ陸軍中將一人ヲ帝國全軍ノ參謀總長ニ親補シ(二十三年勅令第二百七十號ヲ以テ本條中改正ス)

天皇ニ直隸シ帷幄ノ軍務ニ參シ參謀本部ノ事務ヲ管理セシム

第三條 參謀次長一人ヲ置キ陸軍中將若クハ陸軍少將ヲ以テ之ニ補シ參謀總長ヲ補佐ス但之ヲ置クハ事務ノ繁閑ニ從フ

第四條 凡ソ戰略上事ノ軍令ニ關スルモノハ專ラ參謀總長ノ管知スル所ニシテ之カ參畫ヲナシ親裁ノ後平時ニ在テハ直ニ之ヲ陸軍大臣ニ下シ戰時ニ在テハ參謀總長之ヲ師團長若クハ特命司令官ニ傳宣シテ之ヲ施行セシム

第五條 參謀本部ニ副官部ヲ置キ部内ノ庶務會計經理ノ事ヲ管掌シ兼テ陸軍文庫ヲ管理セシム

第六條 副官大(中)佐一人佐尉官三人ヲ置キ其下ニ部員尉官二人軍吏二人及下士屬ヲ附ス

(二十三年勅令第十九號同九十五號ヲ以テ本條中追加并削除ス)

第七條 文庫主管尉官一人ヲ置キ其下ニ下士屬ヲ附ス(同上ヲ以テ本條中追加ス)

第八條 參謀本部ニ左ノ二局一課ヲ置キ部事ヲ分擔セシム

第一局

一 出師計畫及團隊編制

二 交通法ノ調査

第二局

一 國防及作戰計畫並ニ陣中要務ノ規定

二 外國軍事ノ調査

編纂課

一 内外地誌外國政誌及戰史ノ纂輯

二 外國書ノ翻譯

第九條 各局長參謀大佐各一人各局員ハ參謀中少佐大尉ノ内各八人ヲ置ク但定員ノ外大中尉若干ヲ附屬シ出仕將校トシテ局務ニ從事セシムルコトヲ得

第十條 編纂課長中(少)佐一人ヲ置キ其下ニ課員佐尉官或ハ陸軍編修四人及之ニ陸軍編修書記ヲ附ス(同上第九十五號ヲ以テ本條中改正ス)

○參謀職制 二十一年五月十二日 勅令第二十五號

第一類 第三章 陸軍省 參謀

朕參謀職制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(二十二年勅令第二十五號ヲ以テ本項中陸軍參謀本部條例ヲ廢シ同年勅令第二十六號ヲ以テ參謀職制定ノ上陸軍ノ二字ヲ削除シ二十四年勅令第百七十五號ヲ以テ陸地測量部條例ヲ改正ス)

御名 御璽

勅令第二十五號

參謀職制

- 第一條 參謀將校ハ高等將帥ノ職務ヲ輔佐シ殊ニ戰術及ヒ戰略ニ關スル機務ヲ參畫スルヲ任トス(同上)
- 第二條 參謀將校ハ參謀總長之ヲ統轄シ參謀本部監軍部近衛及ヒ師團參謀部ニ於テ服事セシム(同上勅令ヲ以テ陸軍參謀將校ハ參軍之ヲ統轄シ陸軍云々トアルヲ參謀將校ハ參謀總長之ヲ統轄シ云々ノ十四字ニ改ム)
- 第三條 參謀本部ノ參謀將校ハ參謀總長ニ隸シ出師ノ計畫國防及作戰ノ計畫並外國軍事ノ調査ニ係ル事務ヲ分擔ス(同上起頭陸軍ノ二字ヲ削リ參謀將校ハ)
- 第四條 監軍部ノ參謀將校ハ監軍ニ隸シ部事ヲ擔任ス(本部長トアルヲ參謀總長ノ四字ニ改ム)
- 第五條 近衛及師團參謀將校ハ都督師團長ニ隸シ該司令部ノ事務殊ニ師團出戰整備並機動演習ニ關スル事務ヲ整理スルヲ任トス
- 第六條 參謀本部附屬參謀將校ハ其所屬長官ニ隸シ各其定ムル所ノ職務ニ服ス(同上起頭削ル)
- 第七條 參謀ノ職ニ補シ得ル者ハ諸兵科ノ大尉以上ヲ以テスルヲ例トシ左ノ資格ヲ有ス

ル者ヨリ選拔ス

- 其一 陸軍大學校ヲ卒業シタル參謀適任ノ將校ニシテ卒業後一年以上隊附服務ヲナシタルモノ
  - 其二 全軍中才能衆ニ秀タル將校ニシテ本職ニ適任ナルモノ
- 第八條 參謀將校ハ時々軍隊ニ轉任セシメ其伎倆卓越ナレハ所要ニ應シ再ヒ參謀部ニ轉入セシム
- 第九條 參謀將校ヲシテ職務ニ完熟セシムル爲メ參謀本部監軍部ノ參謀將校ト近衛及師團參謀將校トハ便宜交任セシムルヲ法トス
- 第十條 參謀將校ノ進級ハ陸軍武官進級條例ニ依テ之ヲ律ス

參謀官定員表

官等	官等				計
	大佐	中佐	少佐	大尉	
參謀本部	二	十		六	十八
監軍部	一			一	三
近衛師團參謀部	七	七	七	七	二十一
合計	四十	十七	七	十四	七十二

一本表定員ノ外陸軍大學校長同校兵學教官陸軍省(總務局第三課長)屯田兵本部參謀及各國公使館附將校東宮武官佐尉官各一名ハ參謀本部附屬參謀

備考

將校トス(二十二年勅令第百十九號ヲ以テ本  
項中東宮武官云々ノ十字ヲ加フ)  
ニ戰時ハ各師團參謀部ニ大尉一名ヲ増加ス之カ爲メ參謀本部ノ人員ヲ減ス  
ルコトヲ得而テ此缺員ハ必要ナレハ出任將校ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得

○監軍部條例 二十年五月三十一日 勅令第十八號

朕監軍部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十八號

監軍部條例

- 第一條 監軍部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍軍隊練成ノ齊一ヲ規畫セシム
- 第二條 監軍部ニ監軍一人ヲ置キ大將若クハ中將ヲ以テ之ニ親補シ直ニ  
天皇陛下ニ隸ス(二十三年勅令第百八十號ヲ以テ本條中改正ス)
- 第三條 監軍部ニ幕僚ヲ置キ幕僚ヲ參謀部及副官部ニ分ツ
- 第四條 幕僚ニ參謀長一人ヲ置キ少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ補ス
- 第五條 參謀部ニ中(少)佐及大尉各一人副官部ニ少佐大尉各一人ヲ置キ其下ニ書記五人ヲ  
附ス(二十三年五月勅令第七十號ヲ以テ本條中改正ス)
- 第六條 監軍ノ下ニ將校學校監一人ヲ置キ少將ヲ以テ之ニ補シ騎兵監一人ヲ置キ少將若ク  
ハ騎兵大佐ヲ以テ之ニ補シ野戰砲兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ要

塞砲兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ工兵監一人ヲ置キ少將若クハ工  
兵大佐ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監一人ヲ置キ輜重兵大(中)佐ヲ以テ之ニ補ス(二十三年八月勅令  
月勅令第百十號ヲ以テ本條中改正ス)

第七條 將校學校監ノ下ニ副官二人ヲ置キ中少佐及大尉ヲ以テ之ニ補シ騎兵監ノ下ニ副官  
二人ヲ置キ騎兵少佐及騎兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ各砲兵監ノ下ニ副官二人宛ヲ置キ砲兵  
少佐及砲兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ工兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ工兵少佐及工兵大中尉ヲ  
以テ之ニ補シ輜重兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ輜重兵大中尉ヲ以テ之ニ補ス(二十三年五月勅  
令第七十八號及  
同年九月勅令第百十號  
ヲ以テ本條中改正ス)

第八條 將校學校監ハ諸將校學校ノ教育ヲ統轄シ士官學校及幼年學校ヲ管轄ス但陸軍大學  
校ハ當分ノ内參謀本部ノ管轄ニ屬ス

第九條 戶山學校及教導團ハ直ニ監軍ノ管轄ニ屬ス

第十條 騎兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍乘馬學  
校ヲ管轄ス(二十一年五月勅令第三十號  
六號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第十一條 野戰砲兵監ハ野戰砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ  
砲兵會議砲兵射的學校ヲ管轄ス(二十三年五月勅令第七十八號及同年九  
月勅令第百十號ヲ以テ本條中改正ス)

第十二條 要塞砲兵監ハ要塞砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ  
砲兵會議砲工學校要塞砲兵幹部練習所ヲ管轄ス(二十三年九月勅令第百  
十號ヲ以テ本條ヲ追加ス)

第一類 第三章 陸軍省 監軍部

第十三條 工兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ工兵會議  
砲工學校ヲ管轄ス(二十三年勅令第七十八號ヲ以テ本條中改正ス)  
第十四條 輜重兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌ル  
第十五條 監軍ハ勅ヲ奉シ檢閲使ト爲リ軍隊ノ檢閲ヲ行フ其法陸軍軍隊檢閲條例ニ詳悉ス

○陸地測量官官制(上同) 二十二年三月十四日 勅令第三十四號  
朕陸地測量官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十四號

陸地測量官官制

第一條 陸地測量ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸地測量官ヲ置ク  
第二條 陸地測量官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ陸地測量部長ノ指揮監督ヲ承ク  
第三條 陸地測量官ヲ分テ陸地測量師及陸地測量手トス  
第四條 陸地測量師ハ奏任トシ陸地測量手ハ判任トス  
○陸地測量部條例二十四年八月十七日 勅令第七十五號  
朕陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十五號

陸地測量部條例

第一條 陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シ兵要地圖及一般ノ國用ニ充ツ可キ内國圖ヲ製造修正シ其他量地ニ關スル事ヲ掌ル所トス  
第二條 陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分チ又別ニ修技所ヲ置ク  
第三條 陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク

- 部長 各兵科大佐
- 事務官 各兵科少佐及尉官
- 材料主管 各兵科大尉
- 軍吏 一(一)等軍吏
- 科長 各兵科中(少)佐
- 科僚 各兵科中尉或少尉
- 班長 各兵科少佐或大尉
- 班員 各兵科大中小尉或相當陸地測量師及陸地測量手
- 修技所幹事 各兵科大尉

第一類 第三章 陸軍省 陸地測量官 陸地測量部

修技所教官 各兵科大中小尉或相當陸地測量師

修技所助教 陸地測量手

第四條 部長ハ參謀總長ニ隸シ部事ヲ整理シ及陸地測量官養成ノ責ニ任ス

第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ受ケ部内ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第六條 材料主管ハ部長ノ命ヲ受ケ器具材料及圖籍ノ整理ニ任シ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第七條 軍吏ハ部長ノ命ヲ受ケ會計一般ノ規定ニ據リ部内ノ會計物品ノ購買供給ヲ掌リ其下ニ書記或ハ陸軍屬ヲ置ク

第八條 三角科ハ量地ノ事ヲ管シ三角測量及水準測量ヲ施行シ諸測量ノ基點ヲ設爲シ地形科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造修正シ製圖科ハ諸地圖ヲ製造シテ製版印刷スルヲ掌ル

第九條 修技所ハ陸地測量官ヲ養成スルノ所ニシテ測量手タル學生及生徒ヲ置ク其教授科目ハ陸地測量部長之ヲ定ム

第十條 科長ハ部長ノ指揮監督ヲ受ケ班長以下ニ職務ヲ課シ各其科ノ整理ニ任ス

第十一條 科僚ハ科長ノ命ヲ受ケ科内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十二條 班長ハ科長ノ命ヲ受ケ其班員以下ニ職務ヲ課シ各班ノ事業ヲ管理ス

第十三條 班員ハ上官ノ命ヲ受ケ各其業務ヲ分掌ス

第十四條 科長ハ陸地測量官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十五條 修技所幹事ハ部長ノ命ヲ受ケ學生及生徒ノ養成ニ任シ所内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十六條 修技所教官及助教ハ部長ノ命ヲ受ケ學術科ノ教授ヲ分掌ス

第十七條 修技所教官ハ定員ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ兼勤セシメ若クハ學識アル者ヲ選ヒテ之ニ囑托スルヲ得

附 則 (二十四年九月勅令第百八十號ヲ以テ本項以下追加ス)

第十八條 本條例施行前ヨリ陸地測量部ニ出仕スル准士官及各兵下士ハ當分使用スルコトヲ得

○陸軍編修官官制 二十三年六月三日 勅令第八十九號

朕陸軍編修官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

勅令第八十九號

陸軍編修官官制

第一條 兵要戰史地誌政表編修ノ業務ニ従事セシムル爲メ陸軍編修官ヲ置ク

第二條 陸軍編修官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ參謀總長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條 陸軍編修官ヲ分テ陸軍編修及陸軍編修書記トス

第一類 第三章 陸軍省 陸軍編修官



第四條 陸軍編修ハ奏任トシ陸軍編修書記ハ判任トス

第五條 陸軍編修官ノ定員ハ左ノ如シ

編修 四人

編修書記 十四人

○陸軍砲兵會議條例 二十四年六月八日 勅令第五十六號

朕陸軍砲兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十六號

陸軍砲兵會議條例

第一條 陸軍砲兵會議ハ之ヲ東京ニ置キ兵器彈藥國防ニ關スル砲兵事業砲兵ノ教育及技

術ニ關スル事項ヲ審查議定スル所トス

第二條 陸軍砲兵會議ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其砲兵教育ノ事ニ關シテハ直ニ監軍ニ隸ス

第三條 陸軍砲兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長

議員

臨時議員

幹事

審查官

第四條 議長ハ野戰砲兵監要塞砲兵監ノ内故參ノ者ヲ以テ兼補ス

第五條 議員ハ野戰砲兵監要塞砲兵監ノ内一人及砲兵科佐官ニシテ本職アル者ヲ以テ兼補ス

臨時議員ハ議事ノ必要ニ依リ本職アル各兵科各部上長官或ハ陸軍技師ヲ以テ之ニ充ツ

此議員ハ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命ジ議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第六條 議長ハ會議ヲ開キ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第七條 議員ハ會議ニ列シ議案ヲ議定ス

第八條 幹事ハ砲兵大中佐ノ内ヲ以テ之ニ補ス議長ヲ輔佐シ審查官ノ業務ヲ指揮監督シ

議案ヲ掌理シ會議ノ庶務ヲ擔任ス

第九條 審查官ハ砲兵科佐官尉官ヲ以テ之ニ補ス命ヲ議長ニ承ケ第一條ニ掲クル事項ヲ

審查研究スルヲ以テ任トス但業務ニ關シテハ幹事ノ指揮監督ヲ受ク

第十條 第三條ニ掲クル職員ノ外會議ニ砲兵上等監護砲兵科下士並屬、技手ヲ置ク各上

官ノ指揮ヲ受ケ工術及庶務ニ從事ス

第十一條 議案ハ陸軍大臣ヨリ議長ニ下シ議長ハ會議ヲ開キ審議議定ノ上覆申スルモノ

トス

教育ニ關スル議案ハ監軍直ニ議長ニ下ス其他ノ手續ハ前項ニ同シ

第一類 第三章 陸軍省 陸軍砲兵會議

百七十九

第十二條 前條議案ヲ受ケタルトキ議長ハ之ヲ審査官ニ下シ審査研究セシメ檢定ノ上之ヲ會議ニ付スヘシ

議案ノ性質ニ依リ會議ニ付スルヲ要セスト認ムルモノアルトキハ直ニ覆申スルコトヲ得

第十三條 議長ハ第一條ニ掲クル事項ノ範圍内ニ於テ必要ト思考スル事柄ハ審査官ニ命シテ審査研究セシメ又ハ會議ヲ開キ議定セシメ其意見ヲ建議スルコトヲ得

第十四條 凡ソ議事ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニ依ル

第十五條 試験等ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及ヒ當該兵監ニ協議シ之ヲ使用スルコトヲ得

第十六條 議長不在ナルトキハ幹事其事務ヲ代理シ議事ニ方リ議長不在ナルトキハ議員中高級故參ノ者議長ノ代理ヲ爲スヘシ

○陸軍工兵會議條例 二十四年六月八日 勅令第五十七號

朕工兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十七號

陸軍工兵會議條例

第一條 陸軍工兵會議ハ之ヲ東京ニ置キ工兵器具材料國防ニ關スル工兵事業工兵ノ教育

及技術ニ關スル事項ヲ審查議定スル所トス

第二條 陸軍工兵會議ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其工兵教育ノ事ニ關シテハ直ニ監軍ニ隸ス

第三條 陸軍工兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長

議員

臨時議員

幹事

審査官

第四條 議長ハ工兵監ヲ以テ兼補ス

第五條 議員ハ工兵科佐官ニシテ本職アル者ヲ以テ兼補ス

臨時議員ハ議事ノ必要ニ依リ本職アル各兵科各部上長官或ハ陸軍技師ヲ以テ之ニ充ツ此議員ハ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命シ議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第六條 議長ハ會議ヲ開キ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第七條 議員ハ會議ニ列シ議案ヲ議定ス

第八條 幹事ハ工兵大中佐ノ内ヲ以テ之ニ補ス議長ヲ輔佐シ審査官ノ業務ヲ指揮監督シ議案ヲ掌理シ會議ノ庶務ヲ擔任ス

第一類 第三章 陸軍省 陸軍工兵會議

第九條 審査官ハ工兵科佐官尉官ヲ以テ之ニ補ス命ヲ議長ニ承ケ第一條ニ掲クル事項ヲ

審査研究スルヲ以テ任トス但業務ニ關シテハ幹事ノ指揮監督ヲ受ク

第十條 第三條ニ掲クル職員ノ外會議ニ工兵上等監護工兵科下士並屬ヲ置ク各上官ノ指

揮ヲ承ケ工術及庶務ニ従事ス

第十一條 議案ハ陸軍大臣ヨリ議長ニ下シ議長ハ會議ヲ開キ審議議定ノ上覆申スルモノ

トス

教育ニ關スル議案ハ監軍直ニ議長ニ下ス其他ノ手續ハ前項ニ同シ

第十二條 前條議案ヲ受ケタルトキ議長ハ之ヲ審査官ニ下シ審査研究セシメ檢定ノ上之

ヲ會議ニ付スヘシ

議案ノ性質ニ依リ會議ニ付スルヲ要セスト認ムルモノアルトキハ直ニ覆申スルコトヲ得

第十三條 議長ハ第一條ニ掲クル事項ノ範圍内ニ於テ必要ト思考スル事柄ハ審査官ニ命

シテ審査研究セシメ又ハ會議ヲ開キ議定セシメ其意見ヲ建議スルコトヲ得

第十四條 凡ソ議事ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニ依

ル

第十五條 試験等ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及ヒ當該兵監ニ協議シ之ヲ使

用スルコトヲ得

第十六條 議長不在ナルトキハ幹事其事務ヲ代理シ議事ニ方リ議長不在ナルトキハ議員

中高級故參ノ者議長ノ代理ヲ爲スヘシ

○陸軍衛生會議條例二十一年十二月廿四日 勅令第九十五號

朕陸軍衛生會議條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十五號

陸軍衛生會議條例

第一條 陸軍衛生會議ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省醫務局長ニ隸シ陸軍ノ衛生事項ヲ議定スル所トス

第二條 會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長	軍醫監	一人
事務官	一等軍醫若クハ二等軍醫	二人
議員		若干人

第三條 議長事務官ハ各本職アル者ヲ以テ兼補ス

第四條 議員ハ衛生部上長官ニシテ本職アル者ヲ以テ兼補ス但第五條第二項ノ事ヲ議スルニ方リ醫務局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ各兵科並ニ監督部獸醫部上長官或ハ陸軍教授陸軍技師ニ臨時議員ヲ命セラレンコトヲ陸軍大臣ニ具申シ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命ス臨時議員ハ其議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第一類 第三章 陸軍省 陸軍衛生會議

第五條 議事ヲ別テ二種トス

一 衛生部内又ハ醫學的ニ關スル事項

二 軍部一般ニ渉ル衛生ノ事項

第六條 議長ハ議事ヲ整理シ會議諸般ノ事務ヲ總理ス

第七條 事務官ハ會議ニ關スル庶務ヲ分擔ス

第八條 議事ニ當リ議長不在ナルトキハ議員中衛生部上長官ニシテ高級ノ者議長ノ代理ヲ爲スヘシ

第九條 議案ハ醫務局長ヨリ發スルモノ又ハ會議ノ立案ヨリ成ルモノトス但會議ノ立案ニ係ルモノハ豫メ醫務局長ノ承認ヲ受クヘシ

第十條 凡ソ議事ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十一條 議決ノ上ハ其議決書ヲ醫務局長ニ進達スルモノトス

第十二條 物件ノ試験又ハ摸範等製造ハ爲メ費用ヲ要スルトキハ其理由ヲ悉シ豫算書ヲ

添ヘテ醫務局長ニ具申スヘシ

第十三條 會議常用ノ諸物品ハ醫務局長ヨリ之ヲ支給ス

○臨時砲臺建築部官制

十九年十一月三十日 勅令第七十六號

朕臨時砲臺建築部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十六號

臨時砲臺建築部官制

第一條 臨時砲臺建築部ハ東京ニ置キ陸軍省ニ隸シ全國樞要ノ地ニ砲臺ヲ建築スルコトヲ掌ル

第二條 臨時砲臺建築部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 一人

事務官 若干員

技師 若干員

技手 若干員

書記 若干員

第三條 部長ハ陸軍將官ヲ以テ之ニ充テ事務官ハ陸軍上長官士官書記ハ陸軍下士屬ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 部長ハ砲臺建築ノ事務ヲ總理ス

第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ承ケ其事ニ從ヒ書記ハ事務官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 技師技手ハ技術上ノ事ニ任シ又各部ノ工事ニ從事ス

第七條 建設砲臺ノ位置並其制式兵備ノ要領等ヲ陸軍大臣參謀總長協議決定ノ後之ヲ建

築部ニ下シ工事ニ從事セシム

(二十二年三月陸軍省令第五號ヲ以テ本條中改正ス)

第一類 第三章 陸軍省 臨時砲臺建築部

第八條 陸軍工兵方面ハ砲臺建築ノ工事ニ就テハ建築部ニ從屬シテ部長ノ指揮ヲ承クル  
モノトス

第九條 砲臺建築ノ事ニ係リ地方廳其他ニ往復スルハ建築部長ノ名ヲ以テスヘシ

○陸軍將校生徒試験委員條例 二十年十二月廿八日 勅令第八十一號  
朕陸軍將校生徒試験委員條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第八十一號  
御名 御璽

陸軍將校生徒試験委員條例  
第一條 試験委員ハ士官學校生徒ノ將校試験、幼年學校生徒ノ終末試験、士官候補生幼年

學校生徒志願者ノ試験及ヒ一年志願兵志願者ノ學術試験ヲ行フモノニシテ將校學校監

ニ隸ス (二十二年三月十一日勅令第三十一號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第二條 試験委員ヲ常置スルコト左ノ如シ  
委員長 大佐 一名

委員 中少佐 八名 大尉 九名

第三條 將校學校監ハ委員ヲシテ各種ノ試験ヲ分擔セシメ委員長ヲシテ之ヲ統監セシム

第四條 前條ニ掲クル委員ノ外所要ニ應シ臨時委員ヲ命シ委員長ノ下ニ屬セシム

第五條 各種試験ノ時期ニ際シ書記トシテ下士若クハ陸軍屬若干名ヲ試験委員ノ下ニ屬ス

第六條 委員長以下總テ他ニ本職アル者ヲ以テ之ニ兼補スルモノトス

○陸軍司計部條例 二十三年三月二十七日 勅令第五十七號

朕陸軍司計部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十七號

陸軍司計部條例

第一條 陸軍司計部ハ東京及各地師團監督部所在地ニ之ヲ置キ陸軍經費ノ計算及報告ノ事ヲ掌ル所トス

第二條 陸軍司計部ハ東京ニ在ルモノヲ陸軍中央司計部ト稱シ各地師團監督部所在地ニ在ルモノヲ某地陸軍司計部ト稱ス

第三條 陸軍中央司計部ニ左ノ職員ヲ置ク  
主管 一等軍吏 一人

計算官 二二等軍吏 五人

第四條 某地陸軍司計部ニ左ノ職員ヲ置ク  
主管 一等軍吏 一人

計算官 二二等軍吏 一人

第五條 陸軍中央司計部主管ハ會計局長ニ隸シ某地陸軍司計部主管ハ當該監督部長ニ隸

第一類 第三章 陸軍省 陸軍將校生徒試験委員 陸軍司計部

ス但陸軍中央司計部ハ陸軍省各局課又ハ近衛及第一師團監督部ニ係ル事ニ於テハ當該課長又ハ監督部長ノ命ヲ承ク

第六條 主管ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第七條 計算官ハ主管ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第八條 第三條第四條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士若干人ヲ置ク

○陸軍經營部條例二十三年三月二十七日 勅令第五十九號

朕陸軍經營部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十九號

陸軍經營部條例

第一條 陸軍經營部ハ近衛及師團監督部所在地ニ之ヲ置キ陸軍所屬ノ陣營解舍倉庫竝地所ヲ管理シ建築修繕ノ事ヲ擔任シ且營繕ニ係ル總テノ經理ヲ掌ル所トス但砲兵工兵科ニ屬スルモノハ此限外トス

第二條 陸軍經營部ハ近衛監督部所在地ニ在ルモノヲ近衛經營部ト稱シ師團監督部所在地ニ在ルモノヲ某地陸軍經營部ト稱ス

第三條 經營部ニ左ノ職員ヲ置ク  
主管 一等軍吏 一人

計算官 二二三等軍吏 一人

建築官 四五六等技師 一人

第四條 主管ハ當該監督部長ニ隸シ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第五條 計算官建築官ハ主管ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第六條 第三條ニ掲クル職員ノ外技手若クハ屬若干人ヲ置ク

○陸軍大學校條例二十四年八月十二日 勅令第七十一號

朕陸軍大學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十一號

陸軍大學校條例

第一條 陸軍大學校ハ陸軍各兵科ノ士官ヲ撰拔シテ高等兵學ヲ教授シ參謀其他樞要ノ職務ニ充ツヘキ者及ヒ高等指揮官トナルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク  
校長 參謀大佐  
副官 各兵科大中尉  
庶長 騎兵科尉官  
獸醫

第一類 第三章 陸軍省 陸軍經營部 陸軍大學校

軍吏

兵學教官 參謀佐尉官

教官 各兵科佐官若クハ大尉

同 監督部上長官若クハ監督補

同 衛生部上長官若クハ一等軍醫

同 獸醫(校附獸醫ヲ以テ兼動セシム)

同 陸軍教授

第三條 諸教官ハ前條掲クル所ノ外他ニ本職アル者ヲシテ兼務セシムルヲ得

第四條 第二條職員ノ外下士及ヒ屬若干ヲ置ク

第五條 校長ハ參謀總長ニ隷シテ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ事務ヲ分掌シ庶長ハ校庶ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス

第七條 兵學教官及ヒ教官ハ學術ノ教授ヲ分擔シ又時トシテハ翻譯ニ從事セシムルコトアリ

第八條 本校學生ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ撰拔シ毎年二十名以内ヲ入學セシム

各兵科ノ中少尉ニシテ二年以上五月盡日調 隊務ニ服シ身體強健、勤務精勵、氣節アツテ識量ニ富ミ且學術才幹卓越ニシテ將來充分發達スヘキ判斷力ヲ有スル者

第九條 聯隊長獨立隊ニ在テハ其隊長校團其他ニ在テハ其所屬長以下倣之ハ前條ノ資格アル者ヲ撰拔シ學生候補名簿ヲ製シ

順序ヲ經テ所管長官ニ呈ス同長官ハ之ヲ取捨シテ撰拔順次名簿兵科及階級ニ關セスヲ製シ候補名

簿ヲ併セテ六月盡日限り參謀總長ニ進達ス

第十條 聯隊長ハ學生候補者ノ性行才能ニ關シテハ特ニ擔保ノ責ニ任ス

第十一條 參謀總長ハ候補者ノ學力ヲ檢定スル爲メニ試験委員ヲ設ケテ校長ヲ委員長ト

ナシ以テ左ノ試験ヲ行フ

其一 初審試験

其二 再審試験

初審試験ハ候補者ノ學識如何ヲ檢定スルモノニシテ毎年七月問題ヲ封緘シ所管長官ニ送付ス同長官ハ候補者ヲ集メ參謀或ハ次官ノ監視ヲ以テ之カ答解ヲ筆記セシメ八月十五日マテニ參謀總長ニ進達ス但該試験ハ全國同日ニ行フモノニシテ參謀總長豫メ其日時ヲ示定ス

再審試験ハ其學力ノ活用如何ヲ檢定スルモノニシテ參謀總長受験人名ヲ示定ス各所管長官ハ其受験者ヲ大學校ニ派遣ス

學生ノ試験課目ハ參謀總長ノ移牒ニ由リ毎年二月陸軍大臣之ヲ告示ス

第十二條 參謀總長前條ノ試験ヲ以テ優劣者ヲ決定シ入學ヲ命ス

第十三條 學生ノ入學期ハ十二月上旬ヲ以テシ本校ノ修學期限ヲ三箇年トス乃チ毎年十

二月ヨリ翌年十一月マテヲ逐次ニ第一第二第三學年ト稱ス但疾病ノ爲メニ缺課多キモ

ノニ在リテハ更ニ一箇年滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 校長ハ學生入學ノ後ニ其資格不適合ト認ル者アルトキハ參謀總長ニ具狀ス參謀總長ハ之ヲ查覈シ退學セシムルコトアルヘシ

第十五條 學生ハ校外ニ居住シ通學セシム  
學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ル、コトナシ但入學中願屆其他業務上ニ關シテハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條 學生ノ學用品ハ自辨トス但授業ノ種類ニ由リ物件ヲ支給シ或ハ之ヲ貸與スルコトアルヘシ

第十七條 學生ヲシテ毎年七八月ノ際ニ隊附服務セシム但第二學年者ニアリテハ尙ホ其年附屬セシ軍隊ノ秋季演習ニ從事セシム

學生ハ隊附服務中勤務上ニ關シテハ其隊長ニ隸ス

第十八條 學生隊附服務中ハ當該隊長學生ニ對シ懲罰ヲ科スルノ權ヲ有ス  
當該隊長ハ學生隊附服務ヲ終レハ其成績ヲ校長ニ申報ス

第十九條 校長ハ各學期ノ終ニ於テ武官教官ヲ會集シ學生ノ修學結果及ヒ技倆ヲ審査シ  
第一第二學年者ニアリテハ其修學結果ヲ第二學年者ニアリテハ技倆證明書並優劣順次名簿ヲ參謀總長ニ呈ス

第二十條 學生ノ卒業者ニハ卒業證書及ヒ之ヲ表彰スヘキ徽章ヲ附與ス

第二十一條 學生卒業ノ上ハ隊附ノ者ニアリテハ直チニ原隊ニ復歸セシメ隊外ノ者ニア

リテハ其所管ニ復歸ノ後直チニ隊附ヲ命ス

陸軍大學校學生候補名簿

隊				年 附 服 務 數	賞	陸軍 出身	族 籍	所管職官姓名
體 格	性 質	品 行	才 能					
何々	何々	何々	何々					
					罰	戰 役	年 齡	



隊長所見ハ專ラ本  
 條第九條ノ精神ニ基  
 十一條ノ精神ニ基  
 キ記載スルモノニ  
 シテ其式ハ概ネ  
 考科表規則ノ要旨  
 二從ヒ氣概風采動  
 作等其細人ノ至  
 ルマテ其爲人ノ細  
 二識別シ得ル如ク  
 寫出スルヲ緊要ト  
 ス故ニ例ハ學術  
 ノ區畫ニ於テ何學  
 ハ上或ハ中ト記ス  
 ル如キハ其優劣ノ  
 程度ヲ判スルニ足  
 ラサルヲ以テ普通  
 學ハ高等中學卒業  
 者ニ均シ或ハ演習  
 ハ左國史漢ヲ並徵  
 シ其大意ニ通シ又  
 或ハ兵學ハ何書ヲ  
 諳シ之ヲ活用スル  
 ヲ得ルトカ記スル  
 カ如シ他之ニ準ハ  
 且證左アルモノハ  
 之ヲ記スヘシ

年 月 日	見 所 長			
	學 術	勤 務	言 語	特 有 技 能
年 月 日	何 々	何 々	何 々	何 々
茲ニ記名ス	本職ノ所見トシテ記載スル件々ハ特ニ擔保ノ責ニ任ス仍テ			
年 月 日	聯(大)隊長 姓 名印			
右陸軍大學校學生候補ニ適當スルコトヲ確認ス	所管長官 姓 名印			

○陸軍士官學校條例

二十二年六月十日 勅令第八十一號

朕陸軍士官學校官制ヲ廢止シ陸軍士官學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第八十一號

陸軍士官學校條例

第一條 陸軍士官學校ハ陸軍各兵科ノ士官候補生ヲ召集シテ生徒トナシ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 大佐 一人
- 次長 中佐若クハ少佐 一人
- 副官 大尉 一人
- 教官 少佐三人 大尉二十八人 軍醫一人
- 馬術教官 獸醫一人 陸軍教授六人
- 中隊長 大尉 一人
- 中隊附士官中尉 大尉 一人
- 軍吏 十六人
- 軍醫 一人
- 第一類 第三章 陸軍省 陸軍士官學校 二人

但内一人ハ教官ヲ兼務スルモノトス

二八

獸醫

但内一人ハ教官ヲ兼務スルモノトス

教官ハ定員ノ外他ニ本務アル者ヲシテ兼勤セシムルコトヲ得

第二條 本校ニ所要ノ馬匹及材料ヲ備フ

第四條 校長ハ將校學校監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第五條 次長ハ校長ヲ補佐シ校中一切ノ事務ヲ監視ス

第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官及下士陸軍屬若干員ヲ置ク

第七條 武官教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔シ其少佐ノ教官ヲ以テ科長トス

第八條 馬術教官ハ諸生徒ノ馬術及騎兵生徒ノ教練ニ任シ兼テ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹

ノ調教ヲ掌理ス其下ニ騎兵科下副官同下士若干員ヲ置ク

第九條 武官教官ハ野外演習等ヲ行フ時ハ某部隊ヲ統轄セシムルコトアルヘシ

第十條 文官教官ハ學科ノ教授ヲ分擔セシム而シテ教授ノ外助教若干員ヲ置ク

第十一條 教官ハ教授上生徒ニ罰科トシテ別ニ課業ヲ與フルコトヲ得

第十二條 中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲ

シテ諸勤務ニ熟セシメ且内務及室内ノ整頓並ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任トス

第十三條 中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ生徒訓育ノ細務ニ從事シ殊ニ生徒ノ身上ニ就

テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス

但騎兵科士官ハ諸生徒ノ馬術及騎兵科生徒ノ教練上ニ就テハ馬術教官ニ隸ス

第十四條 中隊附士官ハ總テ校内ノ官舎ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム

第十五條 各中隊ニ下副官及下士若干員ヲ置キ下副官ハ中隊ノ諸務ヲ整理シ下士ハ武

器被服諸給與炊爨其他屋舎内外清潔ノ事ヲ掌リ並ニ體操劍術ノ助教ヲ分擔ス又兵卒

若干員ヲ各師團各隊ヨリ分遣セシメ候補生ノ使用ニ供フ

第十六條 軍吏ノ下ニ書記若干員軍醫ノ下ニ看護長及看病人若干員獸醫ノ下ニ蹄鐵工長

若クハ下長及蹄鐵工若干員ヲ置ク

第十七條 本校生徒ノ學期ヲ一箇年半トシ毎年十二月上旬ニ始リ翌々年五月下旬ニ終ル

モノトス

第十八條 本校生徒ハ二中隊ニ編成シ各中隊ハ同學期ノ生徒ヲ以テス

第十九條 本校生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其科目ハ將校學校監ノ定ムル所ニ

據ル

第二十條 本校生徒ハ其兵籍素ヨリ本隊ヲ離ルハコトナシト雖モ入校中ハ總テ本校ノ管

轄トス

第二十一條 本校生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ據ル

第二十二條 本校生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第一類 第三章 陸軍省 陸軍士官學校

第二十三條 本校生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校歸隊セシム  
其一 學術科ノ豫習全カラスシテ實際勤務上ノ識力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者

其二 品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者

其三 自己ノ不攝生ヨリ發病シ久シク休業スル者

其四 長病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

第二十四條 學期末ニ於テ生徒ノ將校試験ヲ施行ス此試験ニ及第セシ者ニハ本校教則卒業ノ證書ヲ附與シ且其成績優等ニシテ特ニ行狀方正ノ者ニハ褒賞ヲ與フ

第二十五條 學期中ノ諸結果劣等ノ爲メ將校試験ヲ受クルヲ得ス若クハ將校試験ニ落第セシ者ハ本條例第二十三條ニ據ル

第二十六條 毎年七月中旬ヨリ九月上旬マテノ間ニ於テ凡ソ六週間生徒ニ休暇ヲ與ヘ又此間ニ於テ適宜ニ校附諸官ニ休暇ヲ與フ

第二十七條 毎年六月全學期ヲ終リタル生徒歸隊ノ後ハ其教官、中隊長及中隊附士官ハ八月下旬マテノ休暇ヲ與ヘ而シテ九月上旬ヨリ十一月中旬マテノ間ハ近衛各師團各隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第二十八條 前條隊附勤務ヲ爲スニハ中隊長及中隊附士官ハ各本科ノ兵隊ニ限ルト雖モ教官ニ在テハ步騎砲工輜重兵隊中ニ就キ己レノ屬スヘキ兵隊ヲ希望スルコトヲ得

但騎砲輜重兵隊附ヲ希望スル者ハ第一師團ノ各該隊ニ限ル且之カ爲メ必要ノ時々

校厩ノ馬匹及馬具ヲ貸與スルコトヲ得

第二十九條 本校ニ於テ校馬全數ノ使用ヲ要セサルトキハ他ノ學校等ノ使用ニ供スルコトアルヘシ

○陸軍幼年學校條例 二十二年六月十日 勅令第八十二號

朕陸軍幼年學校官制ヲ廢止シ陸軍幼年學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽 勅令第八十二號

陸軍幼年學校條例

第一條 陸軍幼年學校ハ陸軍幼年生徒ニ概テ尋常中學ト同一ナル教授並ニ軍人ノ豫備教育ヲ與ヘ陸軍各兵科ノ士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 一人
- 副官 大尉 一人
- 中尉 一人
- 教官 陸軍教授 十七人
- 馬術教官 騎兵中尉 一人
- 中隊長 大尉 二人
- 中隊附士官 中尉 十二人

第一類 第三章 陸軍省 陸軍幼年學校

軍吏

一八

軍醫

一八

獸醫

一八

但獸醫ハ東京在職ノ者ヲ以テ兼務セシムルモノトス

第三條 本校ニ所要ノ馬匹及材料ヲ備フ

第四條 校長ハ將校學校監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第五條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬若干員ヲ置ク

第六條 教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔セシム而シテ教授ノ外助教若干員ヲ置ク

第七條 教官ハ他ニ本務アル者ヲ以テ兼勤セシメ若クハ學識アル者ヲ撰テ之ニ囑托スル

コトヲ得

第八條 馬術教官ハ生徒馬術ノ教練ニ任シ兼テ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌理ス

其下ニ騎兵科下士若干員ヲ置ク

第九條 中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲシ

テ諸勤務ニ熟セシメ且内務及室内ノ整頓並ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任トス

第十條 中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ生徒訓育ノ細務ニ從事シ殊ニ生徒ノ身上ニ就テ

ハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス

第十一條 中隊附士官ハ總テ校内ノ官舎ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム

第十二條 各中隊ニ下副官及下士若干員ヲ置キ下副官ハ中隊ノ諸務ヲ整理シ下士ハ武

器、被服、諸給與、炊爨其他屋舎内外清潔ノ事ヲ掌リ並ニ體操ノ助教ヲ分擔ス又喇叭卒若

干員ヲ置ク

第十三條 軍吏ノ下ニ書記若干員軍醫ノ下ニ看護長及看病人若干員獸醫ノ下ニ蹄鐵工長

若クハ下長及蹄鐵工若干員ヲ置ク

但蹄鐵工長若クハ下長ハ東京在職ノ者ヲ以テ兼掌セシム

第十四條 本校生徒ハ官費生、半官費生、自費生ノ三種ニ分ツ

第十五條 戰死シタル平時公務ノ爲メ不幸ニ死將校並ニ之ニ相當スル高等官ノ孤兒ハ官費生

トス

第十六條 前條ノ外官費生、半官費生、自費生ト爲スヘキ者ハ監軍之ヲ裁定ス

第十七條 前條ノ區分ハ專ラ資産ノ多少ヲ察知シ之ニ應シテ取捨スヘシト雖モ仍ホ左ニ

列記スル者ハ特ニ顧慮スヘシ但其六其七八官費生トナルコトヲ得ス

其一 在職將校少佐以下ノ兒子

其二 休職將校大佐以下ノ兒子

其三 豫備後備退役將校大佐以下ノ兒子

其四 死亡シタル將校並ニ之ニ相當スル高等官ノ兒子

其五 其一ノ將校ニ相當スル高等官及其二ノ將校ニ相當スル非職高等官ノ兒子

其六 既ニ仕官シアル兒子ヲ有スル在職將校少佐以上及休職將校大佐以上ノ他ノ兒子

其七

本校生徒修學期限ハ三箇年トス而シテ其一年期ハ九月上旬ニ始リ翌年六月下旬ニ終ル

但最終ノ一年期ハ翌年四月下旬ニ終ル

第十九條 本校生徒ハ全生徒ヲ二中隊ニ編成ス

第二十條

本校生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其科目ハ將校學校監ノ定ムル所ニ據ル

第二十一條 本校生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十二條 第三年生徒中特ニ學術ニ勉勵シ品行方正ニシテ他ノ望標トナルモノ若干員ヲ撰拔シ舍長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシム

第二十三條 學期末ニ於テ生徒ノ終末試験ヲ施行ス此試験ニ及第セシ者ニハ本校教則卒業ノ證書ヲ附與シ士官候補生トシテ軍隊ニ配賦ス就中學術品行共ニ優等ナルモノハ同時ニ二等軍曹ノ階級ニ進ムルコトアルヘシ

第二十四條 生徒中第二期ニ移ラサル以前ニ於テ豫メ定期内ニ卒業シ得サル者ト認ル者アルモ尙ホ望ミアル者ハ定期外一箇年間延期修學セシムルコトヲ得然ルトキハ監軍其人名ヲ陸軍大臣ニ移ス

修學三箇年ヲ超ヘサル者ニシテ學期中ノ諸結果劣等ノ爲メ終末試験ヲ受クルヲ得ス若クハ終末試験ニ落第セシ者ニシテ尙ホ望ミアル者ハ前項ニ據ル

第二十五條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム  
其一 品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者  
其二 全學期ノ教則ヲ卒業スルニ四年以上ヲ要スル者

但自己ノ不攝生ヨリ生セサル長病ニ原因スル者ハ特別ノ詮議ニ付ス  
第二十六條 前條其一及其ニ該ル者アルトキハ幼年學校長事由ヲ悉シ將校學校監ニ上申シ將校學校監ハ之ヲ查實シテ監軍ニ進達シ監軍之ヲ裁定處分ス

○陸軍戶山學校條例二十年十月十八日勅令第五十四號

朕陸軍戶山學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十四號

陸軍戶山學校條例

第一條 陸軍戶山學校ハ隊附將校下士ヲ分遣シ學生ト爲シ步兵戰術、射擊、體操並ニ劍術ノ原理ヲ研究セシメ且其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ常ニ内外戰術進歩ノ形況ヲ知悉シ步兵ノ教育一般ノ改良ヲ圖ルヲ目的トスル所トス

第二條 本校ニ戰術科學生射擊科學生體操科學生及教導大隊ヲ置ク

第一類 第三章 陸軍省 陸軍戶山學校

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(二十一年二月二十一日勅令第五號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

校長 步兵大佐 一人

次長 步兵中佐若クハ少佐 一人

副官 步兵大尉一人 步兵中尉 一人

教官 步兵少佐三人 步兵大尉十二人 步兵中尉十二人 一等軍醫一人

軍吏 二人

軍醫 三人

第四條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス(二十一年十一月十五日勅令第十七號ヲ以テ第五條ヲ削除シ以下各條ヲ繰上ク)

第五條 次長ハ校長ヲ輔佐シ專ラ教育ノ事ニ任シ兼テ校中ノ庶務及經理事務ヲ監視ス

第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬ヲ置ク

第七條 教官ハ各科ノ教授ヲ分擔シ教導大隊ノコトヲ兼攝ス

第八條 各科教官中高級ノ者一名ヲ其科長ト爲ス

第九條 教導大隊ノ大隊長ハ戰術科科長大隊附中隊長及中隊附士官ハ教官ヲ以テ之ヲ兼子シム但學生ヲ以テ其幹部ノ一部ニ充ツルコトアルヘシ

第十條 教官ノ下ニ教官補曹長(准士官)及助教曹長 一等軍曹 二等軍曹若干員ヲ置ク

第十一條 軍吏ノ下ニ書記及卒若干員軍醫ノ下ニ看護長及卒若干員ヲ置ク

第十二條 戰術科ハ步兵戰術活用上ノ教育ヲ完全ナラシムルヲ目的トシ步兵各聯隊ノ士官ヲ以テ其學生ト爲ス但時宜ニ依リ步兵少佐若クハ工兵士官ヲ以テ其學生ト爲スコトアルヘシ(二十一年十一月十五日勅令第十七號ヲ以テ本條中改正削除ス)

第十三條 射擊科ハ射擊教官ヲ育成スルヲ目的トシ歩兵士官及下士ニシテ其學術ニ適當ト認マル者ヲ撰拔シテ其學生ト爲ス(同)

第十四條 體操科ハ體操及劍術教官ヲ育成スルヲ目的トシ步騎砲工輜重兵科ノ少尉及下士ニシテ體格學術共ニ之ニ適當ト認マル者ヲ撰拔シテ其學生ト爲ス

第十五條 教導大隊ハ學生訓練ノ用ニ供スルモノトス其下士兵卒ハ步兵各聯隊ヨリ之ヲ分遣セシム

第十六條 戰術科學生ノ學期ハ一年一回トシ概テ十二月ニ始マリ五月若クハ六月ニ終ル(二十一年十一月十五日勅令第十七號ヲ以テ本條ヲ改正シニ)

射擊科學生ノ學期ハ一年一回トシ概テ一月ニ始マリ七月ニ終ル(同)

體操科學生ノ學期ハ一年二回トシ其第一回ハ概テ九月ニ始マリ十二月若クハ一月ニ終リ第二回ハ概テ二月ニ始マリ五月若クハ六月ニ終ル(同上改正並ニ)

第十七條 各科學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十八條 學生分遣ノ告達アレハ近衛都督「鎮臺司令官」ハ部下ノ聯隊長 獨立大隊ナレハ大隊長ヲシテ士官下士中身體強壯行狀方正勤務勉勵ノ者ニシテ第十三條乃至第十五條ノ目

的ニ適スヘキ者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前途ニ其名簿ニ考科表ヲ添ヘ戸山學校長ニ送達スヘシ

第十九條 學生士官ハ校外ニ其下士ハ校内ニ居住セシム

學生所要ノ兵器書籍器具消耗品ハ貸與スルモノアリ又支給スルモノアリ其下士ニ在テハ雜具ヲ貸與シ食料ハ原隊ヨリ之ヲ支給セシム

學生ノ旅費ハ士官下士ヲ論セス總テ本校ニ於テ之ヲ支給ス

第二十條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第二十一條 學生ノ俸給ハ原隊ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受授ヲ爲スモノトス

第二十二條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ヲ以テ卒業ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ例外トス

第二十三條 學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官ニアリテハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ都督、師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附スルモノトス但成績優等ノ者ハ別ニ褒賞ヲ與ルコトアルヘシ(二十二年十一月十五日勅令第百十七號ヲ以テ第二十三條ヲ削除シ以下條ヲ改正ス)

校長ハ更ニ學生修學ノ成績ヲ監軍ニ報告シ且ツ下士ニアリテハ其學術修學ノ證ヲ附與ス(同上ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第二十四條 學生下士ノ學術優等ノ者ヲ選抜シテ員外助教ヲ命シ學生下士ノ教授ヲ補助セシメ之ニ若干ノ増俸ヲ給シ校内ニ居住セシム

員外助教ノ命ヲ受ケタル者ハ每學期ノ終リニ於テ其半數ノミ歸隊セシム

第二十五條 教導大隊ノ下士及兵卒ハ六月若クハ七月ニ於テ其一半ヲ歸隊セシメ十一月ニ於テ之ヲ補充ス

第二十六條 教導大隊ノ下士ハ常備現役尙ホ二箇年以上ノ期アル一二等軍曹ニシテ勤務勉勵身體強壯行狀方正學術優等ノ者ヲ選抜分遣セシム而シテ教導大隊ニ於テ應分ノ教育ヲ受ケ原隊ニ復歸ノ後其教育ヲ隊中ニ及ホスヘキ見込アルモノナルヘシ(二十二年勅令第百十七號ヲ以テ本條改正)

第二十七條 教導大隊ノ兵卒ハ常備現役尙ホ一年九箇月ノ期アル上等兵及一二等卒ニシテ勤務勉勵行狀方正身體強壯ノ者ヲ選抜分遣セシム(同上)

第二十八條 教導大隊ノ下士兵卒ハ學生分遣中ニ於テハ歸省休暇等一切之ヲ許サス

第二十九條 教導大隊ノ下士兵卒ハ教導大隊ニ編入スト雖モ名簿ハ原隊ニ之ヲ存シ隨テ諸給與ハ原隊ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨シ且武器背囊ハ之ヲ携帶セシムヘシ其旅費消耗品ハ本校ニ於テ之ヲ支給ス

第三十條 教導大隊ノ下士兵卒ノ被服ニハ本校ノ經費ヲ以テ特別ノ徽章ヲ附着ス

第三十一條 教導大隊ノ內務ハ概シテ兵內務書ニ據リ施行スヘシ

○陸軍砲兵工科學舍條例(二十三年七月五日勅令第百二十號)

第一類 第三章 陸軍省 陸軍砲兵工科學舍

朕陸軍砲兵工科學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百十號

陸軍砲兵工科學舍條例

第一條 陸軍砲兵工科學舍ハ砲兵諸工専門ノ工術ヲ教授シ火工下士及鞍工銃工木工鍛工諸長ニ任用ス可キモノヲ敎成スル所トス

第二條 火工ハ砲兵隊上等兵中志願ノモノヲ選抜分遣シテ學生トナシ他ノ諸工ハ現役六箇月以上ノ各兵諸卒中志願ノ者ヲ選抜シテ生徒トナシ合シテ生徒隊ヲ編成ス

但諸工生徒ニ在テハ時宜ニ因リ一般人民ヨリ採用スルコトアル可シ

第三條 學舍ニ左ノ職員ヲ置ク

- 舍長 砲兵少佐 一人
- 副官 砲兵中尉 一人
- 生徒隊長 砲兵大尉 一人
- 生徒隊附士官 砲兵中尉 三人
- 一三軍軍吏 一人
- 一等軍醫 一人

第四條 舍長ハ東京砲兵工廠提理ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

舍長ハ東京砲兵工廠副提理ヲ以テ兼補ス

第五條 副官ハ舍中一般ノ庶務ヲ掌ル

第六條 生徒隊長ハ學生及生徒訓育ノ事ヲ掌リ隊附士官以下ヲ指揮シ隊中諸般ノ事務ヲ總理ス

第七條 生徒隊附士官ハ訓育ノ細務ニ從事シ學術ノ教授ヲ分擔シ殊ニ學生及生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルモノトス

第八條 本部及生徒隊ニ砲兵科下士若干人ヲ置キ其本部附下士ハ副官ノ下ニ在テ庶務ニ服シ生徒隊附下士ハ隊中ノ細務ニ從事セシム

軍吏ノ下ニ軍吏部下士軍醫ノ下ニ衛生部下士若干人ヲ置キ各其事ニ服セシム

第九條 前條ノ外陸軍助教若干人ヲ置キ圖畫授業ノ事ヲ擔任セシム

第十條 修業期限ハ學生ニ在テハ概ネ一箇年トシ生徒ニ在テハ概テ二箇年半トス但修業中疾病又ハ止ムヲ得サル事故アリテ定期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ延期スルヲ得

第十一條 學生及生徒各工科専門ノ實業ハ東京砲兵工廠ニ於テ之ヲ教授ス其生徒隊ノ内務ハ概テ軍隊内務ノ規定ニ依ル

第十二條 生徒召募ノ方法及學生生徒ノ人員ハ陸軍大臣之ヲ定メテ告達ス

第十三條 近衛都督師團長ハ召募ノ告達ニ依リ學生ニ在テハ砲兵隊長ヲシテ身體行狀學術等ヲ調査シ火工術ニ適當ノ者ヲ選抜セシメ入舍期十日日前マテニ其名簿ニ履歷書ヲ添

第一類 第三章 陸軍省 陸軍砲兵工科學舍



へ舎長ニ送達セシム

生徒ニ在テハ各隊長ヲシテ志願者中行狀方正ニシテ検査格ニ適スル者ヲ選抜セシメ其名簿ヲ舎長ニ送達セシム

第十四條 學生所用ノ書籍器具機械雜具消耗品並修業用ノ原料ハ貸與又ハ支給スルモノトス

第十五條 生徒修業ノ費用其他被服食料旅費等ハ一切官給トシ且若干ノ手當金ヲ給ス

第十六條 學生分遣入舎中願屆等ニ關スル事件ハ總テ舎長ノ管理ニ屬ス

第十七條 學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退舎スルヲ許サス然レトモ傷病疾病其他ノ事故ニ依リ卒業ノ目途無キ者ハ退舎セシム其諸卒ヨリ入舎ノ生徒ニ在テハ永久服役ニ堪ヘサル者ヲ除クノ外總テ原兵科ニ復シ舊所管ニ於テ前役入舎中ノ日ヲ通算シ定規ノ年限間現役又ハ豫備役又ハ後備役ニ服セシム

第十八條 學期末ニ於テ終末試験ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與シ學生ハ卒業ノ後原隊ニ復歸シ更ニ三年間現役ニ服セシメ該隊ニ於テ缺員アル毎ニ火工二等軍曹ニ任シ生徒ハ卒業後直ニ工下長ニ任ス

○陸軍砲工學校條例二十二年五月三十一日 勅令第七十六號  
朕陸軍砲工學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十六號

陸軍砲工學校條例

第一條 陸軍砲工學校ハ砲工兵中少尉ニシテ二箇年以上隊務ニ服シ其勤務ニ慣熟シタル者ヲ分遣シテ學生トナシ以テ各本科専門ノ勤務ニ必要ナル學術ノ教育ヲ完全ナラシムルヲ以テ目的トス

第二條 本校ニ厩ヲ置キ所要ノ馬匹ヲ備フ

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 砲兵若クハ工兵大佐 一人

次長 砲兵若クハ工兵中佐 一人

副官 砲兵若クハ工兵大尉一人同中尉二人

教官 參謀佐官若クハ大尉ノ内二人砲兵科佐官若クハ大尉ノ内五人工兵科佐官若クハ大尉ノ内五人騎兵大尉一人陸軍教授十四人陸軍技師二人

厩長 騎兵科士官 一人

軍吏 一人

獸醫 一人

第四條 校長ハ野戰砲兵監及要塞砲兵監工兵監ニ隸シテ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任

ス二十三年九月二十日勅令第二  
百十二號ヲ以テ本條中改正ス

第一類 第三章 陸軍省 陸軍砲工學校

第五條 次長ハ校長ヲ補佐シテ其事ニ從フ

第六條 副官ハ庶務及器具圖書ノ事ヲ分掌シ其下ニ砲工兵科下士若クハ陸軍屬若干員ヲ置ク

第七條 教官ハ學術ノ教授ヲ擔任シ又時トシテ翻譯ノ事ニ從ハシム

第八條 廐長ハ該廐一切ノ事ヲ統轄ス其下ニ騎兵科下士若クハ陸軍屬若干員ヲ置ク

第九條 軍吏ノ下ニ書記若干員ヲ置ク

第十條 學期ハ概ネ十二月ニ始リ修學期ヲ二箇年トス但疾病ノ故ヲ以テ缺課多キ者ハ尙ホ滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 學生分遣ノ告達アレハ近衛都督師團長ハ入校期十日前ニ其名簿ニ考科表ヲ添ヘテ砲工學校長ニ送達スヘシ

第十三條 學生ノ願屆其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス而シテ其俸給ハ原所管ヨリ毎月初メニ該校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受渡ヲナス

第十四條 學生ハ校外ニ居住セシム而シテ各自ノ學用品ハ授業ニ要スル書籍ノ外一切自辨タルヘシ但器具等ノ内間々貸與スルモノアルヘシ

第十五條 每學年ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ以テ伎倆證明書ヲ作ラシム但伎倆證明書ニハ當該教官署名捺印スルモノトス

校長ハ伎倆證明書ニ意見ヲ加ヘ署名捺印シテ野戰砲兵ノ學生ハ野戰砲兵監ニ要塞砲兵ノ學生ハ要塞砲兵監ニ工兵科學生ハ工兵監ニ進達シ監ハ之ヲ監軍ニ呈ス又別ニ一本ヲ製シ都督師團長ヲ經テ之ヲ本人所屬ノ隊長ニ交付スヘシ(二十三年九月二十日勅令第二百二十二號ヲ以テ本條中改正ス)

○陸軍砲兵射的學校條例

二十年十二月二十五日勅令第七十一號

朕陸軍砲兵射的學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十一號

陸軍砲兵射的學校條例

第一條 陸軍砲兵射的學校ハ砲兵隊ノ大中尉及下士ヲ分遣シテ學生トナシ射擊術及砲兵用法ヲ訓練シ且其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ砲兵ノ射擊術及戰術ヲ研窮シ砲兵ノ教育一般ノ改良ヲ圖ルヲ目的トスル所トス

第二條 學生ノ訓練ニ供スル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置ク

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 砲兵大中佐一人

副官 砲兵大中尉一人

教官 砲兵少佐一人 砲兵大尉二人(廿二年五月十四日勅令第六十六號ヲ以テ本項ヲ改正ス)

軍吏 砲兵中尉四人

第一類 第三章 陸軍省 陸軍砲兵射的學校

軍醫

一八

獸醫

第四條 校長ハ砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第五條 校長ハ懲罰權並校附官僚學生ノ休暇付與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ

第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ砲兵上等監護及下士若干員ヲ置ク(四日勅令第六十六號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第七條 教官ハ學術ノ教授ヲ分擔シ教導中隊ノ中隊長及中隊附士官ヲ兼ネシム

第八條 教官ノ下ニ助教ヲ置キ砲兵曹長同一等軍曹同二等軍曹及火工下長若干員ヲ以テ之ニ充テ教導中隊ノ中隊附ヲ兼ネシメ校内ニ居住セシム

第九條 軍吏ノ下ニ書記若干員軍醫ノ下ニ看護長獸醫ノ下ニ蹄鐵工若干員ヲ置ク(上同)

第十條 學期ハ毎年概シ十二月ニ始リ翌年二月ニ終ルモノトス

第十一條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 學生分遣ノ告達アレハ近衛都督(鎮台司令官)ハ部下ノ砲兵聯隊長ヲシテ大中尉及下士中身體強壯行狀方正勤務勉勵ニシテ其學術ニ適當ト認ムル者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前ニ其名簿ニ考科表ヲ添ヘ砲兵射的學校長ニ送達スヘシ

第十三條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十四條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ニ依リ卒業ノ日

的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ此限ニ在ラス

第十五條 學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成跡ヲ調査シ以テ伎倆證明書ヲ作り校長之ニ署名捺印スルモノトス但成績優等ノ者ニハ別ニ褒賞ヲ與フルコトアルヘシ(三十二年五月十四日勅令第六十六號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第十六條 學生士官ハ校外ニ其下士ハ校内ニ住居セシム

第十七條 學生所要ノ兵器彈藥書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十八條 學生ノ俸給ハ原隊ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受授ヲ爲スモノトス

第十九條 學生ノ旅費ハ士官下士ヲ論セス總テ本校ニ於テ之ヲ支給ス

第二十條 學生下士ニ在テハ雜具ヲ貸與シ食料ハ原隊ヨリ之ヲ支給ス

第二十一條 教導中隊ノ兵卒ハ現役尙ホ一箇年以上ノ期アル上等兵及一等卒ニシテ身體強壯行狀方正勤務勉勵技藝熟達ノ者ヲ近衛及師團ノ各砲兵聯隊ヨリ選抜分遣シ毎年七月ニ於テ之ヲ交換セシムルモノトス(上同)

第二十二條 教導中隊ノ兵卒ハ學生分遣中ニ在テハ歸省休暇等一切之ヲ許サス(上同)

第二十三條 教導中隊ノ兵卒ハ教導中隊ニ編入スト雖モ名籍ヲ原隊ニ存シ隨テ諸給與ハ原隊ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨シ且背囊及刀ハ之ヲ携帶セシムヘシ其旅費消耗品ハ本校ニ於テ之ヲ支給ス(上同)

第二十四條 教導中隊ノ下士兵卒ノ被服ニハ本校ノ經費ヲ以テ特別ノ徽章ヲ附着ス

第二十五條 教導中隊ノ内務ハ概シ軍隊内務書ニ據リ施行スヘシ(廿二年五月十四日勅令第六十六號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

○陸軍軍樂學舍條例二十三年七月二十一日勅令第三百三十七號

朕陸軍軍樂學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三百三十七號

陸軍軍樂學舍條例

第一條 陸軍軍樂學舍ハ陸軍戸山學校ニ置キ各軍樂隊ノ樂生ヲ補充スル爲生徒ヲ養成シ

且軍樂學術ノ進歩ヲ計ル所トス

第二條 陸軍軍樂學舍ノ定員ハ左ノ如シ

- 學舎長 一等軍樂長 一名
- 生徒隊長 一二等軍樂長 一名
- 生徒隊次長 軍樂次長 一名
- 一等軍樂手 三名
- 二等軍樂手 六名
- 樂手補 二十七名
- 樂生 十二名

一二三等書記

一名

軍醫

一名

一二三等看護長

一名

第三條 學舎長ハ戸山學校長ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第四條 生徒隊長ハ學舎長ヨリ之ヲ兼シ生徒ノ教育ヲ掌リ次長以下ヲシテ諸科目ヲ分擔

セシム但時宜ニ依リ專任者ヲ置クコトアルヘシ

第五條 一二等軍樂手ノ定員ハ第二條ニ掲クル者ノ外軍樂生徒ノ人員ニ應シ一二等軍樂手ヲ通シ二十名ニ至ル迄ハ増員スルコトヲ得

第六條 軍醫ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス

第七條 樂調ヲ一定スル爲メ軍樂學舍軍樂手ノ内優等ナル者ヲ選ミ近衛並各師團軍樂手ト交換セシム

第八條 毎年採用スヘキ軍樂生徒ノ人員及軍樂手ノ交換ハ陸軍大臣之ヲ定ム

生徒ノ召募及軍樂手交換ノコトハ其時々戸山學校長ヨリ監軍ニ上申シ監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

第九條 軍樂生徒ハ軍樂部ニ出身志願ノ者ヨリ採用ス

第十條 軍樂生徒ノ入學檢査格例ハ戸山學校長之ヲ定メ道廳府縣ニ通牒シ召募スルヲ例トス

第十一條 檢査合格ノ上ハ凡ソ一箇月間通學セシメ實試ノ上之ヲ採用ス此ノ場合ニ於テハ本人所轄ノ道廳府縣ニ通牒スルモノトス

第十二條 軍樂生徒入學ノ上ハ必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲ爲サシム

第十三條 軍樂生徒ノ修業期限ハ概ネ十五箇月トシ修學上ノ費用其他被服食料等總テ官費トシ且手當金若干ヲ給ス

第十四條 軍樂生徒修業中ハ歸省休暇ヲ許サス

第十五條 軍樂生徒修業中行狀不正或ハ軍紀ヲ遵守セズ或ハ屢法則ヲ犯シ又ハ傷痍疾病ニテ生徒タルニ堪ヘ難キ者又ハ卒業ノ目途ナキ者ハ軍樂生徒ヲ免ス

第十六條 軍樂學舎ノ内務ハ概ネ軍隊内務ノ規定ニ依ル

第十七條 學期末ニ於テ生徒ノ終末試験ヲ施行ス事故アル者ハ試験ヲ延期スルコトアリ此ノ試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ付與シ樂生ヲ命ス

○陸軍教導團條例

二十三年三月二十五日 勅令第四十七號

朕陸軍教導團條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十七號

陸軍教導團條例

第一條 陸軍教導團ハ華士族平民中步兵、騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科下士ニ出身志願ノ

者ヲ選拔シテ生徒ト爲シ下士タルニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 毎年採用ス可キ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第三條 本團ニ本部、步兵、騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ノ生徒隊並病院ヲ置ク

第四條 本團ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

團長 步兵大佐若クハ步兵中佐 一人

副官 大尉 一人

病院長 二等軍醫正 一人

生徒隊長 少佐 一人

隊附士官 大尉 三人

步兵、砲兵生徒隊副官 中尉 四人

軍吏 中尉 二十人

軍醫 六人

藥劑官 八人

獸醫 一人

獸醫 三人

第五條 團長ハ監軍ニ隸シ本團ノ軍紀風紀ヲ維持シ經理事務、召募事務及人事ヲ統轄シ步兵生徒隊長ヲ兼ヌ

第六條 副官ハ團中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官下士及陸軍屬若干員ヲ置ク

第一類 第三章 陸軍省 陸軍教導團

第七條 病院長ノ職務ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第八條 本部ノ經理事務ハ步兵生徒隊ノ一等軍吏之ヲ兼掌ス

第九條 騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ノ生徒隊長ハ經理事務、召募事務及人事ニ就テハ團長ニ隸シ教育上ニ就テハ各當該ノ兵監ニ隸ス

第十條 各生徒隊長ハ教育ノ事ヲ掌リ士官及下士ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシム

第十一條 生徒修業中ハ被服食料ハ官費トシ學科用書籍材料ハ官給若クハ貸與シ且手當金若干ヲ給ス

第十二條 本團生徒ノ學期ハ概テ毎年十二月ニ始リ各兵科ニ就キ其修業期限約テ左ノ如シ

歩兵科 十六箇月

騎兵科 十八箇月

砲兵科 二十箇月

工兵科 二十箇月

輜重兵科 十八箇月

第十三條 本團生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其科目ハ歩兵科ニ在テハ團長騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ニ在テハ各當該兵監ノ定ムル所ニ據ル

第十四條 生徒隊ノ内務ハ概テ軍隊内務ノ規定ニ據ル

第十五條 生徒入團ノ上ハ自己ノ情願ヲ以テ退團スルヲ許サス而シテ必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲナサシム

第十六條 生徒修業中ハ一切歸省休暇ヲ許サス而シテ行狀不正或ハ軍紀ヲ遵守セス或ハ屢々法則ヲ犯シ又ハ傷痍疾病ニテ生徒タルニ堪ヘ難ク若クハ卒業ノ目的ナキ者ハ退團セシム但傷痍疾病ニ係ル者ハ醫官ノ診斷ニ依テ處分ス

第十七條 學期末ニ於テ生徒ノ終末試験ヲ施行ス事故アル者ハ試験ヲ延期スルコトアリ此試験ニ及第セシ者ニハ本團敎則卒業證書ヲ附與シ二等軍曹ニ任ス

第十八條 各學期末ヨリ次學期迄ノ間ニ於テ各生徒隊附ノ士官ヲ各本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

附則

第十九條 従前ノ敎導團生徒中陸軍諸卒ヨリ採用シタル者ニシテ第十六條ニ依リ退團セシムル者ハ入團前ノ服役日數ヲ通算シ成規ノ年期間現役豫備役後備役ニ服セシム

○砲兵工廠條例

二十三年八月十四日 勅令第七十二號

朕砲兵工廠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十二號

砲兵工廠條例

第一類 第三章 陸軍省 砲兵工廠

第一條 砲兵工廠ハ陸軍所要ノ兵器彈藥ヲ製造及修理スル所トス

第二條 砲兵工廠ハ之ヲ東京及大阪ニ置キ其製造所ヲ設クルコト左ノ如シ

東京砲兵工廠

小銃製造所

銃包製造所

火具製造所

砲具製造所

板橋火藥製造所

岩鼻火藥製造所

大阪砲兵工廠

火砲製造所

砲架製造所

彈丸製造所

火具製造所

砲具製造所

第三條 兵器ノ修理ハ東京大阪ニ在テハ直ニ工廠ニ於テ之ヲ執行シ其他ハ砲兵方面支署所在地ニ工廠ノ派出所ヲ置キ方面支署長ヲシテ其事ヲ管掌セシム但其經費ハ總テ工廠

ノ負擔トス

第四條 砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク

提理

副提理

検査官

製造所長

一等軍醫

技師若クハ技師試補

砲兵大佐  
砲兵大佐  
砲兵大佐  
砲兵大佐  
砲兵大佐  
砲兵大佐  
砲兵大佐  
砲兵大佐

東京砲兵大佐  
大阪砲兵大佐  
東京砲兵大佐  
大阪砲兵大佐

砲兵大尉  
砲兵大尉  
砲兵大尉  
砲兵大尉

砲兵大尉  
砲兵大尉  
砲兵大尉  
砲兵大尉

技師若クハ技師試補

第五條 第四條ニ掲クル職員ノ外砲兵上等監護及技手屬若干ヲ置ク但技手ニ限り當分ノ

内砲兵科下士ヲ混用スルコトヲ得

第六條 提理ハ陸軍大臣ニ隸シ工廠ノ事務ヲ總理シ兼テ工廠ニ屬スル建築工事ヲ掌トリ

管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

東京砲兵工廠提理ハ砲兵工科學舎ヲ監督シ其實業教授ノ事ヲ管理ス

第七條 副提理ハ提理ヲ補佐シ工廠ノ事務ヲ整理ス

第八條 検査官ハ製造ノ兵器彈藥審査檢定ノ事ヲ掌ル

第九條 製造所長ハ製造所ノ工務ヲ擔任ス

第一類 第三章 陸軍省 砲兵工廠

第十條 技師及砲兵上等監護技手屬ハ上官ノ命ヲ受ケ其事務ヲ分掌ス

第十一條 砲兵方面支署所在地ノ工廠派出所ニハ屬若干ヲ分派シ方面支署長ノ命ヲ受ケ兵器修理ニ關スル費用及材料ノ出納ヲ掌ラシム

第十二條 凡テ兵器彈藥ハ陸軍大臣ノ許可ヲ經ルニアラサレハ製造スルコトヲ得ス但砲兵會議議長ヨリ試驗ノ材料模範等ヲ要求スルトキハ此限ニアラス

第十三條 官廳又ハ人民ヨリ物品ノ製造ヲ依頼スルトキ軍用ノ製造事業ニ妨ケナキ限リハ之ニ應スルコトヲ得但軍用制式ノ製造ハ必ス陸軍大臣ノ許可ヲ經ヘシ

第十四條 工廠及製造所附近ノ地ニ騷擾警戒ノ事アレハ提理ヨリ地方衛戍司令官ニ牒告シテ衛兵ノ派遣ヲ請ヒ守備ヲ嚴ニスヘシ

附則

第十五條 連發銃並海岸砲創製中各工廠ニ佐官各一人ヲ置ク

○陸軍被服廠條例 二十三年三月二十七日 勅令第五十八號

朕陸軍被服廠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十八號

陸軍被服廠條例

第一條 陸軍被服廠ハ東京ニ之ヲ置キ軍隊及各部ニ給スル被服地質ノ調辦分配及被服標

本ノ格納並豫備被服及地質ヲ貯藏スル所トス

第二條 被服廠ニ左ノ職員ヲ置ク

主管 一等軍吏 一人  
被服官 二三等軍吏 二人

第三條 主管ハ會計局長ニ隸シ廠務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第四條 被服官ハ主管ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第五條 第二條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士若クハ屬若干人ヲ置ク

○陸軍被服工場學舍條例 二十三年三月十八日 勅令第三十號

朕陸軍被服工場學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十號

陸軍被服工場學舍條例

第一條 陸軍被服工場學舍ハ陸軍省會計局ニ屬シ陸軍縫工長靴工長ト爲ルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 本舍ニ左ノ職員ヲ置ク

學舍長 陸軍二等監督 一名  
幹事 陸軍一等軍吏 一名

第一類 第三章 陸軍省 陸軍被服廠 陸軍被服工場學舍



副幹事 陸軍二三等軍吏

二名

陸軍一等軍醫

一名(二十三年八月十六日勅令第百七十七號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第三條 學舍長ハ陸軍省會計局長ニ隸シ舍務ヲ總理シ學生教育技術進歩ノ責ニ任ス

第四條 幹事ハ學舍長ノ命ヲ奉シ學舍中一切ノ事務ヲ擔當ス

第五條 副幹事ハ學舍長ノ命ヲ奉シ學生教育ノ事務ヲ分擔シ兼テ工場ノ監視ニ任ス

第六條 第二條ニ掲クル職員ノ外下士屬若干名ヲ置ク

第七條 教員ハ備員及ヒ傭人ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 (同上ヲ以テ削除)

第九條 學生ハ現役豫備役後備役ノ籍ニ在ル兵卒中志願ノ者ニシテ檢査合格ノ者ヨリ之ヲ採用ス

第十條 學生ノ修業期限ハ概ネ一箇年半トス

第十一條 學生ノ人員及ヒ檢査格例ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ告達ス

第十二條 學生ハ舍内ニ居住セシメ諸給與及ヒ修業用品ハ總テ學舍ニ於テ之ヲ支給ス但

現役ノ者ハ俸給食料被服ヲ原隊ヨリ學舍ニ送附セシム

第十三條 學生ノ願屆其他業務ニ關スル件ハ總テ學舍長ノ管理ニ屬ス

第十四條 學生修業中品行不正或ハ軍紀ヲ遵守セス又ハ屢々法則ヲ犯シ若クハ疾病其他

ノ事故ヲ以テ卒業ノ目途ナキ者及ヒ將來工長ノ任ニ堪ヘ難キ者ハ之ヲ退舍シ其現役ノ

者ハ原隊ニ豫備役後備役ノ者ハ原籍ニ復歸セシム

第十五條 疾病ノ故ヲ以テ缺課多キモノハ軍醫ノ診斷ニ依リ學舍長ノ意見ヲ以テ學期ヲ

延ルコトアルヘシ但會計局長ノ認可ヲ請フヘシ

第十六條 學生卒業ノ上ハ該工長適任證書ヲ授與シテ歸隊或ハ歸郷セシム

第十七條 學生優等ノ者ハ學期未滿ト雖モ工長適任證書ヲ與ヘ教員ノ助手ニ充ツルコト

ヲ得

○陸軍經理學校條例二十三年十一月一日勅令第百六十五號

朕陸軍經理學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百六十五號

陸軍經理學校條例

第一條 陸軍經理學校ハ陸軍監督及陸軍軍吏ヲ養成スル所トス

第二條 本校ノ教育ヲ分テ監督教育科及軍吏教育科トス

第三條 本校ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省會計局長ノ管理ニ屬ス

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 一等監督

幹事 監督 補

第一類 第三章 陸軍省 陸軍經理學校

教官

- 一二等監督
- 監督補
- 一二等軍吏
- 教授

教官ハ定員外他ニ本職アル者ヲシテ兼務セシムルコトヲ得

第五條 校長ハ陸軍省會計局長ニ隸シ校務ヲ總理シ教育ノ方法ヲ規畫シ及學生教育ノ責ニ任ス

第六條 幹事ハ庶務ヲ擔任ス其下ニ陸軍屬ヲ置ク

第七條 教官ノ内監督及教授ハ兩教育科ノ教授ヲ擔任シ軍吏ハ專ラ軍吏教育科ノ教授ヲ擔任ス但翻譯ニ從事セシムルコトアルヘシ

監督教育科

第八條 監督教育科ハ各兵科中尉ノ志願者ヲ募リ監督學生ト爲シ陸軍監督ニ必要ナル學術ヲ教授ス

一二等軍吏ニシテ學術才能衆ニ超ユル者ハ選抜シテ特ニ監督學生ト爲スコトヲ得

第九條 監督學生ノ修學期ハ二箇年トス

第十條 監督學生ノ入學時期並召集ニ係ル規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十一條 監督學生ノ人員及入學試驗格例ハ會計局長ノ申稟ニ因リ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

第十二條 監督學生ハ校外ニ居住シ通學セシム

修學上所要ノ諸器具及書籍消耗品ハ之ヲ貸與シ又ハ支給ス

第十三條 監督學生ノ名籍ハ原所管ニ存置シ尙ホ入學中ハ本校ノ管轄ニ屬ス故ニ自己ノ願屆等ハ總テ本校ノ官僚ニ準ス又原所管ヨリ本人ニ達ス可キ諸件ハ必ス本校長ヲ經由スルモノトス

第十四條 監督學生修學中卒業ノ目途ナキ者ハ詮議ノ上退學ヲ命シ原所管ニ復歸セシム

第十五條 監督學生ハ每學年ノ末ニ大試驗ヲ施行シ第二學年ノ末ニ於テ及第スル者ニハ監督適任證書ヲ附與シ原所管ニ復歸セシメ所要ニ當リ列序ニ從ヒ陸軍監督補ニ任ス中尉ニシテ右適任證書ヲ有スル者ハ本人ノ願ニ因リ所管地ノ監督部ニ於テ實務ヲ見學スルコトヲ許ス但其旅費ハ自辨トス

第十六條 監督學生修學中傷痍疾病ノ爲メ大試驗ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ詮議ノ上尙ホ若干月修學ヲ許シ又ハ特ニ本人ノ爲メニ大試驗ヲ施行スルコトアル可シ

軍吏教育科

第十七條 軍吏教育科ハ一等書記ノ内ヨリ選抜シ並各兵科曹長ノ志願者ヲ募リ軍吏學生ト爲シ陸軍軍吏ニ必要ナル學術ヲ教授ス

第十八條 營内居住ノ曹長ニ在リテハ入學中營外居住トス

第十九條 軍吏學生ノ修學期ハ十箇月トス

第一類 第三章 陸軍省 陸軍經理學校

第二十條 第十條乃至第十四條及第十六條ハ軍吏學生ニ適用ス  
 第二十一條 軍吏學生ハ學期末ニ於テ大試験ヲ施行シ及第スル者ニハ軍吏適任證書ヲ附  
 與シ原所管ニ復歸セシメ所要ニ當リ列序ニ從ヒ本官ヲ免シ更ニ陸軍三等軍吏ニ任ス  
 曹長ニシテ右適任證書ヲ有スル者ハ本人ノ願ニ因リ所管地ノ監督部又ハ隊附軍吏ノ許  
 ニ於テ實務ヲ見學スルコトヲ許ス但其旅費ハ自辨トス

○陸軍乘馬學校條例 二十一年三月 勅令第十三號

朕陸軍乘馬學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十三號

陸軍乘馬學校條例

- 第一條 陸軍乘馬學校ハ騎兵隊ノ士官下士ヲ分遣シテ學生トナシ本科専門ノ馬術ヲ訓練  
シ馬學ヲ習修セシムル所トス
- 第二條 本校ニ厩ヲ置キ所要ノ馬匹ヲ備フ
- 第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 校長 騎兵大中佐 一人
  - 副官 騎兵大中尉 一人
  - 教官 騎兵少佐一人 騎兵大尉二人 騎兵中尉四人 一等獸醫一人 二等獸醫一人

- 厩長 騎兵大佐 一人
- 調馬手長 騎兵中少尉 二人
- 軍吏 一人
- 軍醫 一人
- 獸醫 二人

- 第四條 校長ハ騎兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス
- 第五條 校長ハ懲罰權並校附官僚學生ノ休暇付與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ
- 第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士若干員ヲ置ク
- 第七條 教官ハ學術ノ教授ヲ分擔ス
- 第八條 教官ノ下ニ助教ヲ置キ騎兵曹長同一等軍曹同二等軍曹若干員ヲ以テ之ニ充ツ
- 第九條 厩長ハ馬匹ノ調教其他校厩一切ノ事ヲ統轄ス
- 第十條 調馬手長ハ厩長ニ隸シ馬匹ノ調教ニ任シ其下ニ調馬手ヲ置キ騎兵曹長同一等軍曹同二等軍曹陸軍屬若干員ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十一條 軍吏ノ下ニ書記若干員軍醫ノ下ニ看護長及看護卒若干員ヲ置ク
- 第十二條 學期ハ毎年概テ九月ニ始リ翌年六月ニ終ルモノトス (二十四年二月十三日勅令第十號ヲ以テ本條中改正ス)
- 第十三條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十四條 學生分遣ノ告達アレハ近衛都督(鎮臺司令官)ハ部下ノ騎兵大隊長ヲシテ士官

第一類 第三章 陸軍省 陸軍乘馬學校

下土中身體強壯行狀方正勤務勉勵ノ者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前提ニ其名簿ニ考課表ヲ添へ乘馬學校長ニ送達スヘシ

第十五條 第一條ニ掲クル學生ノ外時宜ニ依リ官廨附騎兵科士官下土及野戰砲兵隊輜重兵隊ノ士官下土ヲ分遣シテ學生トナスコトアルヘシ(二十四年二月十三日勅令第十號ヲ以テ追加ス)

第十六條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十七條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ニ依リ卒業ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ此限ニアラス

第十八條 學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官ニアリテハ修得證明書ヲ作り校長之ニ署名捺印シ下土ニアリテハ考科列序ヲ定メ都督師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附スルモノトス又別ニ一本ヲ製シ之ヲ騎兵監ニ呈ス但成績優等ノ者ニハ別ニ褒賞ヲ與フルコトアルヘシ(同上ヲ以テ改正ス)

第十九條 學生ノ中學術優等ノ者若干員ヲ選抜シ次ノ學期ノ終リ迄修學セシムルコトアルヘシ

第二十條 學生士官ハ校外ニ其下土ハ校内ニ居住セシム

第二十一條 學生所要ノ兵器馬匹馬具書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第二十二條 學生ノ俸給ハ原所管ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受授ヲ爲スモノトス

第二十三條 學生ノ旅費ハ士官下土ヲ論セズ總テ本校ニ於テ之ヲ支給ス

第二十四條 學生下土ニ在テハ雜具ヲ貸與シ被服食料ハ原所管ヨリ之ヲ支給ス

○軍馬育成所官制

二十三年三月二十七日勅令第六十一號

朕軍馬育成所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十一號

軍馬育成所官制

第一條 軍馬育成所ハ軍用馬匹ヲ育成シ之ヲ供給スル所トス

第二條 軍馬育成所ノ名稱及位置左ノ如シ

- 一 中央軍馬育成所 東京府下
- 二 三本木軍馬育成所 青森縣上北郡三本木
- 三 鍛冶谷澤軍馬育成所 宮城縣玉造郡鍛冶谷澤
- 四 青野軍馬育成所 兵庫縣加東郡青野原
- 五 福元軍馬育成所 鹿兒島縣谿山郡福元

第三條 軍馬育成所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 騎兵大尉若クハ技師 一人
- 監務 騎兵中少尉若クハ技師 一人
- 軍吏 一人

第一類 第三章 陸軍省 軍馬育成所

獸醫

一人

中央軍馬育成所ノ職員ハ時宜ニ依リ他ニ本職アル者ヨリ兼務セシム

第四條 所長ハ陸軍省騎兵局長ニ隸シ所内ノ事務ヲ總理シ馬匹養成ノ責ニ任ス

中央軍馬育成所長ハ軍馬ノ供給及購買ニ係ル事務ヲ擔任ス

第五條 監務ハ所長ノ職務ヲ補佐ス

第六條 第三條ニ掲クル職員ノ外下士及陸軍屬若クハ技手ヲ置ク

第七條 陸軍大臣ハ所要ニ應シ各軍馬育成所ノ支所ヲ設クルコトヲ得

支所長ハ監務ヲ以テ之ニ充テ若クハ判任官ヲ以テ其職ヲ執ラシムルコトヲ得

○福元軍馬育成所支所設置

二十三年八月八日 陸軍省陸達第五百五十四號

福元軍馬育成所ヲ鹿兒島縣薩摩國給黎郡知覽郷東別府村ニ置キ福元軍馬育成所知覽支所

ト稱ス

○陸軍蹄鐵學舎條例

二十一年六月六日 勅令第四十二號

朕陸軍蹄鐵學舎條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十二號

陸軍蹄鐵學舎條例

第一條 陸軍蹄鐵學舎ハ騎兵隊砲兵隊及輜重兵隊所要ノ蹄鐵工下長ヲ養成スル所トス

第二條 本舎ニ左ノ職員ヲ置ク

學舎長

騎兵大尉

一人

教官

騎兵中尉若クハ騎兵少尉

一人

軍吏

二等獸醫若クハ三等獸醫

一人

軍吏

一人

第三條 學舎長ハ陸軍省騎兵局長ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第四條 學舎長ハ懲罰權及學舎附官僚ノ休暇附與權ヲ有スルコト大隊長ニ同シ

第五條 教官ハ學術ノ教授ヲ分擔ス

第六條 第二條ニ掲クル職員ノ外下士並文官助教若干員ヲ置ク(二十三年十月十日勅令第二百三十號ヲ以テ本條中改正ス)

第七條 學舎ニハ軍醫ヲ附セス在東京奉職ノ軍醫ヲシテ兼掌セシム

第八條 學生ノ修業期限ハ概ネ一箇年トス

第九條 學生ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ告達ス

第十條 近衛都督師團長前條ノ告達ヲ受ルトキハ部下ノ騎兵隊長砲兵隊長及輜重兵隊長

ヲシテ現役殘期一年三箇月以上アル蹄鐵工卒中ノ志願者ニシテ身體強壯行狀方正勤務

勉勵且其學術ニ適當ノ者ヲ選定セシメ分遣前其名簿ヲ陸軍省騎兵局長ニ送達スヘシ

第十一條 學生ハ舍内ニ居住セシメ所要ノ書籍消耗品等ハ學舎ニ於テ貸與又ハ支給ス

旅費ハ學舎ニ於テ支給シ被服食料ハ原隊ヨリ支給シ雜具ハ學舎ニ於テ貸與ス且其俸給

第一類 第三章 陸軍省 福元軍馬育成所支所 陸軍蹄鐵學舎

ハ前月中ニ原隊ヨリ學舎ニ交付シ學舎ニ於テ之カ授受ヲナスモノトス

第十二條 學生ノ願屆其他業務ニ關スル件ハ總テ學舎長ノ管理ニ屬ス

第十三條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退舎ヲ許サス但疾病其他ノ事故ヲ以テ卒業ノ目途ナキ者ハ退舎歸隊ヲ命シ前役(入舎中ノ時)ヲ通算シ現役ニ服セシム

第十四條 學期末ニ於テ學生ノ終末試験ヲ施行シ及第スルモノニハ卒業證書ヲ附與シ原隊ニ復歸セシメ更ニ二箇年間(卒業ノ日ヨリ起算ス)現役ニ服セシメ其役終ルノ後前役ヲ通算シ七箇年ニ滿ルマハテ豫備役ニ二十一箇年ニ滿ルマテハ後備役ニ服セシム(二十三年十月十日勅令第百三十號ヲ以テ改正ス)

卒業ノ工卒ハ該隊ニ於テ缺員アル毎ニ踏鐵工下長ニ任ス

○衛戍條例 廿一年五月十二日 勅令第三十號

朕衛戍條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第三十號

衛戍條例

第一條 陸軍軍隊ノ永久一地ニ配備駐屯スルヲ衛戍ト稱シ其地所在ノ最高級團隊長之カ司令官タルモノトス

第二條 各衛戍地ニハ其所用ニ應シ病院、武庫、監獄ヲ置キ衛戍司令官ノ管轄トス

第三條 衛戍司令官ハ衛戍地警備ノ責ニ任シ衛兵ノ部署及ヒ其人員ヲ定ム

第四條 近衛兵ノ駐屯スル地ニ在テ衛戍司令官警備ニ關シ必要ト認ムル時ハ之ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第五條 憲兵ハ衛戍司令官ノ管轄ニ屬セスト雖モ衛戍司令官ハ憲兵ヲシテ地方ノ事情ニ關スル緊要ノ事件ヲ報知セシメ又火急ノ事變ニ際シテハ命令ヲ下シ服事セシムルコトヲ得

衛戍病院職官表		(二十二年三月三十日勅令第四十四號ヲ以テ本表ヲ改正ス)	
位	置	上	下
東	京	長	一 等軍醫 二 等軍醫 三 等軍醫 一 等藥劑官 二 等藥劑官 三 等藥劑官 一 等軍吏 二 等軍吏 三 等軍吏
仙臺	名古屋	長	一 等軍醫 二 等軍醫 三 等軍醫 一 等藥劑官 二 等藥劑官 三 等藥劑官 一 等軍吏 二 等軍吏 三 等軍吏
大阪	廣島	一(二)等軍醫正	一 等看護長 二 等看護長 三 等看護長 一 等調劑手 二 等調劑手 三 等調劑手 一 等書記 二 等書記 三 等書記
熊本			一 等看護長 二 等看護長 三 等看護長 一 等調劑手 二 等調劑手 三 等調劑手 一 等書記 二 等書記 三 等書記
佐倉	高松	長	一 等看護長 二 等看護長 三 等看護長 一 等調劑手 二 等調劑手 三 等調劑手 一 等書記 二 等書記 三 等書記
青森	新發田		一 等看護長 二 等看護長 三 等看護長 一 等調劑手 二 等調劑手 三 等調劑手 一 等書記 二 等書記 三 等書記
金澤	津橋		一 等看護長 二 等看護長 三 等看護長 一 等調劑手 二 等調劑手 三 等調劑手 一 等書記 二 等書記 三 等書記
松山	大津	二等軍醫正	一 等看護長 二 等看護長 三 等看護長 一 等調劑手 二 等調劑手 三 等調劑手 一 等書記 二 等書記 三 等書記
福山	小倉		一 等看護長 二 等看護長 三 等看護長 一 等調劑手 二 等調劑手 三 等調劑手 一 等書記 二 等書記 三 等書記
備前	佐倉		一 等看護長 二 等看護長 三 等看護長 一 等調劑手 二 等調劑手 三 等調劑手 一 等書記 二 等書記 三 等書記
考備	佐倉ヨリ小倉ニ至ル十二箇ノ病院長ハ所在地歩兵聯隊附二等軍醫正之ヲ兼職ス		
			計
			五十二
			二十七
			九

衛戍武庫職官表

(二十二年三月三十日勅令第四十四號ヲ以テ本表ヲ改正ス)

位階級	士官	准士官	下士	計
東京 仙臺 主管	大尉		監工(下)長 一 火工(下)長 一 鞍工(下)長 一 銃工(下)長 一	五
名古屋 大阪				
廣島 熊本				
佐倉 高崎 新發田 津橋		主管 上等監護	一(二)等軍曹 一	三
青森 金澤 大津 豐津 大丸 福丸				
小松 倉山 福岡				

備考 本表定員ノ外東京ニ在テハ上等監護一名火工(下)長一名銃工(下)長一名ヲ増加スルコトヲ得

衛戍監獄職官表 (同上)

位階級	士官	准士官	下士	計
東京 京長 一 副長 一	看守長 一 看守長 一 看守長 一 看守長 一		一(二)等軍曹 一(二)(三)等書記 一(二)(三)等看護長 看守卒	計 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百
大 阪 長 一 副長 一				
仙臺 名古屋 長 一				
廣島 熊本 長 一				
青森 金澤 長 一				
松山 小倉 長 一				

備考 一 青森 金澤 松山 小倉衛戍監獄ノ衛生事務ハ所在地病院附二三等軍醫ヲ以テ兼掌セシム  
二 看守長看守卒ノ定員ハ最上限ヲ示スモノナリ故ニ四人寡少ノ時ニ在テハ減少スルコトアルヘシ

陸軍病院條例

二十一年十一月二十九日 陸軍省陸達第二百二十三號

明治八年<sup>十月</sup>達第九十七號陸軍病院條例別冊ノ通告正ス

但明治十九年<sup>三月</sup>省令乙第十六號陸軍軍醫官職務章程廢止ス

別冊

陸軍病院條例

第一章

第一條 陸軍病院トハ衛戍病院及衛戍地外ノ病院ヲ總稱シ其他小部隊ノ駐屯地ニ在ル病室ヲ包含ス

第二條 平時陸軍病院ニ於テ治療ヲナスヘキ者左ノ如シ(二十四年三月十六日陸軍省達第二十六號ヲ以テ本條各項共改正ス)

- 一 營内居住ノ下士以下
  - 二 營内居住ノ下士以下ニシテ現役、服役若クハ生徒ヲ免セラレ又ハ召集解散ノ際傷痍疾病ニ依リ歸郷シ得サル者
  - 三 營外居住ノ軍人軍屬ニシテ傷痍疾病ニ罹リ特ニ入院治療ヲ請求シタル者
- 第三條 第二條第一項ノ者ニ在テハ治療費ハ病院ノ費用ニシテ糧食ハ陸軍給與令第一類 第三章 陸軍省 陸軍病院

四章第二十六條第一項ニ據ル但一年志願兵條例第五條第二項ノモノハ此限ニアラ  
ス(二十四年三月十六日陸軍省達第  
二十六號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第四條 第二條第二項ノ者並第二項ノ内公務ニ起因シタル者ニ在テハ治療費糧食トモ病  
院ノ費用トス(上同)

第五條 第二條第三項ノ内公務ニ起因セサル者及一年志願兵條例第五條第二項ニ當ル者  
ニ在テハ治療費ハ一日金拾錢ヲ納メシメ糧食ハ本人ヨリ陸軍給與令第九表ノ定額ニ依  
リ之ヲ辨償セシム但下士士卒及生徒ニ在テハ其治療費ニ限リ病院ノ費用トス(上同)

第六條 軍人軍屬ニシテ演習若クハ行軍若クハ軍隊旅行中傷疾疾病ニ罹リタル者ヲ地方  
醫師若クハ地方病院ニ依託シタルトキ其診斷料治療費又ハ入院料ハ陸軍病院ヨリ實費  
ヲ支辨ス但本人ノ便宜ニ依リ地方醫師若クハ地方病院ノ治療ヲ受クル者ハ此限ニアラス(上同)

第七條 (同上ヲ以  
テ刪除ス)

第二章 衛戍病院

第九條 衛戍病院トハ衛戍地ニ在ル病院ニシテ某地衛戍病院ト稱ス

第十條 衛戍病院ニハ教育所ヲ置キ看護學修業兵ヲ教育ス其規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 各隊及官廨附ノ一二三等軍醫ハ所屬部隊ノ勤務ト所在地病院ノ勤務ニ服ス其

病院勤務ニ於テハ病院專屬ノ醫官ト異ナルコトナシ  
師團司令部所在地ノ歩兵聯隊附軍醫正ハ所屬部隊ノ勤務ト病院ノ勤務ニ服ス其病院勤  
務ニ就テハ院長ニ隸シ若干ノ病室ヲ分擔シテ治療其他事務ヲ掌理シ兼テ一等軍醫以下  
ノ勤務ヲ監視ス而シテ管掌ノ事ニ就テハ院長ニ對シ其責ニ任ス(二十二年七月二十六日陸軍省  
中ヲ削除シ二十四年三月十六日同省  
陸達第二十六號ヲ以テ本條中改正ス)

第十二條 衛戍病院ニハ看病人磨工厨夫ヲ雇役ス其人員ハ別ニ定ム(二十四年陸達第二十六號  
ヲ以テ本條中改正刪除ス)  
主宰シ軍紀風紀ヲ維持シ部下官僚ヲ指揮シテ各其職務ヲ分擔セシメ又下士以下ノ訓導  
教育ヲ掌リ且會計經理ノ事ヲ管理ス

第十四條 院長ハ會計經理上ノ事ヲ周密ニ勘査シ勉メテ諸事ヲ節略シ冗費ヲ省クヘシ而  
シテ毎月會計經理ノ書類ヲ實査スルモノトス

第十五條 院長ハ衛生及教育ノ事ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮ヲ承ケ會計經理ノ事ニ關シ  
テハ所管監督部長ノ區處ヲ承ク

第十六條 院長ハ事務ノ得失並ニ購買品ノ精粗適否ニ就テハ官僚ヲ會シ自カラ議長トナ  
第一類 第三章 陸軍省 陸軍病院



リ之ヲ議セシムルモノトス  
第十七條 院長ハ治療其他事務ノ整否ヲ監察シ若シ不整頓ノ事ヲ認ムルトキハ主任者ヲ督責スヘシ

第十八條 院長ハ各隊及官廨附醫官ノ病院勤務表ヲ調製シ毎月五日ヲ限リ所管軍醫長近各隊附醫官ノ分ニ進達スヘシ

院長ハ病院勤務ニ服スル各隊及官廨附醫官ノ才能伎倆其他勤務上ニ係ル事項ヲ詳悉シ考科ノ用ニ供スル爲メ毎年未之ヲ所管軍醫長近衛各隊附醫官ノ分ハ近衛軍醫長ニ開申スヘシ(二十四年三月十日陸軍省陸達

第二十六號ヲ以テ本項ヲ追加ス

第十九條 院長ハ院内患者ノ景況ヲ時々所管軍醫長ニ開陳シ又治療ノ方法ニ就キ軍醫長近衛ノ患者ハ二京議スルコトヲ得近衛軍醫長

第二十條 院長不在ノトキハ病院所在地ノ高級醫官之カ代理ヲナスヘキモノトス

第二十二條 一等軍醫ハ院長ノ指揮ヲ承ケ患者ノ治療院中ノ事務ヲ擔任ス

一等軍醫掌務ノ概目左ノ如シ

其一 病室ニ於テ掌ル事項

一 患者ノ治療

二 處方箋ノ監視

三 病床日誌ノ調製

四 月報及年報ニ係ル編纂材料ノ調査

五 病室内外洒掃ノ注意

六 患者ノ食物、入浴散步等ノ示定

七 擔當ノ病室附看護長ノ訓導看病人ノ教育及其勤務行狀ノ監視

其二 事務室ニ於テ掌ル事項

一 具申照會等文書ノ起草淨書

二 日記ノ記注及文書ノ受領送達

三 患者入退院ノ取扱

四 外來患者ノ診斷

五 診斷書ノ調製

六 衛生報告ノ調製

七 病床日誌及處方箋ノ保存

八 轉地療養ニ關スル事

九 看護學修業兵ノ教育ニ關スル事

十 院中人事ニ關スル事

十一 書籍ノ出納

十二 臨時副病院ノ開設ニ關スル事

第一類 第三章 陸軍省 陸軍病院

十三 勤惰録及門鑑ノ監守

第二十二條 一等軍醫ハ治療ヲ擔任スト雖トモ大手術ヲ行フヘキ患者アルトキハ二等軍醫正若クハ他ノ一等軍醫ニ商議シタル後院長ニ稟議ノ上之ヲ行フヘキモノトス但急ヲ要スル場合ニ在テハ此限ニアラス(二十四年三月十六日陸軍省陸達第二十六號ヲ以テ本條中追加ス)

第二十三條 一等軍醫ハ二等軍醫ト混同シテ輪次二十四時間ノ當直ヲナスヘシ而シテ當直ノ醫官ハ午後各病室ヲ回診シ且臨時ノ事ヲ處理スルモノトス但當直人員ハ院長適宜之ヲ定ムヘシ(同上ヲ以テ本條中刪除ス)

第二十四條 二三等軍醫ハ一等軍醫ヲ補助シ分擔ノ事務ニ服ス而シテ一等軍醫不在ノトキハ其掌務ヲ代理ス(同上ヲ以テ第三項ヲ刪除ス)

二三等軍醫ハ看護長以下ヲ監視シ患者ヲシテ病室ノ規則ヲ遵守セシムヘシ病院專屬ノ二三等軍醫ハ毎朝一等軍醫回診前看護長ヲ隨ヘ擔當ノ室ヲ回診シ前日來ノ症狀ヲ病床日誌ニ記注シ置クモノトス

第二十五條 藥劑官ハ院長ノ指揮ヲ承ケ調劑及藥物器械等ニ係ル事務ヲ整理シ兼テ調劑手ノ訓導ヲ掌ル

藥劑官ハ輪次二十四時間ノ當直ヲナスヘシ但一名ナルトキハ院長適宜ニ之ヲ定ムヘシ(同上ヲ以テ本項中改正ス) 藥物及治療消耗品其他治療器械調劑器械等缺乏又ハ破損スルトキハ其買辦及修理ス

ヘキ品目數額ヲ傳票ニ記載シ調劑ノ上院長ノ檢印ヲ請ケ軍吏(師團司令部所在地外ノ病院ニ在テハ軍吏部下以下之ニ依リ)ニ移スヘシ而シテ軍吏ヨリ其物品ヲ受領シタルトキハ審査ノ上受領證ヲ交付スヘシ

藥劑官掌務ノ概目左ノ如シ但師團司令部所在地外ノ病院ニ在テハ兼テ其所在地ニ於ケル各隊ノ調劑ヲ掌ル

- 一 藥物及治療消耗品ノ貯蓄出納及治療器械調劑器械ノ保存修理
- 二 調劑製藥

三 院內東京衛戍病院ニ在テハ袋村病室ヲ包含ス 熊本衛戍病院ニ在テハ沖繩分遣步兵隊長崎分遣砲兵隊病室ヲ包含ス 東京衛戍病院ニ在テハ砲兵射的學校要塞砲兵隊訓練室ヲ包含スニ藥物及治療消耗品治療器械調劑器械ノ配與並器械ノ修理交換(二十七年七月二十六日陸軍省陸達第百二十三號ヲ以テ本項中追加ス)

四 藥物並治療消耗品治療器械調劑器械等ノ計算並報告

五 出師準備ノ物品ヲ交新スル事項

六 磨工ノ研磨修理ニ係ル事項

七 見習藥劑官及調劑手ノ訓導並勤務行狀ノ監視

第二十六條 軍吏ノ服務ハ別ニ定ムル所ニ據ルト雖トモ病院ニ於ケル掌務ノ概目左ノ如シ(同上ヲ以テ各項目ノ中改正ス)

- 一 經費ニ係ル計算及統計報告

第一類 第三章 陸軍省 陸軍病院

- 二 支出金ノ請求收入金ノ納附
- 三 患者自辦ノ治療費糧食費及拂下藥價ノ領收
- 四 藥物並治療消耗品治療器械調劑器械ノ買辦修理
- 五 消耗品其他備附器具ノ買辦修理
- 六 糧食給與並炊爨ニ關スル事
- 七 被服給與及買辦修理
- 八 厨夫洗濯夫及縫裁職工師團司令部所在地外ノ病院ニ在ノ使役ニ關スル事  
テハ洗濯夫及縫裁職工ヲ除ク
- 九 戰時用患者ノ被服寢具等ノ保存並其被服寢具及消耗品等ヲ平時ニ使用スル事項
- 十 病院附下士以下給與ニ關スル事項

第二十七條 下士以下ハ上官ノ命ヲ奉シ左ニ掲クル所ノ各項ニ就キ各其事ニ服ス

- 其一 看護長ノ職務ヲ別テ書記及病室附教育所附トス而シテ其職務ハ左ノ如シ
  - 一 書記看護長ハ文書ノ受領送達諸記録ノ記注等ニ從事ス
  - 二 病室附一等看護長ハ若干ノ病室ヲ擔當シ所屬二三等看護長ノ勤務行狀ヲ監視シ上官ノ命令ヲ傳達シ諸則ヲ遵奉セシメ看護ノ親疎病室ノ整頓ニ注意シ且看病人ノ教育ヲ掌リ並ニ看病人服裝ノ取締ヲナスヘシ又二三等看護長ハ所屬看病人ノ勤務行狀ヲ監視シ上官ノ命令ヲ傳達シ諸則ヲ遵奉セシメ又患者ノ看護諸物品ノ出納並保存病室ノ清潔看病人ノ教育等ニ從事ス

其二 教育所附看護長ハ教場ヲ整頓シ備附器具ノ保存諸物品ノ出納及看護學修業兵ノ取締ニ從事ス

其三 調劑手ノ職務ヲ別テ器械室附藥室附トス而シテ其服務ハ左ノ如シ

- 一 器械室附調劑手ハ治療器械調劑器械及繃帶品等ノ出納並ニ之ニ係ル諸記録ノ記注ニ從事ス
- 二 藥室附調劑手ハ調劑製藥ノ助手ヲナシ且藥物出納ニ係ル諸記録ノ記注ニ從事ス

其四 軍吏部書記ハ牒簿ノ記載及其他計算等ニ從事ス

其五 看病人ハ看護長ノ命令ヲ確守シ患者ヲ看護シ且病室内外ノ洒掃患者ノ食物配與等ニ從事ス

其六 磨工ハ治療器械及調劑器械ノ研磨及修理ニ從事ス

其七 厨夫ハ患者ノ炊爨ニ從事シ且師團司令部所在地ノ病院ニ在テハ看護學修業兵ノ炊爨ニモ亦從事スヘキモノトス

第三章 衛戍地外ノ病院

第二十八條 衛戍地外ノ病院ハ其所要地ニ置キ該地官衛ノ管轄ニ屬シ某官病院ト稱ス

第二十九條 院長以下ノ職務ハ第十一條ノ第一項及第十二條乃至第二十七條ヲ適用ス

第三十條 院長ハ第二十九條ノ外所在地部隊ノ衛生事務及衛生部下士以下ノ教成上ヲ監

視シ且諸事ヲ畫一ニナラシムルコトニ注意スヘシ而シテ其事項ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮ヲ受ク

第四章 病室

第三十一條 病室ハ步兵一聯隊ニ充タサル衛戍地及砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖繩分遣步兵隊長崎分遣砲兵隊ニ置ク(二十二年七月二十六日陸軍省陸達第百二十三號ヲ以テ本條中ニ追加ス)

第三十二條 病室ハ某地衛戍病室ト稱ス但砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖繩分遣步兵隊及長崎分遣砲兵隊ニ在テハ某校所隊病室ト稱スヘシ(上同)

第三十三條 病室ハ其地衛戍司令官タル隊長(砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖繩分遣步兵隊長崎分遣砲兵隊病室ハ其長以下之ニ做フ)ノ管轄ニ屬スルモノトス(上同)

第三十四條 病室ノ事務ハ所在地部隊ノ衛生部員之ヲ掌リ會計ノ事務ハ部隊ノ軍吏部員之ヲ掌ル(分遣隊ノ會計事務ハ該隊ニ之ヲ委託セシム)

第三十五條 (二十四年三月十六日陸軍省陸達第百二十六號ヲ以テ本條ヲ删除ス)

第三十六條 高級醫官ハ衛戍司令官タル隊長ニ隸シテ病室ノ事務ヲ總理シ患者ノ治療ヲ擔任シ軍紀風紀ヲ維持シ僚屬ヲ指揮シテ各其職務ヲ分掌セシメ又下士以下ノ訓導教育ヲ掌リ且會計經理ノ事ヲ管理ス

砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖繩分遣步兵隊長崎分遣砲兵隊病室ノ會計經理ハ其長之ヲ管理ス(二十二年七月二十六日陸軍省陸達第百二十三號ヲ以テ本條中ニ追加ス)

第三十七條 高級醫官ハ衛生及教育ノ事ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮ヲ承ケ會計經理ノ事ニ關シテハ所管監督部長ノ區處ヲ承ク

第三十八條 高級醫官ハ(衛戍地外ノ病室ヲ除ク)醫官ノ病室勤務表ヲ調製シ毎月五日ヲ限り所管軍醫長ニ進達スヘシ

第三十九條 病室ニ於テ行ヒ難キ治療ヲ要スル患者アルトキハ最近ノ陸軍病院ニ之ヲ囑托スルコトヲ得

第四十條 當直ハ患者ノ景況ニ依リ所屬醫官便宜之ヲ爲スヘシ

第四十一條 病室事務ノ概目左ノ如シ

- 一 日記ノ記注及文書ノ收領送達
- 二 患者入退室ノ取扱
- 三 外來患者ノ診斷
- 四 診斷書ノ調製
- 五 衛生報告ノ調製
- 六 病床日誌及處方箋ノ調製並保存
- 七 書籍ノ出納勤惰録ノ監守
- 八 轉地療養及臨時副病室ノ開設ニ關スル事項
- 九 病室及所在地部隊ノ調劑

第一類 第三章 陸軍省 陸軍病院

十 藥物及治療消耗品、治療器械、調劑器械ニ關スル事項  
十一 下士以下ノ訓導教育ニ關スル事項  
十二 以上概目ノ外第十九條及第二十四條乃至第二十七條ニ準據スルコトヲ得

○陸軍軍醫學校條例二十一年十二月二十七日  
勅令第九十七號

陸軍軍醫學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十七號

陸軍軍醫學校條例

第一條 陸軍軍醫學校ハ在職醫官ヲ召集シ軍陣衛生事項ヲ實驗講究セシメ並ニ醫官候補生藥劑官候補生ヲ養成スル所トス

第二條 本校ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省醫務局長ノ管理ニ屬ス

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(二十二年十二月二十日勅令第百二十九號ヲ以テ各項共改正ス)

- 校長 軍醫監 一人
- 教官 一等軍醫正若クハ二等軍醫正 三人
- 一等軍醫 二人

監事

一人教官ヨリ之ヲ兼ス

教官ハ定員ノ外衛生部士官以上ニシテ本職アル者ヨリ兼職セシムルコトヲ得

第四條 校長ハ陸軍省醫務局長ニ隸シ養成ノ方法ヲ規畫シ軍紀風紀ヲ維持シ所屬職員ヲ

統督シ校中一般ノ事ヲ總理ス

第五條 校長ハ本校ノ官僚召集醫官及候補生ニ對シ懲罰權及休暇附與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ

第六條 教官中高級ノ者ハ教務ヲ整理シ教場ノ秩序ヲ保存スルコトヲ掌ル校長不在ノトキハ其職務ヲ代理ス

第七條 高級教官ハ諸報告ヲ査閲シテ校長ニ呈シ其委任ノ事項ハ處分シタル後校長ニ申報スルコトヲ得

第八條 教官ハ教授教育及試験ノ事ヲ掌ル

第九條 監事ハ召集醫官及候補生ノ勤怠容儀品行ヲ監督ス

第十條 第三條ニ掲グル職員ノ外屬若クハ下士若干員ヲ置キ文書ノ受送試藥ノ出納等ニ從事セシム

第十一條 召集醫官ノ召集ハ陸軍省醫務局長其人員並召集時期ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 召集醫官ノ講究期ハ四箇月以内トシ毎年二回召集スルモノトス

第十三條 召集醫官講究期終レハ校長ハ其成績ヲ醫務局長ニ具申シ原所管ニ復歸セシム

第十四條 召集醫官ハ通學セシメ修學上所要ノ諸器械及書籍消耗品ハ之ヲ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十五條 召集醫官ハ其名籍固ヨリ原所管ヲ離ル、コトナシト雖モ召集中ハ本校ノ管轄

ニ屬ス故ニ自己ノ願屆等ハ總テ本校附官僚ニ準シ又原所管ヨリ本人ニ達スヘキ諸件ハ

第一類 第三章 陸軍省 陸軍軍醫學校

必ス本校長ヲ經由スルモノトス

第十六條 召集醫官ノ旅費ハ本校ニ於テ之ヲ給シ俸給諸給ハ本人ノ所屬部隊ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ本校ニ於テ之ヲ受授ヲ爲スモノトス

第十七條 召集醫官入校中ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルコトヲ許サス但疾病等ニテ修學講究ニ堪フル目的ナキ者ハ原所管ニ復歸セシムルコトアルヘシ

○陸軍重症病馬治療所官制 二十一年六月二十九日 勅令第五十號

朕陸軍重症病馬治療所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十號

陸軍重症病馬治療所官制

第一條 陸軍重症病馬治療所ハ東京ニ之ヲ置キ府下陸軍部内ノ重症病馬ヲ治療シ及ヒ獸醫學術ニ關スル事項ヲ講究實驗スル所トス (二十二年十二月十七日勅令第百二十七號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第二條 陸軍重症病馬治療所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

二三等獸醫 三人

軍吏部下士 二人

第三條 所長ハ一等獸醫ノ内本職アル者ヨリ兼補シ陸軍省(總務局獸醫課長)ノ管理ニ屬シ所務ヲ整理ス(上)

第四條 二三等獸醫ハ所長ノ指揮ヲ承ケ病馬ノ治療其他ノ所務ヲ分掌ス

第五條 軍吏部下士ハ計算簿記ノ事ニ從フ

第六條 第二條ニ掲クル職員ノ外僱員若干ヲ置ク

○陸軍及海軍ニ於ケル文官教官 十九年十月三十日 勅令第六十八號

朕茲ニ陸軍及海軍諸學校ニ教官ヲ置クコトヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第六十八號

陸軍及海軍教官

第一條 陸軍及海軍諸學校ニ武官教官ノ外文官教官ヲ置ク左ノ如シ

教授 奏任

助教 判任

第二條 教授ノ官等俸給ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依リ助教ノ官等俸給ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

第三條 教官ヲ以テ教官ニ充ツルトキハ本條ノ限ニアラス

○千住製絨所官制 二十三年十月十日 勅令第二百二十三號

朕千住製絨所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第一類 第三章 陸軍省

陸軍重症病馬治療所 陸軍及海軍ニ於ケル文官教官 千住製絨所

勅令第二百二十三號

千住製絨所官制

第一條 千住製絨所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所用ノ絨類製造ノ事ヲ掌ル

第二條 千住製絨所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 一人
- 事務官 一人
- 技師 一人
- 技師試補 一人
- 屬 五人
- 技手 四人

第三條 所長ハ奏任一等以下三等以上トス陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 事務官ハ奏任四等以下トシ所長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌リ所長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第五條 技師ハ所長ノ指揮監督ヲ承ケ製絨ニ關スル事ヲ監理ス

第六條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ニ從フ

第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製絨ニ關スル技術ニ從事ス

●沿革要領

明治五年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ陸軍省ヲ置ク○同年同月晦日陸軍武官及兵學軍醫ノ二寮糾問、造兵、武庫ノ三司ヲ管ス○同年三月第八十六號達ヲ以テ御親兵ヲ廢シ近衛兵ヲ置キ條例ヲ定ム○同年四月二十四日陸軍省達

ヲ以テ諸寮司局並會計監督條例ヲ定ム○同年同月第十八號ヲ以テ糾問司ヲ廢シ更ニ陸軍裁判所ヲ置キ長、正權評事、參事、大中小主理、大中小録事等ノ職員ヲ置キ等級ヲ定ム●六年三月十二日陸軍省職制並條例ヲ定ム○同年同月第百十三號ヲ以テ陸軍省職制ヲ改定シ卿官房及七局ヲ置キ職員ヲ定ム○同年五月第百五十四號ヲ以テ武官官等ヲ改定ス○同年同月第百五十七號ヲ以テ中少尉ヲ奏任官トシ等級舊ニ依ル○同年同月第百六十號ヲ以テ武官官等表中軍醫部ノ官名ヲ改ム○同年同月十五日武官表ヲ定ム○同年同月第七十二號ヲ以テ軍醫寮ヲ廢ス○同年同月二十四日陸軍省達ヲ以テ大中小尉准心得等ヲ廢シ更ニ少尉試補ヲ置キ判任官ト爲ス○同年七月十五日陸軍省無號達ヲ以テ喇叭隊諸官員ノ等級表ヲ制定ス○同年八月第二十九號ヲ以テ裁判所ノ管獄書記ノ兩官ヲ廢ス○同年十一月十四日軍醫部中ニ軍醫試補ヲ置ク○同年同月第三百九十四號ヲ以テ會計醫馬醫部ノ中少尉相當官ノ者ヲ奏任トス●七年二月陸軍省第七十一號達ヲ以テ馬醫部中ニ馬醫試補ヲ置ク○同年十月陸軍省第三百六十七號達ヲ以テ會計部ニ軍吏試補ヲ置ク○同年十一月第百二十一號布告ヲ以テ武官表ヲ改定ス●八年二月第十二號布告ヲ以テ造兵武庫ノ二司ヲ廢ス○同年五月陸軍省第百三十八號達ヲ以テ戶山學校幼年學校ヲ本省ノ直轄トス○同年九月第百四十五號達ヲ以テ武官表ヲ改定ス●九年一月第一號達ヲ以テ陸軍省職制及事務章程ヲ更定ス●十年一月第三號達ヲ以テ諸寮並大小丞以下ヲ廢シ更ニ書記官屬官ヲ置キ等級ヲ定ム○同年同月第四號達ヲ以テ四等官以下ノ等給ヲ改定ス○同年同月第十五號達ヲ以テ陸軍裁判長以下ノ官等ヲ定ム○同年二月十六日陸軍省號外達ヲ以テ電信取扱所ヲ置キ第一局ニ屬ス●十一年三月陸軍省第七十四號達ヲ以テ少尉試補會計軍吏試補軍醫試補馬醫試補ヲ十等官相當准士官上席ト定ム○同年十二月第五十號達ヲ以テ參謀本部ヲ置キ條例ヲ同部ヘ達ス○同年同月第五十一號達ヲ以テ參謀本部ニ參謀本部長次長ヲ置ク○同年同月第五十二號達ヲ以テ監軍本部ヲ置キ條例ヲ同部ヘ達ス●十二年十月第三十九號達ヲ以テ陸軍職制ヲ定メ陸軍省職制事務章程並ニ陸軍武官官等ヲ改定ス○同年同月陸軍省第七十三號達ヲ以テ陸軍軍醫本部ヲ置キ陸軍本病院ヲ管ス●十三年一月第一號達ヲ以テ軍用電信技手ヲ置キ等級ヲ定ム○同年四月十四日參謀本部條例ヲ改正ス○同年十一月二十五日參謀本部條例中ヲ改正追加ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ陸軍職制事務章程中ヲ改正ス○同年同月二十七日監軍本部條例中ヲ改正ス●十四年一月第四號達ヲ以テ陸軍部内ニ憲兵ヲ置ク○同年五月

第一類 第三章 陸軍省 沿革要領

月第三十九號達ヲ以テ陸軍職制陸軍省職制事務章程中ヲ改正ス○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ各省事務章程通則ヲ定ム●十五年一月十六日參謀本部條例中ヲ改正追加ス○同年二月二十五日參謀本部條例中ヲ改正ス○同年五月第二十三號達ヲ以テ省中理事補審事審事補錄事ヲ置キ官等俸給ヲ定ム○同年七月陸軍省第七十一號達ヲ以テ陸軍臨時建築署條例ヲ定ム○同年九月第五十七號達ヲ以テ陸軍裁判所ヲ廢ス●十六年五月第二十一號達ヲ以テ陸軍武官官等表ヲ改ム●十七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正シ又七軍管區域ヲ改ム○同年五月十四日陸軍下士官等ヲ改正ス●十八年二月第六號達ヲ以テ陸軍武官官等表中軍醫部上長官士官及馬醫部上長官以下ヲ改正ス○同年五月第十七號達ヲ以テ陸軍武官官等屯田兵ノ項ヲ設ケ軍樂長ノ等級ヲ改ム○十八年十二月第六十九號達ヲ以テ各省御職制ヲ廢シ更ニ陸軍大臣ヲ置ク●十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年三月勅令第四號ヲ以テ武官官等表ヲ改定ス○同年四月勅令第六十八號ヲ以テ陸軍本部ヲ廢ス○同年十月勅令第六十八號ヲ以テ陸軍諸學校ニ文官教員ヲ置ク○同年同月勅令第七十六號ヲ以テ臨時砲臺建築部官制ヲ定ム●二十年五月勅令第三十七號ヲ以テ武官官等ヲ更定ス○同年七月閣令第二十七號ヲ以テ監軍本部ヲ廢ス○同年十月勅令第六十八號ヲ以テ陸軍參議官條例ヲ定ム○同年六月勅令第二十五號ヲ以テ陸軍士官學校官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十六號ヲ以テ陸軍幼年學校官制ヲ定ム○同年十月勅令第五十三號ヲ以テ陸軍大學校條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十四號ヲ以テ陸軍戶山學校條例ヲ定ム○同年十二月勅令第七十一號ヲ以テ陸軍砲兵射的學校條例ヲ定ム○同年同月勅令第八十一號ヲ以テ陸軍將校生徒試驗委員條例ヲ定ム●二十一年二月勅令第四號ヲ以テ陸軍大學校條例第二條ヲ改正ス○同年同月勅令第五號ヲ以テ陸軍戶山學校條例第三條ヲ改正ス○同年三月勅令第十三號ヲ以テ陸軍乘馬學校條例ヲ定ム○同年同月勅令第十五號ヲ以テ軍馬育成所官制ヲ定ム○同年五月勅令第二十四號ヲ以テ參謀本部條例ヲ廢シ參軍官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十五號ヲ以テ陸軍參謀本部條例陸軍參謀職制陸地測量部條例ヲ定ム○同年同月勅令第三十四號ヲ以テ陸軍大學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第三十六號ヲ以テ軍醫部條例中ヲ改正ス○同年六月勅令第四十八號ヲ以テ武官官等表中ヲ改正ス○同年同月勅令第五十號ヲ以テ陸軍重症病馬治療所官制ヲ定ム○同年七月勅令

第五十二號ヲ以テ千住製鐵所官制ヲ改正シ該所ヲ陸軍大臣ノ管理ニ屬ス○同年十一月勅令第七十七號ヲ以テ陸軍省法官部官制ヲ定ム●二十二年二月勅令第二十號ヲ以テ戶山學校條例中ヲ改正ス○同年三月勅令第二十五號ヲ以テ參軍官制陸軍參謀本部條例ヲ廢シ更ニ參謀本部條例ヲ定ム○同年同月勅令第二十六號ヲ以テ陸軍參謀職制中ヲ改正ス○同年同月勅令第二十七號ヲ以テ陸軍大學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二十八號ヲ以テ陸地測量部條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第三十四號ヲ以テ陸地測量官官制ヲ定ム○同年四月勅令第四十五號ヲ以テ陸地測量部條例中砲工學校條例ヲ定ム○同年同月勅令第八十一號ヲ以テ陸軍士官學校官制ヲ廢止シ陸軍士官學校條例ヲ定ム○同年同月勅令第八十二號ヲ以テ陸軍幼年學校官制ヲ廢シ陸軍幼年學校條例ヲ定ム○同年十一月勅令第十七號ヲ以テ戶山學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第十九號ヲ以テ參謀職制中ヲ追加ス○同年十二月勅令第二十七號ヲ以テ陸軍重症病馬治療所官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第三十八號ヲ以テ東宮武官官制ヲ定ム●二十三年三月勅令第九號ヲ以テ參謀本部條例第七條中ニ追加ス○同年同月勅令第三十號ヲ以テ陸軍被服工長學舍條例ヲ定ム○同年同月勅令第三十九號ヲ以テ工兵會議條例第五條中ヲ改正ス○同年同月勅令第四十五號ヲ以テ師團司令部條例中ヲ改正追加ス○同年同月勅令第四十六號ヲ以テ近衛司令部條例ヲ制定シ近衛條例ヲ廢止ス○同年同月勅令第四十七號ヲ以テ陸軍教導團條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十一號ヲ以テ陸軍省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第五十六號ヲ以テ近衛師團監督部條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十七號ヲ以テ陸軍司計部條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十八號ヲ以テ陸軍被服廠條例ヲ定ム○同年同月勂令第五十九號ヲ以テ陸軍經營部條例ヲ定ム○同年同月勂令第六十一號ヲ以テ陸軍育成所官制ヲ改正ス○同年五月勂令第七十八號ヲ以テ監軍部條例中ヲ改正ス○同年六月勂令第八十九號ヲ以テ陸軍編輯官官制ヲ定ム○同年同月勂令第九十五號ヲ以テ參謀本部條例中ヲ改正削除ス○同年七月勂令第二百二十號ヲ以テ陸軍砲兵工科學舍條例ヲ定ム○同年同月勂令第三百三十七號ヲ以テ陸軍軍樂學舍條例ヲ定ム○同年八月勂令第六十三號ヲ以テ監軍部條例第六條中ヲ改正ス○同年同月勂令第六十四號ヲ以テ衛戍條例監獄職官表中ヲ改正ス○同年同月勂令第七十二號ヲ以テ砲兵工廠條例ヲ定ム○同年同月勂令第七十七號ヲ以テ陸軍被服工長學舍條例中ヲ加



除ス○同年同月勅令第八十一號ヲ以テ屯田兵條例ヲ定ム○同年同月勅令第八十二號ヲ以テ屯田兵司令部條例ヲ定ム○同年同月勅令第八十三號ヲ以テ屯田兵監督部條例ヲ定ム○同年九月勅令第二十號ヲ以テ監軍部條例中ヲ改正加除ス○同年同月勅令第二百一十一號ヲ以テ砲兵會議條例第一條中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百一十二號ヲ以テ陸軍砲工學校條例第四條第十五條中ヲ改正ス○同年十月第二十三號ヲ以テ千住製絨所官制ヲ改正ス○同年同月勅令第二百三十號ヲ以テ陸軍蹄鉄學舍條例中ヲ改正ス○同年十一月勅令第二百六十五號ヲ以テ陸軍經理學校條例ヲ定ム○同年十二月勅令第二百七十九號ヲ以テ參謀本部條例第二條中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百八十號ヲ以テ陸軍例第二條ヲ改正ス○二十四年勅令第十號ヲ以テ陸軍乘馬學校條例中ヲ改正ス○同年三月勅令第二十八號ヲ以テ陸軍武官官等表ヲ改正ス○同年四月勅令第四十四號ヲ以テ衛戍條例中病院武庫監獄各職官表ヲ改正ス○同年同月勅令第四十五號ヲ以テ陸地測量部條例中ヲ改正加除ス○同年六月勅令第五十六號ヲ以テ陸軍砲兵會議條例ヲ改正ス○同年同月勅令第五十七號ヲ以テ陸軍工兵會議條例ヲ改正ス○同年七月勅令第九十號ヲ以テ陸軍省官制中ヲ改正加除ス○同年八月勅令第六十七號ヲ以テ陸軍戸山學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第七十一號ヲ以テ陸軍大學校條例ヲ定ム○同年同月勅令第七十五號ヲ以テ陸地測量部條例中ヲ改正ス

○近衛司令部條例 二十三年三月二十五日 勅令第四十六號

朕近衛條例ヲ廢シ近衛司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十六號 近衛司令部條例

第一條 都督ハ大中將ヲ以テ之ニ補シ直ニ

天皇陛下ニ隸シ近衛諸隊ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス

第二條 都督ハ主トシテ蓋下ノ護衛ニ任ス其他地方ニ係ル事件及裁判事件ヲ除クノ外其

職務權限ハ師團長ト異ナルコトナク總テ師團司令部條例ノ規定ニ依ル

- 一 參謀部
- 二 副官部
- 三 軍醫部
- 四 獸醫部

第四條 師團司令部條例第十三條及第十四條ハ近衛司令部ニ於テモ亦適用ス

近衛司令部職官表

區分	階級		本	部	支	部	合計
	大將	中將					
都督	相	大佐	一				一
參謀部	相當官	中佐		參謀長		一	一
副官部	相當官	少佐				一	一
軍吏	相當官	大尉				一	一
軍醫部				軍醫長		一	一
獸醫部						一	一
合計			四			九	一五
							二九

備 軍醫部々員ノ内一名ハ藥劑官トス  
考

○近衛師團監督部條例 二十三年三月二十七日  
勅令第五十六號

朕近衛師團監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十六號

近衛師團監督部條例

第一條 近衛師團監督部ハ近衛師團司令部所在地ニ之ヲ置キ陸軍司計部陸軍經營部ヲ

管理シ 近衛師團監督部  
ニ在テハ司計部ヲ除ク 軍隊會計事務ヲ監督シ陸軍官衛會計事務ヲ監視シ總テ官金ノ

收支官有物出納ニ關スル計算及物件 銃砲彈藥工貝材料及  
其他ノ兵器ハ除ク ヲ検査シ且管區内軍吏部下士

ノ人事ヲ掌ル所トス

第二條 近衛師團監督部ハ其近衛司令部所在地ニ在ルモノヲ近衛監督部ト稱シ師團司令

部所在地ニ在ルモノヲ師團監督部ト稱ス

第三條 監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 一二等監督 一人

課長 二等監督若クハ監督補 三人

部員 一二三等軍吏 七人 近衛監督部ニ在  
テハ十八トス

第四條 監督部ニ三課ヲ置ク第一課ハ計算事務第二課ハ糧食被服事務第三課ハ建築陣營  
事務ヲ分掌ス

第五條 監督部ハ當該師管ヲ以テ事務ノ管區トス但第一師管内近衛及第一師團監督部ニ

於テ會計事務ヲ監視スル官衛ノ區域ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六條 監督部長ハ陸軍大臣ニ隸シ其部長タル監督ハ軍隊給養上及會計ニ關スル出師準

備ノ事項ニ付テハ近衛都督師團長ノ命令ヲ承クヘシ

監督部ハ出師若クハ師團及其他ノ演習ニ於テ必要アルトキハ近衛都督師團長ニ隸屬ス

第七條 部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第八條 部長ハ管區内ノ會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ諮問シ其

辯明ヲ求ムルコトヲ得

第九條 部長ハ管區内官衛及軍隊ニ係ル會計上ノ閱檢ヲ行ヒ委任經理金ノ收支ヲ證認シ

廢品賣却ヲ許可シ又必要ニ際シ官衛軍隊ノ金櫃物件及帳簿ヲ検査ス但軍隊ニ在テハ閱

檢前近衛都督師團長ノ承認ヲ經ルモノトス

第十條 課長ハ課務ヲ整理シ分掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第十一條 部員ハ課長ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十二條 第三條ニ掲グル職員ノ外軍吏部下士若干人ヲ置ク

○工兵方面條例 二十二年七月十二日  
勅令第九十四號

第一類 第三章 陸軍省 近衛師團監督部 工兵方面

朕工兵方面條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十四號

工兵方面條例

第一條 工兵方面ハ要塞堡壘砲臺及附屬營造物ノ建築修繕監視其他之ニ關スル工兵事業ヲ掌リ歩工兵ノ工具材料ヲ調辨シ且工兵所屬地ノ事ヲ管轄スル所トス

第二條 工兵方面ハ第一方面第二方面第三方面トス第一方面ハ本署ヲ東京ニ置キ第二方面ハ本署ヲ下ノ關ニ置キ第五第六師管ヲ管轄ス(二十三年十一月十日勅令第二百七十二號ヲ以テ本條ヲ改正ス)第三方面ハ本署ヲ大阪ニ置キ第三第四師管ヲ管轄シ第三方面ハ本署ヲ下ノ關ニ置キ第五第六師管ヲ管轄ス(二十三年十一月十日勅令第二百七十二號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

各管内要塞司令部及重要ノ砲臺所在地ニハ支署ヲ置ク但支署ヲ設置スルトキハ陸軍大臣之ヲ告示ス(同上)

第三條 工兵方面ニ左ノ職員ヲ置ク  
本署  
提理 工兵大中佐一人  
副提理 工兵少佐一人  
署員 工兵大中尉四人  
軍吏 一人

支署

支署長 工兵少佐或ハ工兵大中尉一人  
署員 工兵大中尉一人若クハ二人(二十三年十一月十日勅令第二百七十二號ヲ以テ本項中改正ス)  
軍吏 一人  
第四條 要塞砲臺ノ位置ニ依リ大中尉ヲ支署長ト爲ストキハ他ノ士官及軍吏ヲ置カサルコトヲ得

第五條 第三條ニ掲クル職員ノ外本支署ニ工兵上等監護工兵監護砲臺監守技手及軍吏部書記若干人ヲ置ク(全上ヲ以テ本條中追加ス)

第六條 提理ハ陸軍大臣ニ隸シ方面ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任シ且管内要塞ノ防務ニ參與ス

第七條 副提理ハ提理ヲ補佐シ方面ノ事務ヲ整理ス

第八條 支署長ハ提理ニ屬シ要塞砲臺ニ在テ工兵方面ノ事務ヲ分擔シ所屬要塞司令官ノ命ヲ受ケ其防務ニ參與ス(全上ヲ以テ改正ス)

第九條 署員軍吏ハ提理及署長ノ命ヲ受ケ各事務ヲ分掌ス

第十條 支署長ハ戰時及事變ニ在テハ要塞若クハ砲臺司令官ノ指揮ヲ受ケ工兵諸般ノ勤務ニ從事スヘシ

第十一條 要塞堡壘砲臺ノ改築其他防禦上必要ト認ムル事項アルトキ提理ハ要塞若クハ砲臺司令官ト熟議ノ後陸軍大臣ニ上申スルコトヲ得

第一類 第三章 陸軍省 工兵方面

第十二條 工兵隊ヲ以テ工業ニ從事セシムヘキ命アルトキハ提理ハ該隊長ニ工事施設ノ方法ヲ指示スヘシ

第十三條 提理ハ工事ニ關シ必要ト認ムルトキハ本支署ノ官僚ヲ彼此應用スルコトヲ得  
 第十四條 方面本署及支署ニハ各其所管ノ要塞堡壘砲臺ノ圖面並ニ其周圍ノ地圖ヲ備フヘシ  
 第十五條 第三方面ハ追テ設置スルモノトス其之ヲ設置スルトキハ陸軍大臣之ヲ告示スヘシ  
 第十六條 第三方面設置ニ至ルマテ第一第二第三師管及北海道ヲ第一方面ノ管轄トシ第四第五第六師管ヲ第二方面ノ管轄トス  
 第十七條 第三方面設置ニ至ルマテ第二方面本署ニ軍吏一名ヲ増置スルコトヲ得  
 第十八條 特種ノ技術ニ從事セシムル爲メ當分各方面本署ニ技師一名ヲ置クコトヲ得  
 第十九條 工兵監護ハ當分工兵曹長ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

○陸軍團隊配備 勅令第三十一號 十一月十二日

朕陸軍團隊配備ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽 勅令第三十一號

陸軍常備團隊配備表

師團	旅	步	兵				諸隊衛戍地
			騎	砲	工	輜重	
聯隊	大隊	聯隊	大隊	大隊	大隊		

第一類 第三章 陸軍省 陸軍團隊配備	第一 東京		第二 仙臺				第三 名古屋				第四 大阪	
	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二
	東京	佐倉	仙臺	仙臺	青森	青森	新發田	仙臺	名古屋	名古屋	豐橋	金澤

考 備 二	第六		第五		第四		第三		第二		第一	
	熊本		廣島		廣島		廣島		廣島		廣島	
	第十二	第十一	第十	第九	第八	第七	第六	第五	第四	第三	第二	第一
	小倉	熊本	松山	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島
	第廿四	第廿三	第廿二	第廿一	第二十	第十九	第十八	第十七	第十六	第十五	第十四	第十三
	福岡	熊本	松山	九龍	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島	廣島

要塞砲兵警備隊憲兵及屯田兵ノ配備ハ別ニ定ムル所ニ依ル  
步兵第五聯隊第三大隊ハ函館ニ分屯シ工兵第四大隊ハ伏見ニ屯在ス

○師團司令部條例 二十一年五月十二日 勅令第二十七號  
朕鎮臺條例ヲ廢止シ師團司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十七號

師團司令部條例

第一條 師團長ハ中將ヲ以テ之ニ補シ直ニ

皇帝陛下ニ隸シ師管内ニ在ル軍隊ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス

第二條 師團長ハ師管内軍隊ノ出師準備ヲ整理シ又徵兵ノ事ヲ統轄ス

第三條 師團長ハ部下軍隊ノ練成ニ就テ其責ニ任ス但特科兵専門ノ事ハ當該兵監ノ責任ニ屬ス

第四條 師團長ハ不虞ノ侵襲ニ際シ師管内ノ防禦及陸軍諸官廨諸建築物ノ保護ニ任ス

府縣知事地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナレハ師團長直ニ之ニ應ジテ後陸軍大臣及參軍ニ報告ス可シ若其事變危險ニシテ府縣知事ノ請求シ能ハサル例外ノ場合ニ在テハ師團長ハ兵力ヲ以テ便宜事ニ從フコトヲ得

第五條 疾疫其他例外ノ場合ニ方リ師團長一時其部下軍隊ヲ移轉セシメントスル時至急ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後陸軍大臣及參軍ニ報告スヘシ

第六條 師團長ハ師管内ニ在ル軍隊及陸軍官廨ニ於ケル風紀軍紀ヲ統監シ軍法會議ヲ管轄ス

第七條 師團長ハ軍隊給養及會計ニ關スル出師準備ノ事項ニ付テハ師團監督部長タル監督ニ命令スルノ權ヲ有ス(二十三年三月二十五日勅令第四十五號ヲ以テ本條ヲ追加シ以下逐條繰下ク)

第八條 師團長ハ軍政及人事ニ係ル事ニ就テハ陸軍大臣國防及出師計畫ニ係ル事ニ就テハ參軍教育ニ係ル事ニ就テハ監軍ノ區處ヲ受ク師團長ハ此ニ官ニ對シ各其主任ノ事ニ就キ定期或ハ臨時報告ヲナスヘキモノトス

第一類 第三章 陸軍省 師團司令部

第九條 特科兵専門ノ事ニ付師團長意見アレハ直接ニ之ヲ當該兵監ニ告知スルヲ得

第十條 師團長ハ隨時ニ部下ノ軍隊ヲ檢閲シ毎年教育期ノ終リ即チ機動演習ノ後ニ於テ全師團教育ノ結果能ク實戰ノ目的ニ適スルヤ否又其出戰整備完全ナルヤ否ニ就キ監軍ヲ經テ 奏上ス

第十一條 師團長赴任ノ節師團司令部所在地ノ府縣知事警視總監大審院長控訴院長檢察長始審裁判所長及檢察<sup>上席</sup>トハ三日以内互ニ訪問シ其師管内ノ府縣知事控訴院長檢察長及始審裁判所長及檢察<sup>上席</sup>トハ三十日以内互ニ移文訪問スヘシ但共ニ官等卑キ者ヨリ先<sup>上</sup>ス可シ

第十二條 師團司令部ハ左ノ諸部ヨリ成ル

- 一 參謀部
- 二 副官部
- 三 法官部
- 四 軍醫部 (二十三年三月二十五日勅令第四十五號) ヲ以テ四監督部ヲ創設シ以下操上ク
- 五 獸醫部

第十三條 參謀部及副官部ノ將校ハ參謀長ノ監視ヲ受ケ各自擔任ノ事務ヲ司リ其師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ノ承認ヲ得ヘキモノトス

第十四條 法官部理事軍醫長獸醫長及師團監督部長タル監督ヨリ師團長ニ具申スヘキ事

ニ就テハ先ツ參謀長ニ開陳スヘシ (二十三年三月二十五日勅令第四十五號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

師團司令部職官表

階級	本 部		支 部		合 計
	參謀部	副官部	軍醫部	獸醫部	
中將	參謀長 一	副官 一	軍醫長 一		一
大尉	參謀 一	副官 一	部員 二	獸醫長 一	四
中尉		副官 一			一
少尉					二
准士官					一
曹長					一(一)(三)等書記
一等軍曹					二
二等軍曹					四
軍曹					八
軍醫					三
獸醫					六
書記					二
合計					一九三七

備 考

一 理事録事ノ定員ハ本表ニ掲ケル如シト雖モ第一師團ニ於テハ理事二名録事四名第四師團ニ於テハ録事一名ヲ増加シ旅管ニ特ニ軍法會議ノ設ケアル師團ニ於テハ理事一名ヲ減ス又各師團共ニ理事補録事見習各一名ヲ置クコトヲ得

二 軍醫部々員ノ内一名ハ藥劑官トス (同上ヲ以テ本表ヲ改正ス)

○旅團司令部條例 二十一年五月十二日 勅令第二十八號

第一類 第三章 陸軍省 旅團司令部

朕旅團司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十八號

旅團司令部條例

第一條 旅團長ハ少將ヲ以テ之ニ補シ部下ノ歩兵ニ聯隊及旅管ニ包括スル四大隊區司令  
部ヲ統轄ス

第二條 軍隊ノ訓練、風紀、軍紀、將校ノ教育、內務及糧食、被服、裝具、ノ事ハ聯隊長ノ責任ニ  
シテ旅團長之ヲ統監ス但大隊戰術上ノ訓練ハ特ニ旅團長ノ監視スヘキモノトス

第三條 旅團長ハ他兵連合ノ野外演習ヲ監視シ支隊演習ヲ統轄シ旅團ヲ以テ戰術單位ト  
爲シタル訓練ニ任ス

第四條 旅團長ハ其旅管徵兵ノ事ヲ掌リ又大隊區ノ徵兵事務及召集事務ヲ統監ス

第五條 騷擾變亂ノ事アルニ際シ府縣知事ヨリ兵力ヲ請求スルトキ事急ニシテ指揮ヲ請  
フノ暇ナキトキハ直ニ之ニ應シテ後師團長ニ報告スヘシ

第六條 特ニ軍法會議ヲ設ケタル旅管ニ在テハ旅團長其軍法會議ヲ管轄ス

第七條 旅團司令部ニ副官大尉一名中尉若クハ少尉一名書記下士四名近衛ニ在テハ二名ヲ置ク但軍  
法會議ヲ管轄スル旅團司令部ニハ理事二名録事三名ヲ置ク  
(二十二年十月三日勅令第百  
九號ヲ以テ本條中改正ス)

第八條 本條例中地方ニ係ル事件ハ近衛旅團長ニ適用セス

○大隊區司令部條例二十一年五月十二日  
勅令第二十九號

朕大隊區司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十九號

大隊區司令部條例

第一條 各大隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ

司令官 中佐若クハ少佐一名

副官 大尉若クハ中尉一名

書記 下士五名內一名ハ軍  
吏部下士

監視區長 曹長二名乃至四名

第二條 大隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ其大隊區內徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第三條 大隊區司令官ハ大隊區內ニ現在スル豫備後備ノ將校及相當官ノ身上異動其他願  
届ニ關スル事ヲ掌ル

第四條 大隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第五條 大隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注及計算ノ事ニ從フ

第六條 各大隊區司令部ノ位置左ノ如シ(二十三年五月十九日勅令第八  
十二號ヲ以テ各項ノ內改正ス)

麻布 橫濱 高崎 長野 佐倉

第一類 第三章 陸軍省 大隊區司令部 沿革要領

水戸	本郷	宇都宮	仙臺	福島
新發田	柏崎	青森	盛岡	秋田
山形	名古屋	津	豐橋	静岡
金澤	富山	岐阜	福井	大塚
和歌山	大津	京都	姫路	岡山
神戸	福知山	廣島	尾道	山口
松江	丸龜	徳島	松山	高知
熊本	宮崎	大分	鹿兒島	小倉
佐賀	福岡	長崎		

第七條 大隊區ヲ分テ二箇乃至四箇ノ監視區ト爲ス

第八條 監視區長ハ監視區内ニ駐劄シ豫備後備ノ下士卒ヲ監視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス

第九條 監視區ノ區域並ニ監視區長ノ駐劄地ハ師團長之ヲ定ム

●師旅團及大隊區司令部等ニ係ル沿革要領

明治五年三月十二日鎮臺條例ヲ頒布ス●六年一月第四號布告ヲ以テ全國鎮臺配置ヲ改正ス○同年七月第二百五十五號布告ヲ以テ鎮臺條例ヲ改定ス●七年六月第二百三十三號ヲ以テ鎮臺條例中佐倉管所ヲ下野宇都宮ニ移ス●八年二月第三十三號布告ヲ以テ六年第二百五十五號布告鎮臺條例中ヲ改正ス●十二年九月第三十六號布告ヲ以テ鎮臺條例

ヲ廢ス○同月第三十三號達ヲ以テ更ニ鎮臺條例ヲ定ム●十四年三月陸軍省達甲第七號ヲ以テ後備軍司令部條例ヲ定ム●十六年同省達甲第二十二號ヲ以テ前令中改正加除ス●十七年二月達甲第十四號ヲ以テ府縣及郡區駐在所ノ位置ヲ追加改正ス○同年八月同省達甲第三十三號ヲ以テ司令部名稱ヲ改ム○同月達甲第三十四號省達ヲ以テ後備軍司令部官員職名ヲ換稱ス●十八年五月第二十一號達ヲ以テ鎮臺條例ヲ改正ス●十九年十二月陸軍省令第四十五號ヲ以テ後備軍司令部條例中ヲ加除ス●二十一年五月勅令第二十七號ヲ以テ鎮臺條例ヲ廢シ師團司令部條例ヲ制定ス○同月勅令第二十八號ヲ以テ旅團司令部條例ヲ制定シ勅令第二十九號ヲ以テ大隊區司令部條例ヲ制定ス又勅令第三十號ヲ以テ衝隊條例ヲ定メ勅令第三十一號ヲ以テ團隊配置表ヲ頒布シ勅令第三十二號ヲ以テ陸軍管區表ヲ制定ス

○憲兵本部條例 (日本規則全書上)

○警備隊條例 (十九年十一月三十日)

朕警備隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十五號

警備隊條例

第一章 總則

第一條 小笠原島佐渡隱岐大島沖繩對馬ノ諸分營ニ漸次警備隊ヲ置ク

第二條 警備隊ハ營所司令官ノ管轄ニ屬スルモ指揮供給等ノ事ハ鎮臺司令官直ニ之ヲ管理ス

第三條 警備隊ノ兵卒ハ該島嶼ヨリ徵兵適齡ノ者ヲ徵集シ毎年兩度ニ其半數宛ヲ入營セ

第一類 第三章 陸軍省 憲兵本部 警備隊



シメ在營一箇年ニシテ歸休ヲ命ス

其技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ一箇年未滿ト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第四條 警備隊兵卒中上等兵ノ任ニ堪フ可キ者及上等兵ハ志願ニ依リ尙ホ一箇年間在營スルコトヲ得

上等兵中下士ノ任ニ堪フ可キ者ハ志願ニ依リ現役期限滿ツル迄在營スルコトヲ得

職工ハ志願ニ依リ二箇年以上在營及再服役ヲ爲スコトヲ得其再服役ヲ爲スハ陸軍現役

下士上等兵再服役條例ニ依ル(二十四年六月十三日勅令第六十二號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第五條 警備隊ノ下士ハ該隊上等兵ニシテ在營一箇年ヲ經過シタルモノ、中ヨリ其任ニ堪フ可キ者ヲ拔擢シテ之ニ任ス但時宜ニ依リ他ノ下士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

其上等兵ヨリ下士ニ任シタル者ハ現役期限滿ツル迄在營セシム但現役滿期後ハ陸軍現役下士上等兵再服役條例ニ依ル

兵卒ヨリ縫工(下)長靴工(下)長ニ任シタル者亦前項ノ例ニ依ル(上同)

第二章 司令官ノ本務權限

第六條 警備隊司令官ハ兵隊ノ指揮節度軍紀風紀教育訓練等ノ事ヲ掌リ管地ノ警備保護ニ任ス

第七條 警備隊司令官ハ該全島ノ徵兵調査及豫備役後備軍艦員兵員ニ係ル一切ノ事務ヲ管理ス

第八條 警備隊司令官ハ管内騷擾ノ警アル時ハ先ツ情狀ヲ鎮臺司令官ニ申報シテ其區處ヲ承ク可シ但事火急ニシテ兵力ヲ要シ地方長官ヨリ出兵ヲ要求スル時ハ之ニ應シ狀ヲ具シテ鎮臺司令官ニ急報ス可シ其事外國ニ關涉スルモノハ出兵スルモ守勢ノ戰備ヲ取ル可シ

第九條 管内ニ於テ儀式慶典若クハ變災事故アリテ儀仗或ハ警護ノ爲メ地方長官ヨリ兵隊ヲ要スル事由ヲ具シテ之ヲ請フ時ハ鎮臺司令官ノ區處ヲ請フ可シ但事火急ニシテ區處ヲ請フノ暇ナキ時ハ之ニ應シ然ル後之ヲ報告ス可シ

第十條 出師準備ハ定規ニ從ヒ還算ナキヲ要ス故ニ常ニ人馬召集物品徵發運輸等ノ方法ヲ整ヘ又後備兵ニ支給ス可キ武器彈藥被服陣具器具材料等ヲ備ヘ各主務官ヲシテ其貯藏保存ノ事ヲ擔任セシム可シ

第十一條 管内ニ在ル下士及兵員ノ身上ニ係ル事項ニ就テハ地方官ノ通牒ヲ受理シ例規アルモノハ直ニ處分シ其例規ナキモノハ鎮臺司令官ニ具申シテ區處ヲ承ク可シ

○警備隊區司令部條例

廿二年十二月廿八日勅令第四百四十二號

朕警備隊區司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百四十二號

警備隊區司令部條例

第一類 第三章 陸軍省 警備隊區司令部

第一條 警備隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ

司令官 中佐若クハ少佐一名

副官 大尉若クハ中尉一名

書記 下士二名

第二條 警備隊區司令官ハ警備隊司令官之ヲ兼攝ス

第三條 警備隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ警備隊區内徴兵事務及召集事務ヲ掌ル

第四條 警備隊區司令官ハ警備隊區内ニ現在スル豫備後備將校同相當官ノ身上異動其他

願届ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 警備隊區司令官ハ豫備隊區内ニ現在スル豫備後備下士兵卒ヲ管轄シ歸休兵ヲ監

視ス

第六條 警備隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第七條 警備隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注計算ノ事ニ從フ

第八條 警備隊區司令部位置ハ警備隊常屯ノ地トス

○屯田兵司令部條例

二十三年八月二十九日  
勅令第百八十二號

朕屯田兵司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百八十二號

屯田兵司令部條例

第一條 屯田兵司令官ハ少將ヲ以テ之ニ補シ直ニ

天皇陛下ニ隸シ屯田兵ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス

第二條 司令官ハ屯田兵ノ出師準備ヲ整理シ部下軍隊ノ練成ニ就テハ其責ニ任ス

第三條 司令官ハ屯田兵ノ徵募補充並ニ開墾耕耘ノ事ヲ掌ル

第四條 司令官ハ不虞ノ侵襲ニ際シ北海道ノ防禦及陸軍諸官廨諸建築物ノ保護ニ任

ス

北海道廳長官地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナレハ司令官直ニ之ニ  
應シテ後陸軍大臣及參謀總長ニ報告ス可シ若シ其事變危險ニシテ北海道廳長官ノ請求  
シ能ハサル例外ノ場合ニ在テハ司令官兵力ヲ以テ便宜事ニ從フコトヲ得

第五條 疾疫其他例外ノ場合ニ方リ司令官一時其部下軍隊ヲ移轉セシメントスル時至急  
ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後陸軍大臣及參謀總長ニ報告ス可シ

第六條 司令官ハ北海道ニ在ル軍隊及陸軍官廨ニ於ケル風紀軍紀ヲ統監シ軍法會議及監  
獄ヲ管轄ス

第七條 司令官ハ軍政及人事ニ係ル事ニ就テハ陸軍大臣國防及出師計畫ニ係ル事ニ就テ  
ハ參謀總長ノ區處ヲ受ク司令官ハ此兩官ニ對シ各其主任ノ事ニ就キ定期又ハ臨時報告  
ヲ爲ス可キモノトス

第一類 第三章 陸軍省 屯田兵司令部

軍隊及移住給與上ニ關スル事ニ就テハ屯田兵監督部長タル監督ヲ指揮ス

第八條 司令官ハ隨時屯田兵隊ヲ檢閲シ毎年一回其景況ヲ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第九條 司令官赴任ノ節司令部所在地ノ地方長官始審裁判所長及檢事<sup>上席</sup>トハ三日以内

互ニ訪問シ北海道ニ在ル控訴院長檢事長始審裁判所長<sup>上席</sup>トハ二十日以内互ニ移

文訪問ス可シ但官等昇キ者ヨリ先ニス可シ

第十條 屯田兵副司令官ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ其職務司令官ニ亞キ司令官ヨリ委任ノ事

項ハ之ヲ專行ス

第十一條 屯田兵司令部ハ左ノ諸部ヨリ成ル

一 參謀部

二 副官部

三 法官部

四 軍醫部

第十二條 參謀部及副官部ノ將校ハ各自擔任ノ事務ヲ司リ其司令官ニ具申ス可キ事ニ就

テハ先ツ副司令官ニ開陳ス可シ

第十三條 法官部理事軍醫長及屯田兵監督部長タル監督ヨリ司令官ニ具申ス可キ事ニ就

テハ先ツ副司令官ニ開陳ス可シ

第十四條 本條例ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

屯田兵司令部職官表

備考	合計	支部		本部				區分	階級	少將 大佐 中佐 少佐 大尉 中尉 少尉 曹長 一等軍曹 二等軍曹 計
		軍醫部	法官部	軍吏	副官部	參謀部	副司令官			
一 軍醫部員ノ内一名ハ藥劑官トス	一						一			
二 書記ハ屬ヲ混用スルコトヲ得但各部(軍醫部)定員ノ半數ヲ超ユルヲ得ス	四	長	理事		參謀	副官 副官	一 一			
	一	一部員			一參謀					
	二	二書記			書記					
	二		二録事							
	三		三技手							
	五									
	七									
	八									
	一四									
	一六									
	一五									
	二五									
	四二									

○屯田兵監督部條例 二十三年八月二十九日 勅令第百八十三號

朕屯田兵監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百八十三號

第一類 第三章 陸軍省 屯田兵監督部

屯田兵監督部條例

第一條 屯田兵監督部ハ屯田兵司令部所在ノ地ニ之ヲ置キ屯田兵隊會計事務ヲ監督シ屯田兵官衙ノ會計事務ヲ監視シ官金ノ收支官有物ノ出納ニ關スル計算及物件銃器彈藥及其他兵器ヲ除クヲ検査シ且屯田兵所在地内軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル所トス

第二條 屯田兵監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 一二等監督 一人

部員 監督補 一人

副部員 一二等軍吏 二人

第三條 部長ハ陸軍大臣ニ隸シ其部長タル監督ハ軍隊及移住給與上ニ關スル事項ニ付テハ屯田兵司令官ノ命令ヲ承ク可シ

監督部ハ戰時若クハ事變ニ際スルトキ及演習ニ於テ必要アルトキハ屯田兵司令官ニ隸屬ス

第四條 部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第五條 部長ハ監視監督ニ係ル會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ諮問シ其辯明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 部長ハ屯田兵官衙及軍隊ニ係ル會計上ノ閱檢ヲ行ヒ委任經理金ノ收支ヲ證認シ廢品賣却ヲ許可シ又必要ニ際シ官衙及軍隊ノ金櫃物件及帳簿ヲ検査ス但軍隊ニ在テハ閱檢前屯田兵司令官ノ承認ヲ經ルモノトス

第七條 部員ハ部長ノ指揮ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第八條 副部員ハ上官ノ命ヲ承ケ主務ニ服ス

第九條 第二條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士若干名ヲ置ク

第十條 本條例ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○海軍省官制

二十四年七月二十四日 勅令第九十一號

朕海軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十一號

海軍省官制

第一條 海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス

第二條 海軍大臣祕書官ハ一人トシ主計大監ヲ以テ之ニ補ス

第三條 海軍大臣官房ニ主事副主事各一人ヲ置ク主事ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ副主事ハ主計大監ヲ以テ之ニ補ス

第四條 主事ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ副主事ハ主事ヲ助ク

第五條 海軍省ニ參事官書記官ヲ置カス

第六條 海軍省ニ左ノ二局ヲ置ク

第一局

第一類 第三章 海軍省

第二局

第三局

第七條 第一局ニ於テハ武官教官主理ノ進退任免、艦團軍隊ノ制規職務、戒嚴徵發、教育、訓練、紀律、徵兵、儀式、服制ニ關スル事務ヲ掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第八條 第二局ニ於テハ艦船兵器ノ製造修理、兵器彈藥艦營需品ノ準備供給及艦船籍ニ關スル事務ヲ掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第九條 第三局ニ於テハ經費ノ豫算決算、金錢及物品會計ノ事務、被服糧食、俸給恩給、諸給、土地家屋ノ保管營造、金錢出納及用度ノ事務ヲ掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十條 各局中各課ニ次長各一人ヲ置ク第一局第一課ニ機關少監一人ヲ勤務セシム

第十一條 第一局長及第二局長ハ少將第三局長ハ主計總監ヲ以テ之ニ補シ各課長及第一局第一課次長、第二局第二課次長、第三局第二課次長ハ上長官ヲ以テ之ニ補シ其他課次長ハ士官ヲ以テ之ニ補ス

第一局第二課長及次長ハ東京軍法會議ノ主理ヲ以テ之ヲ兼務セシム

第十二條 課長ハ局長ノ命ヲ承ケ課務ヲ整理ス課次長ハ課務ノ一部ヲ分擔シ課長事故アルトキハ之ヲ代理ス又機關少監ハ課長ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十三條 海軍省ニ上等兵曹、機關師、船匠師、屬、技手ヲ置キ海軍大臣官房各局課ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十四條 海軍省ノ職員ハ別表定ムル所ニ依ル

附則

第十五條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

海軍省職員定員表

大臣 次官									
第一局					第二局				
長					長				
少將					少將				
第一課			第二課		第一課			第二課	
長			長		長			長	
大技監			大技監		大技監			大技監	
次長			次長		次長			次長	
大技士			大技士		大技士			大技士	
次長			次長		次長			次長	
少技監			少技監		少技監			少技監	
大機關士			大機關士		大機關士			大機關士	
主計大監					主計大監				
大佐					大佐				
主計大監					主計大監				
一等兵曹					一等兵曹				
三					三				
機關師					機關師				
一					一				
船匠師					船匠師				
一					一				
屬					屬				
六十二					六十二				

總計 百四人		
局 三 第	長	
	第一課	長 主計大監 一 次長 大主計 一
	第二課	長 主計大監 一 次長 主計少監 一
第三課	長 主計大監 一 次長 大主計 一	技 手 十

●參照舊令

○海軍省官制 二十三年三月二十七日 勅令第五十二號

- 第一條 海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部ヲ監督ス
- 第二條 海軍大臣祕書官ハ佐官又ハ主計監ヲ以テ之ニ補ス
- 第三條 海軍大臣官房ニ主事一人副主事一人ヲ置ク主事ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ副主事ハ主計監ヲ以テ之ニ補ス
- 第四條 主事ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌ル副主事ハ主事ヲ助ク
- 第五條 海軍省ニ總務局ヲ置カス
- 第六條 海軍省ニ參事官書記官ヲ置カス
- 第七條 海軍省ニ左ノ諸局ヲ置ク
  - 第一局
  - 第二局
  - 第三局
- 第八條 第一局長及第二局長ハ少將第三局長ハ主計總監ヲ以テ之ニ補シ各課長ハ上長官課次長ハ士官ヲ以テ之ニ補ス
- 軍法課長及軍法課次長ハ東京軍法會議ノ主理ヲ以テ之ニ充ツ
- 第九條 第一局ニ於テハ教育訓練紀律徵兵給與及人ニ關スル經費豫算ノ調製ヲ掌リ第一課第二課第三課軍法課ヲ置

キ其事務ヲ分掌セシム

- 第十條 第二局ニ於テハ艦船兵器ノ製造修理兵器彈藥艦船管需品ノ準備供給土地家屋ノ保管管轄及物ニ關スル經費豫算ノ調製ヲ掌リ第一課第二課第三課第四課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十一條 第三局ニ於テハ經費豫算ノ統理其他會計事務ノ整理並省中用度ノコトヲ掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第十二條 課長ハ局長ノ命ヲ承ケ課務ヲ整理ス課次長ハ課務ノ一部ヲ分擔シ課長事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 第十三條 海軍省ニ技師上等兵曹機關師匠師屬技手ヲ置キ海軍大臣官房各局課ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服セシム
- 第十四條 海軍省ノ人員ハ別表定ムル所ニ依ル

海軍省職員定員表

大 次		大 臣 官 房	
第 一	第 二	主 事	大 佐
少 局 長	局 長	副 主 事	主 計 監
將		祕 書 官	佐 官 又 ハ 主 計 監
第 三 課	第 二 課	第 一 課	
課 長	課 長	課 長	
主 計 監	佐 官	佐 官	
一	一	一	
課 次 長	課 次 長	課 次 長	
大 主 計	大 尉	大 尉	
一	一	一	
	技 師		
	一		
	上 等 兵 曹		
	四		

第一類 第三章 海軍省

臣官							
局 三 第		局 二 第			局		
局長 主計總監		局長 少將					
課三第	課二第	課一第	課四第	課三第	課二第	課一第	課法軍
課長 主計監	課長 主計監	課長 主計監	課長 主計監	課長 佐官	課長 技監	課長 佐官又 ハ技監	課長 主理
一	一	一	一	一	一	一	一
課次長 大主計	課次長 大主計	課次長 大主計		課次長 大尉又ハ 大機關士	課次長 大技士	課次長 大尉又ハ 大技士	課次長 主理
一	一	一		一	一	一	一
技手 十一		屬 六十五			船匠師 二		機關師 一

總計 百十二人

○分課規程

官報 二十四年八月二十二日

大臣官房ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ

一 機密文書ニ關スルコト

- 二 軍艦軍隊ノ進退傳達ニ關スルコト
- 三 閣議案命令案其他各局ノ成案ヲ審査シ及公文ヲ立案スルコト
- 四 公文書類及成案文書ヲ授受發送スルコト
- 五 武官文官ノ官職任補等ニ關スル諸辭令取扱ノコト
- 六 文官教授助教主理錄事ヲ除クノ定員及進退敘位敘勳其他身分ニ關スルコト及其履歷名簿ヲ整頓スルコト

- 七 大臣ノ官印及省印ヲ管守スルコト
  - 八 海外電信ノ發送ニ關スルコト
  - 九 陪食陪宴參贊參拜拜謁ニ關スルコト
  - 十 海軍職員錄ヲ編製スルコト
  - 十一 公文書類ヲ編纂保存シ諸例則及指令通報ヲ改正刊行スルコト
  - 十二 年報統計ヲ調製シ及官報掲載ニ關スルコト
  - 十三 海軍將官會議及進級會議ニ關スルコト
  - 十四 三局ノ主管外ニ係ル事項
- 大臣祕書官ハ大臣ニ專屬シテ機密事務ヲ掌ルノ外第一條第五項第六項第七項及第十項ノ事務ヲ掌理シ又臨時其他ノ事務ニ服ス
- 上裁又ハ機密ニ關スル差使往復ハ祕書官又ハ大臣傳令使ノ所掌ニ屬ス

第一類 第三章 海軍省 分課規程

第一局ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ

第一課

- 一 高等武官及候補生其他教官<sup>官</sup>ノ進退任免補職命課增俸其他身分ニ關スルコト
- 二 准士官下士ノ任官進級增俸其他身分ニ關スルコト
- 三 軍人教育ニ係ル雇外國人ニ關スルコト
- 四 軍人軍屬<sup>官</sup>ノ紋位紋勳記章褒章ニ關スルコト
- 五 候補生及生徒採用ニ關スルコト
- 六 兵員ノ調査補充徵集再役歸休召集ニ關スルコト
- 七 待命休職停職豫備後備ノ軍人及海軍豫備員ノ管轄ニ關スルコト
- 八 高等武官及候補生准士官ノ考課試用報告及學術檢査ニ關スルコト
- 九 高等武官並ニ候補生准士官ノ名簿ヲ編製シ及教官ノ履歷名簿ヲ整頓スルコト
- 十 艦團隊及各廳ノ定員及兵員部署法ニ關スルコト
- 十一 高等武官及候補生准士官下士卒其他生徒ノ教育訓練ニ關スルコト

第二課

- 一 鎮守府及艦團軍隊ノ職務役務ニ係ル規程訓令ニ關スルコト
- 二 軍紀風紀其他軍人ノ分限身分ニ係ル諸制規ニ關スルコト
- 三 檢閲演習點檢ニ關スルコト

- 四 海軍諸學校及艦團隊ニ係ル教育訓練ノ規程並ニ商船學校ニ關スルコト
- 五 武官任用學術檢査進級增俸ノ規程ニ關スルコト
- 六 儀式禮式祭典服制旗章徽章ニ關スルコト
- 七 戒嚴令徵發令ニ關スルコト
- 八 徵兵志願兵ノ諸制規ニ關スルコト
- 九 豫備後備兵召集ノ規程ニ關スルコト
- 十 海上條規ニ關スルコト

第三課

- 一 海軍刑法治罪法違警罪處分例監獄則及普通法律ニ關スルコト
- 二 懲罰令諸罰則ニ關スルコト
- 三 各軍法會議ノ裁判及其事務ノ監査ニ關スルコト
- 四 軍法會議普通裁判所交涉事件處分法ニ關スルコト
- 五 軍法會議及普通裁判ノ處分ヲ受ケタル者ニ關スルコト
- 六 主理錄事ノ進退任免命課增俸紋位紋勳其他身分ニ關スルコト及其履歷名簿ヲ整頓スルコト

第二局ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ

第一課

第一類 第三章 海軍省 分課規程



- 一 兵器彈藥及屬具ノ製造修理ニ關スルコト
- 二 兵器彈藥及屬具ノ數額ヲ定メ其配備供給及其制規ニ關スルコト
- 三 艦船兵裝ノ大體ヲ定メ計畫方案及入費概算書ヲ調査スルコト
- 四 兵器彈藥ニ關スル規則訓令ヲ立案及調査スルコト
- 五 兵器製造所火藥製造所各鎮守府兵器部工場及武庫火藥庫ノ構造設置存廢ニ關スルコト
- 六 兵器簿兵器履歷簿兵器目錄ヲ整頓スルコト
- 七 造兵工場ノ職工及雇外國人ニ關スルコト

第二課

- 一 新製スヘキ艦船ノ大體計畫及建造所ヲ查定スルコト
- 二 內國私立造船所ニ注文スル艦船ノ製造條約ヲ調査スルコト
- 三 外國ニ注文スル艦船ノ製造條約及購買條約ヲ調製シ及之ニ關スル事項ヲ調査スルコト
- 四 船體機關及其屬具ノ製造改造修理及造船部ノ新築改築工業用諸器械計畫及其入費概算書ヲ調査スルコト
- 五 艦船及造船部ノ工場工業用物品ノ保存廢棄賣買ニ關スル事項ヲ調査スルコト
- 六 船體機關及屬具ノ製造材料及造船部ノ工業用材料ノ試驗報告ヲ調査スルコト

- 七 艦船籍艦船明細簿艦船目錄艦船表及造船部ノ明細表ヲ調製スルコト
- 八 船體機關ニ關スル規則訓令ヲ立案調査スルコト
- 九 船體機關ニ關スル諸報告類ヲ調査シ其試驗及檢查報告ヲ調査スルコト
- 十 艦船ノ保安救護ニ關スルコト
- 十一 造船工場ノ職工及雇外國人ニ關スルコト

第三課

- 一 艦營需品ノ品種數額ヲ定メ其配備供給及制規ニ關スルコト
  - 二 艦船ノ機裝ニ關スル方案及其入費概算書ヲ調査スルコト
  - 三 機裝及艦營需品ニ關スル規則訓令ヲ立案調査スルコト
  - 四 艦營需品倉庫ノ構造設置存廢ニ關スルコト
- 第二局ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ

第一課

- 一 豫算決算ニ關スルコト
- 二 豫備金支出ニ關スルコト
- 三 經費決算報告書ヲ調製スルコト
- 四 定額繰越過年度支出定額戻入ニ關スルコト
- 五 出納官吏身元保證金ニ關スルコト
- 六 特別會計ニ關スルコト

第一類 第三章 海軍省 分課規程

- 七 豫算出納決算ノ諸例規ニ關スルコト
- 八 俸給給與ノ諸制規ニ關スルコト
- 九 被服糧食治療品ノ經理ニ關スルコト
- 十 恩給官吏遺族扶助、文官退官賜金ニ關スルコト
- 十一 他課ノ主管外ニ係ル事項

第二課

- 一 官有財産ニ關スルコト
- 二 物品會計及兵備品會計ニ關スルコト
- 三 材料物品ノ制規ニ關スルコト
- 四 賣買貸借ノ諸制規ニ關スルコト
- 五 工事受負ノ諸制規ニ關スルコト
- 六 鎮守府ノ所管ニ屬セサル官有財産ヲ管理スルコト
- 七 鎮守府ノ所管ニ屬セサル營繕ヲ爲スコト
- 八 會計主務官ヲ置カサル東京軍事費廳及本省ノ物品購買供給通信運搬舟車馬使役ニ關スルコト及監護使丁馭者馬丁人夫ヲ支配スルコト
- 九 諸鑑札舟車乘用券取扱ノコト
- 十 本省構内取締ノコト

第二課

- 一 本省收入ニ關スルコト
- 二 本省費及本省ニ於テ支拂フヘキ經費仕拂ノコト
- 三 收入總報告書支出總報告書ヲ調製スルコト
- 四 歲出簿支出簿歲入簿收入簿及其補助簿ヲ登記保管スルコト
- 五 留守宅渡金取扱ノコト

○海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ書記ヲ置ク 二十四年四月二十五日 勅令第四十三號  
 朕海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ書記ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第四十三號

- 第一條 海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ更ニ書記ヲ置ク
- 第二條 書記ノ官等俸給ハ明治十九年勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル (判任官俸給令ハ二十四年七月二十四日勅令第八十三號ヲ以テ改正ス)
- 第三條 書記ノ定員ハ從來定ムル屬ノ定員ニ同シ

○海軍武官官階 二十四年七月二十七日 勅令第四百五十七號  
 朕茲ニ海軍武官官階ヲ定ムルノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

第一類 第三章 海軍省 海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ書記ヲ置ク 海軍武官官階

勅令第五百五十七號

第一條 海軍武官官階ヲ定ムルコト左表ノ如シ

海軍武官官階表

將官	又佐官	士官	又尉官	准士官	下士														
					一等	二等													
大將	中將	少將	將大	佐少	佐大	尉少	尉	准士官	上等兵曹	一等兵曹	二等兵曹	三等兵曹	一等信號手	二等信號手	三等信號手	一等軍樂手	二等軍樂手	三等軍樂手	
機技總監	機技部上長官	機技部上長官	機技部上長官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官	機技部士官
軍醫總監	軍醫部上長官	軍醫部上長官	軍醫部上長官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官	軍醫部士官
主計總監	主計部上長官	主計部上長官	主計部上長官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官	主計部士官

第二條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

第三條 海軍武官官等表ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○海軍會計監督部條例

勅令第七十八號 二十四年七月十七日

朕海軍會計監督部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十八號

海軍會計監督部條例

- 第一條 海軍會計監督部ハ東京及鎮守府所在ノ地ニ置ク其東京ニ在ルモノヲ中央會計監督部ト稱シ鎮守府所在ノ地ニ在ルモノヲ某地會計監督部ト稱ス
- 第二條 中央會計監督部ハ海軍全般ノ會計事務ヲ監督シ兼テ東京府下ニ在ル海軍各廳艦船ノ會計事務ヲ監督ス
- 第三條 鎮守府所在地ニ在ル會計監督部ハ該鎮守府管區内ニ在ル海軍各廳艦船團隊ノ會計事務ヲ監督ス
- 第四條 中央會計監督部ニ部長一人ヲ置キ海軍省第二局長ヲ以テ之ニ兼補シ部員二人ヲ置キ主計大監及主計少監ヲ以テ之ニ補ス
- 第五條 鎮守府所在地ニ在ル會計監督部ニ部長一人ヲ置キ主計大監ヲ以テ之ニ補シ部員一人ヲ置キ主計少監ヲ以テ之ニ補ス
- 第六條 中央會計監督部長ハ海軍大臣ノ指揮ヲ承ケ其部務ヲ整理シ鎮守府所在地ニ在ル會計監督部ヲ指揮監督ス

第一類 第三章 海軍省 海軍會計監督部

- 第七條 鎮守府所在地ニ在ル會計監督部長ハ中央會計監督部長ノ指揮ヲ受ケ其部務ヲ整理ス
- 第八條 各會計監督部ノ部員ハ部長ノ指揮ヲ受ケ部務ニ服ス
- 第九條 各會計監督部ニ書記ヲ置キ書記ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス
- 第十條 鎮守府所在地ニ在ル會計監督部ニ係ル費用ハ該鎮守府ノ支出ニ屬ス
- 第十一條 各會計監督部ノ職員ハ左表ニ依ル

海軍會計監督部定員表

中央會計監督部	部長	第三局長ヲ以テ兼補ス	
	部員	主計大監	
		主計少監	
横須賀會計監督部	部長	主計大監	書記
	部員	主計少監	
吳會計監督部	部長	主計大監	十二
	部員	主計少監	
佐世保會計監督部	部長	主計大監	
	部員	主計少監	

○海軍參謀部條例 二十二年三月七日 勅令第三十號

朕海軍參謀部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十號

海軍參謀部條例

- 第一條 海軍大臣ハ各省官制ニ揭クルモノ、外帷幕ノ機務ニ參シ出師作戰海防ノ計畫ニ任スルモノトス
- 第二條 海軍大臣ノ下ニ海軍參謀部ヲ置キ軍事ノ計畫ヲ掌ラシム
- 第三條 海軍參謀部ニ長一人ヲ置キ將官ヲ以テ之ニ補シ部務ヲ總理セシム
- 第四條 海軍參謀部ニ第一課第二課第三課ヲ置キ部務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ
  - 第一課 作戰出師準備海上運輸ノ計畫
  - 第二課 海岸防禦
  - 第三課 諜報
- 第五條 課長ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ第一課第三課ニ課員四人ヲ置キ一人ハ少佐三人ハ大尉ヲ以テ之ニ補シ第二課ニ課員三人ヲ置キ一人ハ少佐二人ハ大尉ヲ以テ之ニ補ス
- 第六條 部長ハ臨時甲課員ニ乙課ノ事務ヲ兼務セシムルコトヲ得
- 第七條 海軍參謀部ニ大臣傳令使部長傳令使各一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補シ大臣部長ニ專屬セシメ又部長ノ命ヲ受ケ課務ヲ助ケシム
- 第八條 公使館附將校ハ海軍參謀部ヲシテ管轄セシム (二十三年十月十八日勅令第二) (百四十號ヲ以テ本條ヲ改正ス)
- 第九條 海軍參謀部ニ出仕將校ヲ置キ臨時ノ事務ニ從事セシム (同上ヲ以テ本) (條以下追加ス)
- 第十條 海軍參謀部ニ編修編修書記ヲ置キ第三課ニ屬セシム
- 第十一條 海軍參謀部ニ船匠師兵曹技手屬ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ部務ニ從事セシム

第一類 第三章 海軍省 海軍參謀部

第十二條 海軍參謀部ノ定員ハ左ノ如シ

部長 將官		部長官房	部長傳令使	大尉	大尉	編修	一
第一課	課長	課員	大尉	少佐	大佐	船匠師	一
第二課	課長	課員	大尉	少佐	大佐	兵曹	二
第三課	課長	課員	大尉	少佐	大佐	技手	一
公使館附將校	佐官或ハ大尉					編修書記	九
出仕將校	佐官或ハ大尉						十三

○海軍條例 十九年四月二十二日 勅令第二十四號

朕海軍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十四號

海軍條例

- 第一條 凡ソ事軍令ニ關スル者ハ參謀本部長奏聞參畫シ 親裁ノ後海軍大臣之ヲ奉行ス
- 第二條 戰時ニ在テ 親裁ノ軍令ハ直ニ鎮守府司令長官艦隊司令長官若クハ特命司令官ニ下シ帷幕ト相通報シテ間斷ナカラシム
- 第三條 海軍ノ軍政ハ海軍省官制ニ依リ海軍大臣之ヲ掌ル
- 第四條 海軍省ニ將官會議造船會議兵器會議ヲ置ク
- 第五條 海軍省ハ海軍兵學校機關學校水路部督買部衛生部軍醫學校會計検査部兵器製造所火藥製造所ヲ管轄ス
- 第六條 帝國ノ海岸及海面ヲ分チテ五海軍區トナスコト左ノ如シ

第一海軍區

陸中陸奥國界ヨリ紀伊國南牟婁東牟婁郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面

第二海軍區

紀伊國南牟婁東牟婁郡界ヨリ石見長門國界ニ至リ又筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州東海岸ニ沿ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面並内海

第三海軍區

筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州西海岸ニ沿ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及壹岐對馬沖繩諸島ノ海岸海面

第四海軍區

第一類 第三章 海軍省 海軍

石見長門國界ヨリ羽後陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐佐渡ノ海岸海面  
第五海軍區

北海道陸奥ノ海岸海面及津輕海峽

第七條 各海軍區ノ軍港ニ鎮守府ヲ置キ其軍區ヲ管轄セシム

鎮守府ノ名稱ハ其所在ノ地名ニ依ル

第八條 鎮守府司令長官ハ管内ニ於テ軍令ヲ主掌シ軍紀風紀訓練ヲ董督シ軍政ヲ管理ス

第九條 各軍港ニ司令官ヲ置キ命ヲ鎮守府司令長官ニ承ケ港内ノ守備其他諸般ノ事ヲ掌

ラシム

第十條 艦隊ハ大艦隊中艦隊小艦隊ノ三種ニ區別ス

第十一條 艦隊司令長官及司令官ハ艦隊ヲ統率シテ環海ヲ守衛シ攻守ノ役ニ服ス

第十二條 艦船ハ各鎮守府及各艦隊ニ分屬ス

○鎮守府條例 二十二年五月二十八日  
勅令第七十二號

朕鎮守府官制ヲ廢止シ鎮守府條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十二號

鎮守府條例

第一條 帝國ノ海岸及海面ヲ區畫シ五海軍區トシ各海軍區ニ鎮守府ヲ置ク

鎮守府ハ其所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 鎮守府ヲ置ク港ヲ軍港トシ海軍ニ於テ守備スル地ヲ要港トス

軍港要港ノ境域ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條 海軍區ノ區畫ハ左ノ如シ

第一海軍區

陸中國南九戸北閉伊郡界ヨリ紀伊國南牟呂東牟呂郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島  
ノ海岸海面

第二海軍區

紀伊國南牟呂東牟呂郡界ヨリ石見長門國界ニ至リ又筑前豐前國界ヨリ九州東海岸ニ  
沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面並内海

第三海軍區

筑前豐前國界ヨリ九州西海岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及壹  
岐對馬沖繩諸島ノ海岸海面

第四海軍區

石見長門國界ヨリ羽後陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐佐渡ノ海岸海面

第五海軍區

北海道陸奥及陸中國北九戸南九戸兩郡ノ海岸海面

第一類 第三章 海軍省 鎮守府

第四條 第一海軍區鎮守府ヲ相模國三浦郡横須賀ニ置キ第二海軍區鎮守府ヲ安藝國安藝郡吳ニ置キ第三海軍區鎮守府ヲ肥前國東彼杵郡佐世保ニ置キ第四海軍區鎮守府ヲ丹後國加佐郡舞鶴ニ置ク

第五海軍區鎮守府ノ位置ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 鎮守府ハ出師ノ準備軍港要港ノ防禦管海ノ警備軍艦ノ製造修理兵員ノ徵募訓練ヲ掌ル所トス

第六條 鎮守府ニ司令長官一人ヲ置キ海軍中將ヲ以テ之ニ補シ

天皇ニ直隸シ所屬ノ軍艦軍隊ヲ統率シ軍事ヲ統理シ海軍大臣ノ命ヲ受ケ所管ノ軍政ヲ總理ス

第七條 司令長官ハ軍港司令官造船部長兵器部長主計部長建築部長鎮守府衛生會議議長鎮守府會計監督部長ヲ直轄シ又軍法會議ヲ管轄ス

第八條 司令長官ハ部下ノ艦船軍隊ヲ檢閲シ其成績ハ海軍大臣ヲ經テ奏上スヘシ

第九條 司令長官ハ軍港内ニ在ル部下ノ一艦ニ其旗章ヲ掲揚シ艦船ヲ指揮ス但場合ニ依リテハ陸上ニ其旗章ヲ掲揚スルコトヲ得

第十條 司令長官ハ軍港内一般ニ關スルコトニ於テハ他管ノ軍艦ヲ指揮スヘシ又戰時事變ニ際シテハ軍港内ニ在ル他管ノ軍艦兵員ヲ以テ軍港ノ守備ニ供スルコトヲ得

第十一條 司令長官ハ其部下ノ艦船ヲ管區内ニ派遣スルコトヲ得又練習ノ爲メニハ五日以内ノ日數ヲ以テ軍隊ヲ陸路二十里以内ニ派遣スルコトヲ得

第十二條 司令長官ハ府縣知事ヨリ地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナレハ直ニ之ニ應シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ若其事急激危險ニシテ知事ヨリ請求ノ暇ナキトキハ便宜事ニ從フコトヲ得

第十三條 司令長官ハ疾疫其他例外ノ場合ニ方リ一時部下ノ兵員ヲ移轉セシメントスル時至急ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條 司令長官ハ部下ノ兵員ヲ以テ衛兵ヲ編制シ軍港内ニ於テ海軍部内ニ對シ司法警察行政警察ヲ行フコトヲ得

衛兵ニハ司令一人副司令一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補ス

第十五條 司令長官ハ部下ノ職員事故アル時ハ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十六條 司令長官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長 一人 大佐  
參謀 二人 少佐一人 大尉一人  
祕書 二人 大尉一人 大主計一人  
司令長官傳令使 一人 大尉

第十七條 參謀長ハ司令長官ノ職務ヲ補佐シ其機務ニ參シ命令ノ普及並ニ其實施ヲ監視

第一類 第三章 海軍省 鎮守府

スルヲ以テ任トス

第十八條 參謀長ハ沿岸望樓ノ事務ヲ統理シ參謀祕書傳令使測器主管文庫主管ヲ指揮監督ス

第十九條 參謀ハ參謀長ノ命ヲ受ケ出師ノ準備軍港要港ノ防禦小演習ノ計畫艦船軍隊ノ檢閲ニ關スル事ヲ掌ル

第二十條 祕書ハ參謀長ノ命ヲ受ケ人事及各部ニ屬セサル庶務ヲ掌リ又軍政會議ノ事務ヲ掌理ス

第二十一條 司令長官傳令使ハ常ニ長官ニ隨從シ命令傳達ヲ掌リ臨時參謀長ノ命ヲ受ケ參謀又ハ祕書ノ事務ヲ助ク

第二十二條 鎮守府ニ測器主管一人ヲ置キ少佐若クハ大尉ヲ以テ之ニ補シ參謀長ニ隸シ測器及航海ニ關スル圖書ノ準備供給氣象ノ觀測ヲ掌ラシム

第二十三條 鎮守府ニ文庫主管一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補シ參謀長ニ隸シ圖書ノ保管供給ヲ掌ラシム

第二十四條 鎮守府ニ軍港司令官一人ヲ置キ少將或ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ司令長官ノ命ヲ受ケ軍港ニ在ル鎮守府艦船海兵團及水雷隊ヲ指揮シ軍港ノ守備ヲ掌リ士卒ノ教育訓練ヲ監督セシム

第二十五條 軍港司令官ハ豫備艦長知港事副知港事ヲ指揮監督ス

第二十六條 軍港司令官ハ軍港ノ守備ニ關シ陸軍司令官ト共力ヲ要スルコトアルトキハ協謀ノ責ニ任ス

第二十七條 軍港司令官ハ鎮守府司令長官事故アルトキ之カ代理ヲ爲ス

第二十八條 軍港司令官ニ司令官副官二人司令官傳令使一人ヲ屬シ副官ハ少佐或ハ大尉傳令使ハ大尉ヲ以テ之ニ補シ其命ヲ受ケ服務セシム

第二十九條 軍港ニ豫備艦長豫備艦機關長各一人ヲ置キ豫備艦長ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ軍港司令官ニ隸シ所屬ノ豫備艦ヲ統轄セシム

豫備艦機關長ハ機關監ヲ以テ之ニ補シ豫備艦長ノ命ヲ受ケ服務セシム

第三十條 軍港ニ知港事副知港事各一人ヲ置キ知港事ハ佐官ヲ以テ之ニ補シ軍港司令官ニ隸シ所屬ノ艦船ヲ統轄シ港則ヲ維持シ海運海標及救難防火等ノ事ヲ掌ラシム

副知港事ハ大尉ヲ以テ之ニ補シ知港事ヲ助ケ知港事故アルトキ之カ代理ヲ爲ス

第三十一條 要港ニハ其形勢ニ因リ司令官一人ヲ置キ佐官ヲ以テ之ニ補シ司令長官ノ命ヲ受ケ要港ノ守備ヲ掌ラシム

要港ニ要港司令官ヲ置クトキハ水雷隊司令官ハ之ニ隸スルモノトス

第三十二條 要港司令官ニ副官一人ヲ屬シ大尉ヲ以テ之ニ補シ其命ヲ受ケ服務セシム

第三十三條 要港ニハ其形勢ニ因リ知港事一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補シ要港司令官ニ



隸シ港務及海運ノ事ヲ掌ラシム

第三十四條 鎮守府ニ左ノ各部ヲ置ク

造船部

兵器部

主計部

建築部

第三十五條 造船部ハ艦船及其屬具ヲ製造修理シ艦船ヲ機裝スル所トシ計畫科、製造科

ヲ置キ其事業ヲ分擔セシム(二十三年三月二十七日勅令第六十三號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第三十六條 兵器部ハ砲銃、水雷、彈藥、火具其他兵器ヲ製造修理備裝シ及之ヲ準備供給ス

ル所トス(上同)

第三十七條 主計部ト會計經理、物品ノ購買賣却、被服、糧食、及艦營需品測器圖書ヲ除ク準備供給、

造船材料ノ貯蓄出納、病院監獄ノ事務及陸運ヲ掌ル所トシ出納課、材料課、衣糧課、病院課、

監獄課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム(上同)

第三十八條 建築部ハ船渠、電線浚港、造家其他水陸ノ工事土地家屋ノ管理及軍港内地勢

變更ノ監視ヲ掌ル所トス

第三十九條 各部ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ(同上ヲ以テ各項目中改正ス)

造船部

部長 一人

計畫科長 一人

計畫科主幹 若干人

製造科長 一人

製造科主幹 若干人

倉庫主管 若干人

兵器部

部長 一人

主幹 若干人

武庫主管 若干人

主計部

部長 一人

課長 各一人

倉庫主管 若干人

建築部

部長 一人

主官 若干人

機技總監或ハ技監

技監

技監或ハ技士

技監

機技部上長官士官

准士官或ハ判任官

佐官

少佐大尉或ハ機技部上長官士官

少佐或ハ大尉

主計監

主計少監或ハ大主計

主計少監或ハ大主計

技師

技師

第一類 第三章 海軍省 鎮守府

第四十條 部長ハ鎮守府司令長官ノ命ヲ受ケ部事ヲ整理ス  
(二十三年二月勅令第  
十三號ヲ以テ改正ス)

第四十一條 科長武庫主管課長ハ部長ノ命ヲ受ケ分擔ノ事務ヲ整理ス(同)

第四十二條 主幹倉庫主管ハ部長若クハ科課長ノ命ヲ受ケ分擔ノ事務ヲ整理ス

第四十三條 鎮守府ニ軍政會議ヲ置キ司令長官ヲ以テ議長トシ左ノ職員ヲ以テ議員トス

軍港司令官

造船部長

兵器部長

主計部長

建築部長

司令長官ニ於テ議事ノ事項ニ依リ必要ト認ルトキハ海兵團長鎮守府衛生會議議長ヲ以

テ臨時議員ト爲スコトヲ得

議事ノ事項會計ニ關スルトキハ鎮守府會計監督部長ヲシテ議席ニ列シ意見ヲ陳述セシ

ムヘシ

第四十四條 軍政會議ハ各部ニ關涉スル事件ノ處分法ヲ協議シ鎮守府ノ經理事務ヲ疏通

スルヲ以テ目的トス

第四十五條 此條例ニ掲クル外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

第四十六條 各鎮守府ノ定員ハ其現況ニ應ジ此條例ノ範圍内ニ於テ海軍大臣之ヲ定ムヘ

附則

第四十七條 舞鶴鎮守府開廳マテ其海軍區中越後以東ハ横須賀鎮守府ニ越中以西ハ吳鎮

守府ニ管セシメ第五海軍區鎮守府ヲ置クマテ其海軍區ハ横須賀鎮守府ニ管セシム

○第五海軍區鎮守府位置設定二十三年二月三日  
勅令第七號

朕第五海軍區鎮守府位置設定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七號

第五海軍區鎮守府ノ位置ヲ北海道膽振國室蘭郡室蘭港ト定ム

○艦隊條例二十二年七月二十三日  
勅令第百號

朕艦隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百號

艦隊條例

第一條 艦隊ハ軍艦三艘以上ヲ以テ編制ス

第二條 艦隊ハ常置シ又ハ臨時編制ス

艦隊ノ名稱ハ編制ノ目的又ハ差遣スル所ノ海洋若クハ地方ノ名ヲ冠シ其艦隊ト稱ス

第一類 第三章 海軍省 第五海軍區鎮守府 艦隊

- 第三條 艦隊ニ司令長官ヲ置キ其勢力ニ應シ大將中將若クハ少將ヲ以テ之ニ補ス
- 第四條 大將若クハ中將ノ司令スル艦隊艦數多キトキハ其下ニ司令官ヲ置キ少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ補スルコトアリ
- 第五條 艦隊司令長官司令官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

大將司令長官タルトキノ幕僚	少將若クハ大佐一	少佐	大尉	大尉	大尉	主計少監	書
	少佐若クハ大尉一	大尉	大尉	大尉	大尉	大主計	大主計
中將司令長官タルトキノ幕僚		少佐	大尉	大尉	大尉	大主計	
少將司令長官タルトキノ幕僚			少佐若クハ大尉一	大尉	大尉	大主計	
司令官ノ幕僚			大尉	大尉	大尉	大主計	

艦隊外國ニ航スルトキ時宜ニ依リ譯官トシテ奏任官又ハ判任官ヲ幕僚ニ附屬セシムルコトヲ得

第六條 艦隊司令長官ハ

天皇ニ直隸シ麾下ノ軍艦ヲ統率シ軍事ヲ統理シ海軍大臣ノ命ヲ受ケ所管ノ軍政ヲ總理ス

第七條 艦隊司令長官ハ麾下ノ軍艦ヲ檢閲シ其成績ハ海軍大臣ヲ經テ

奏上ス可シ

第八條 艦隊司令長官ハ沿海ノ地方長官ヨリ地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スル

トキ事急ナレハ直ニ之ニ應シテ後海軍大臣ニ報告ス可シ若シ其事急激危險ニシテ地方長官ヨリ請求ノ暇ナキトキハ便宜事ニ從フコトヲ得

第九條 艦隊司令長官ハ麾下ノ軍艦ヲ分遣スルトキハ部下司令官若クハ先任艦長ヲシテ其指揮ヲ掌トラシメ其職權内ノ事ヲ委任スルコトヲ得

第十條 艦隊司令長官ハ部下職員事故アルトキ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十一條 艦隊司令官ハ司令長官麾下ノ軍艦ヲ分轄シ之ヲ訓練シ軍備ヲ整頓ス

第十二條 艦隊司令長官司令官ハ部下ノ一艦ニ其旗章ヲ掲ク之ヲ旗艦ト稱ス

第十三條 艦隊司令長官司令官ハ旗艦ノ艦長機關長軍醫長主計長ヲシテ其機務ニ參與セシムルコトヲ得

第十四條 參謀長ハ司令長官ノ職務ヲ輔佐シ其機務ニ參シ參謀傳令使秘書ヲ指揮監督シ艦隊一般ニ係ル事ヲ整理ス

第十五條 參謀長アラサル艦隊ノ參謀ハ司令長官司令官ノ機務ニ參シ傳令使秘書ヲ指揮監督シ軍事ニ係ル諸件ヲ整理ス

第十六條 參謀長アル艦隊ノ參謀ハ參謀長ノ命ヲ受ケ軍事ニ係ル諸件ヲ分擔ス

第十七條 司令長官司令官傳令使ハ常ニ司令長官司令官ニ隨從シ命令傳達及信號施行ヲ掌トリ臨時司令長官司令官若クハ參謀長ノ命ヲ受ケ參謀又ハ秘書ノ事務ヲ助ク

第十八條 秘書ハ艦隊ノ庶務ヲ整理ス

○軍艦條例 二十二年七月二十三日 勅令第九十九號

朕軍艦條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十九號 軍艦條例

第一條 軍艦ハ鎮守府ヲ本管トス

第二條 軍艦艦隊ニ編入中ハ艦隊司令長官ニ屬スト雖モ其本管ヲ變セス艦隊ヨリ除隊或ハ艦隊解隊シタルトキハ別ニ命令ナクシテ其本管ニ歸スルモノトス

第三條 軍艦艦隊ニ編入セラレ又ハ警備練習測量其他特別ノ役務ニ服スルトキハ之ヲ在役艦ト稱ス

第四條 軍艦戰團航海ノ準備整頓シ役務ノ命ヲ待ツトキハ之ヲ豫備艦ト稱ス

第五條 軍艦製造艤裝修理中ニ在ルトキ又ハ戰團航海ノ準備整ハサルトキハ之ヲ非役艦ト稱ス

第六條 軍艦ノ定員ハ上長官士官準士官下士及卒ヲ以テ組織ス

第七條 軍艦ニハ定員ノ外少尉候補生少主計候補生ヲ乘組マシム

第八條 軍艦鎮守府司令長官又ハ艦隊司令長官司令官ノ旗艦タルトキハ定員ニ下士卒若干員ヲ増加スルコトヲ得

第九條 軍艦在役艦タルトキハ定員ヲ充實シ他ノ軍艦ニ屬シタルトキ又ハ豫備艦或ハ非役艦タルトキハ定員中適宜ノ人員ヲ置キ或ハ之ヲ置カサルコトアリ

第十條 軍艦ノ定員中左ノ職員ハ高等武官ヲ以テ之ニ補ス  
艦長 大佐若クハ少佐若クハ大尉  
副長 少佐若クハ大尉  
砲術長 大尉  
水雷長 大尉  
航海長 大尉  
分隊長 大尉  
機關長 機關少監若クハ大機關士  
軍醫長 大軍醫  
主計長 大主計  
航海士 少尉  
分隊士 少尉  
水雷主機 機關士  
機關士 大機關士若クハ少機關士  
軍醫 大軍醫若クハ少軍醫

少佐若クハ大尉ヲ以テ艦長ニ補スル艦ニハ之ヲ置カス  
同上

水雷ノ裝置大ナラサル艦ニハ之ヲ置カス

艦隊司令長官ノ旗艦ニ在テハ軍醫少監ヲ以テ之ニ補スルコトアリ  
艦隊司令長官ノ旗艦ニ在テハ主計少監ヲ以テ之ニ補スルコトアリ

大尉ヲ以テ艦長ニ補スル艦ニハ之ヲ置カス  
水雷ノ裝置大ナラサル艦ニハ之ヲ置カス

第一類 第三章 海軍省 軍艦

主計 大主計若クハ少主計

職員ノ定員ハ軍艦ノ構造及兵備ニ應シ別ニ之ヲ定ム  
練習測量其他特別ノ役務ニ服スル軍艦ニ在テハ本條ニ掲クル職員ノ外役務ニ必要ノ職  
員ヲ置クコトアリ

皇族軍艦ノ職員ニ補セラル、トキハ職員ノ外大尉一名ヲ置クコトアリ(二十三年十月二十  
三日勅令第二百六  
十一號ヲ以テ  
本項ヲ追加ス)

第十一條 艦長ハ所管長官ニ隸シ乗員ヲ統率訓練シ兵備ヲ整頓シ艦ノ保安ヲ負擔シ一切  
ノ艦務ヲ統理ス

第十二條 艦長ハ部下職員事故アリ代理者ナキトキ臨時他ノ職員ヲシテ代理セシムルコ  
トヲ得

第十三條 副長ハ艦長ヲ輔佐シ艦長ノ命令ヲ執行シ艦内ノ定則ヲ維持シ一切ノ艦務ヲ整  
理ス

第十四條 砲術長ハ主管ノ兵備ヲ整頓シ砲術ノ教授ヲ監督ス

第十五條 水雷長ハ主管ノ兵備ヲ整頓シ水雷ノ教授ヲ監督ス

第十六條 航海長ハ航海及水路嚮導ヲ擔任シ主管ノ器具物品ヲ整頓シ艙内貯積ノ方法ヲ

監督ス

第十七條 分隊長ハ隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ誘掖訓練シ戦闘運用防火其他各部署ノ

主務ヲ掌理シ分擔ノ兵器及要具ヲ整頓ス

第十八條 砲術長水雷長航海長分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此場合ニ於テハ當直士官  
ト稱シ其主務ヲ掌理シ艦ノ保安ヲ負擔ス

第十九條 機關長ハ機關ヲ整頓シ機關ニ係ル一切ノ事ヲ擔任シ機關部諸員ヲ誘掖訓練ス

第二十條 軍醫長ハ醫務衛生ヲ掌ル

第二十一條 主計長ハ會計給與及庶務ヲ掌ル

第二十二條 航海士ハ航海長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十三條 分隊長ハ分隊長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十四條 航海士分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此場合ニ於テハ副直士官ト稱シ當直  
士官ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十五條 水雷主機ハ機關長ノ監督ヲ受ケ魚形水雷及電氣燈ニ係ル機關ヲ管理ス

第二十六條 機關士ハ機關長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十七條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十八條 主計ハ主計長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十九條 艦長缺員中ハ副長其職務ヲ執リ艦長事故アルトキハ副長其代理ヲ爲ス又副  
長ヲ置カサル艦ニ在テ艦長事故アルトキハ先任將校其代理ヲ爲ス

第三十條 副長事故アルトキハ先任將校其代理ヲ爲シ副長ヲ置カサル艦ニ在テハ先任將

校副長ノ職務ヲ擔任ス

第三十一條 航海長事故アルトキハ航海士其代理ヲ爲シ分隊長事故アルトキハ分隊士其代理ヲ爲シ機關長事故アルトキハ機關士其代理ヲ爲シ軍醫長事故アルトキハ軍醫其代理ヲ爲シ主計長事故アルトキハ主計其代理ヲ爲ス

第三十二條 艦團隊附屬ノ軍艦ニ在テハ乘組將校又ハ本艦團隊ヨリ臨時乘組タル將校ノ中先任ノ者其艦一切ノ命令ヲ掌トリ艦ノ保安ヲ負擔スルモノトス

○海軍將官會議條例二十二年五月二十八日  
勅令第七十五號  
朕海軍將官會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十五號

海軍將官會議條例

第一條 海軍將官會議ハ東京ニ置キ海軍ニ於テ創設改良等ヘキ重要ノ事項ヲ審議シ及海軍高等武官ノ進級候補名簿及進等名簿ヲ議定スル所トス

第二條 海軍將官會議ハ海軍大臣ヲ以テ議長トシ議員若干人ヲ置キ中將若クハ少將ヲ以テ之ニ補ス

第三條 議事ノ事項ニ依リ海軍大臣必要ト思考スルトキハ議員ニアラサル將官機技總監軍醫總監主計總監ヲ以テ臨時議員トスル事ヲ得

第四條 海軍大臣事故アルトキハ上席將官ヲ以テ議長トス

第五條 議案ハ議長ヨリ下付ス議員ニ於テ議案ヲ提出セントスルトキハ議長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 海軍將官會議ノ事務ハ海軍大臣官房ニ於テ之ヲ處理ス  
○海軍技術會議條例二十二年四月二十日  
勅令第五十三號  
朕海軍兵器會議條例及海軍造船會議條例ヲ廢止シ海軍技術會議條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十三號

海軍技術會議條例

第一條 海軍技術會議ハ東京ニ置キ海軍大臣ノ諮問ニ對シ軍艦ノ構造兵裝及其諸機關並ニ砲銃水雷彈藥劇發藥ノ新計畫又ハ新案其他技術上ノ事件ヲ審議スル所トス

第二條 海軍技術會議ノ議長ハ海軍少將ヲ以テ之ニ補シ海軍大臣ニ隸シ會議ノ事務ヲ總理ス

第三條 議長ハ議事ノ事項ニ依リ議員ノ一部ヲ以テ議事ヲ開ク事ヲ得

第四條 海軍技術會議ニ幹事一人副幹事一人ヲ置キ議案ノ調査會議ノ庶務ヲ幹理セシム

第五條 海軍技術會議幹事ハ佐官又ハ機技部上長官副幹事ハ大尉若クハ機技部士官ヲ以

第一類 第三章 海軍省 海軍將官會議 海軍技術會議

テ之ニ補ス

第六條 議員ハ定數ナシ在職ノ佐尉官機技部上長官士官ヲ以テ之ニ兼補ス

第七條 海軍技術會議ニ書記四人ヲ置キ屬ヲ以テ之ニ充ツ(二十三年十月十八日勅令第二百四十二號ヲ以テ本條中改正ス)

○海軍衛生會議條例二十二年四月二十日勅令第四十八號

朕海軍衛生部官制ヲ廢止シ海軍衛生會議條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十八號

海軍衛生會議條例

第一條 海軍衛生會議ハ東京及鎮守府所在ノ地ニ置ク其東京ニ在ルモノヲ中央衛生會議ト稱シ鎮守府所在ノ地ニ在ルモノヲ鎮守府衛生會議ト稱ス

第二條 中央衛生會議ハ海軍大臣ニ隸シ鎮守府衛生會議ハ其司令長官ニ隸ス

第三條 中央衛生會議ニ於テ議定スヘキ事項ノ大目ハ左ノ如シ

一 海軍一般ニ施行スヘキ衛生ニ關スル事項

二 流行病傳染病豫防法ノ海軍一般ニ關スル事項

三 治療法ニ關スル事項

四 藥品療用品ノ品種數額ノ規定ニ關スル事項

五 軍人身體ノ査定法ニ關スル事項

六 軍人糧食ノ品種分量ニ關スル事項

七 軍醫官及軍醫候補生生徒ノ採用教育法

八 軍醫官以下軍醫部人員服務ノ定則

第四條 中央衛生會議ニ於テハ恩給賑恤金ニ係ル診斷書ヲ調査ス

第五條 中央衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長 一人 軍醫總監

議員 五人 軍醫監四人内三人ハ本職アル者ヲ以テ兼補ス 大軍醫一人

書記 一人 大軍醫議員ヲ以テ兼補ス

(會計主務 一人 屬(二十三年十月十八日勅令第二百四十四號ヲ以テ本項ヲ削除ス))

第六條 中央衛生會議議長ハ會議ノ事務ヲ總理シ鎮守府衛生會議ヲ監督ス

第七條 中央衛生會議議長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ議案ヲ作り或ハ必要ト思考スルトキハ議長ヨリ議案ヲ發シ議定ノ後其意見ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ

第八條 中央衛生會議議長ハ各鎮守府衛生會議議長及海軍艦船營廳ノ軍醫官ヨリ出シタル醫務衛生ニ關スル統計報告ヲ審査シ毎年報告ヲ作り海軍大臣ニ呈スヘシ

第九條 中央衛生會議議長ハ海軍豫算決定ノ前ニ於テ毎年準備供給スヘキ藥品療用品ノ品種定額及其豫算金額ヲ定メ海軍大臣ニ具申スヘシ

第十條 中央衛生會議議長ハ外國ニ航スル艦船ノ軍醫官ニ訓令ヲ下スヲ必要ト思考スル

第一類 第三章 海軍省 海軍衛生會議

三百十九

トキハ之ヲ海軍大臣ニ具申スル事ヲ得

第十一條 中央衛生會議議員ハ議事ヲ掌リ議長ノ命ヲ受ケ議定スヘキ事項ノ調査ヲ分擔ス

第十二條 中央衛生會議書記ハ議長ノ命ヲ受ケ諸報告統計ヲ蒐集調査シ會議ノ庶務ヲ幹理ス

第十三條 (二十三年十月十八日勅令第二百四十四號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第十四條 本條例第五條ニ掲クル職員ノ外中央衛生會議ニ藥劑監又ハ藥劑官一人ヲ置キ議長ノ命ヲ受ケ藥品療用品ニ係ル調査ニ從事セシメ又判任官若干人ヲ置キ庶務ニ從事セシム

第十五條 鎮守府衛生會議ニ於テ議定スヘキ事項ノ大目ハ左ノ如シ

一 軍港内ノ衛生ニ關スル事項

二 鎮守府所轄營校舎營病院ノ構造ニ關スル衛生上ノ事項

三 所轄艦船營廳ノ醫務衛生ニ關スル事項

第十六條 鎮守府衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長 一人 軍醫大監

議員 五人 軍醫大監一人 軍醫少監一人 大軍醫一人 他ノ二人ハ鎮守府職員ヲ以テ兼補ス

書記 一人 大軍醫議員ヲ以テ兼補ス

第十七條 鎮守府衛生會議議長ハ會議ノ事務ヲ整理ス

第十八條 鎮守府衛生會議議長ハ鎮守府所轄艦船營廳ノ軍醫官ヲ監督シ其諸報告ヲ調査シテ中央衛生會議議長ニ送付スヘシ

第十九條 鎮守府衛生會議議長ハ海軍病院ノ醫務ヲ統理ス

第二十條 鎮守府衛生會議議長ハ藥品療用品準備供給ノ成規ニ關シ其意見ヲ司令長官ニ具申スヘシ

第二十一條 鎮守府衛生會議議長ハ軍醫候補生看護手看病夫實地教習ノ事ヲ掌ル

第二十二條 鎮守府衛生會議議長ハ病院附軍醫ヲ軍港内各所ニ派出シ看護手看病夫ヲ艦船營ニ配置シ及之ヲ各所ニ派出スル事ヲ掌ル

第二十三條 鎮守府衛生會議議長ハ鎮守府管内ノ醫務衛生ノ景況ヲ中央衛生會議議長ニ通報スヘシ

第二十四條 鎮守府衛生會議議員ハ議事ヲ掌リ議長ノ命ヲ受ケ議定スヘキ事項ノ調査ヲ分擔ス

第二十五條 鎮守府衛生會議議員ハ兼テ病院治療ノ事ニ服ス

第二十六條 鎮守府衛生會議書記ハ議長ノ命ヲ受ケ諸報告ヲ調査シ會議ノ庶務ヲ幹理ス

第二十七條 本條例第十六條ニ掲クル職員ノ外鎮守府衛生會議ニ藥劑官一人ヲ置キ藥品療用品ニ係ル調査ニ從事セシム

第一類 第三章 海軍省 海軍衛生會議



○海軍編修官官制 二十三年六月三日 勅令第九十號

朕海軍編修官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十號

海軍編修官官制

- 第一條 海軍ニ於テ戰史外國政誌及水路誌ノ編修ニ從事セシムル爲メ海軍編修官ヲ置ク
- 第二條 海軍編修官ハ海軍參謀部長及水路部長ノ指揮監督ヲ承ク
- 第三條 海軍編修官ヲ分テ海軍編修及海軍編修書記トス
- 第四條 海軍編修ハ奏任四等以下トシ海軍編修書記ハ判任トス
- 第五條 海軍編修官ノ定員ハ左ノ如シ

編修

二人

編修書記

十一人

○海兵團條例 二十二年四月十六日 勅令第四十六號

朕海兵團條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十六號

海兵團條例

第一條 海兵團ハ鎮守府所在ノ地ニ置キ艦團隊其他各部定員ノ補缺ニ充ツヘキ現役下士卒ヲ教育訓練シ軍港内ノ守衛ヲ要スル場所ニ守兵ヲ派出シ新兵ヲ徵募シ豫備兵後備兵ヲ招集スル所トス(二十三年二月十八日勅令第十六號ヲ以テ本條並第一項ヲ改正ス)

海兵團ハ所屬鎮守府ノ名ヲ冠シテ某海兵團ト稱ス

第二條 艦船隊應ノ勤務ヲ免シタル下士卒ハ海兵團ニ入營セシムルモノトス(上同)

第三條 海兵團ノ下士卒ハ分テ若干分隊トシ其機關部ニ屬スルモノハ別ニ若干部ニ分ツ(同上ヲ以テ本條中削除ス)

第四條 海兵團ノ職員ハ左ノ如シ(上同)

- 團長 一人 大佐
- 副團長 一人 少佐
- 分隊長 若干人 大尉
- 徵募官 二人 大尉
- 分隊士 若干人 少尉
- 機關士 一人 機關少監
- 機關士 若干人 機關少監
- 軍醫長 一人 軍醫少監
- 軍醫 若干人

第一類 第三章 海軍省 海軍編修官 海兵團

主計長 一人

主計少監

主計 若干人

第五條 團長ハ軍港司令官ニ隸シ部下ヲ董督シ軍紀風紀ヲ維持シ團中ノ事務ヲ總理シ下士卒ヲ教育訓練スルヲ任トス

第六條 團長ハ徵募ノ事務ニ於テハ直ニ司令長官ノ指揮ヲ受クヘシ

第七條 副長ハ團長ヲ補佐シ團長ノ命令ヲ執行シ團中ノ定則ヲ維持シ團長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス

第八條 分隊長ハ其隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ教育訓練スルコトヲ掌ル

分隊長ハ分隊長ノ命ヲ受ケ其主務ニ従事ス(二十三年二月十八日勅令第十六號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第九條 徵募官ハ兵籍ヲ主管シ徵兵募兵ニ關スル事務及豫備兵後備兵ノ招集簡閱點呼ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 機關長ハ其部下ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ教育訓練スルコトヲ任トシ又附屬艦船ノ機關ニ係ル事ヲ掌ル

第十一條 機關士ハ機關部員ノ部長ト爲リ機關長ヲ助ケ其主務ニ従事ス(上同)

第十二條 軍醫長ハ團中ノ醫務衛生ヲ掌ル

第十三條 軍醫ハ軍醫長ヲ助ケ其主務ニ従事ス

第十四條 主計長ハ會計給與及庶務ヲ掌ル(上同)

第十五條 主計ハ主計長ヲ助ケ其主務ニ従事ス

第十六條 第四條ニ掲クル職員ノ外定員トシテ准士官下士卒若干人ヲ置ク

○水雷隊條例二十二年四月十六日勅令第四十七號

朕水雷隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十七號

水雷隊條例

第一條 軍港要港ニ漸次水雷隊ヲ置ク

第二條 水雷隊ハ海軍區ノ區域ニ依リ各鎮守府ヲシテ管轄セシム

第三條 水雷隊ニ司令ヲ置ク佐官ヲ以テ之ニ補ス

第四條 軍港ノ水雷隊司令ハ軍港司令官ニ隸シ要港ノ水雷隊司令ハ直ニ其所管鎮守府司令長官ニ隸シ部下ヲ董督訓練シ水雷水雷艇其他ノ要具ヲ整備シ近海ノ水路ヲ熟知シ軍港要港ノ守備ニ任ス

第五條 水雷隊ハ佐尉官機關士軍醫主計準士官下士卒若干名ヲ以テ編制ス其定員ハ軍港要港ノ形勢ニ應シテ別ニ之ヲ定ム

○水雷術練習艦條例二十二年十二月二十一日勅令第三百三十二號

朕水雷術練習艦條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一類 第三章 海軍省 水雷隊 水雷術練習艦

御名 御璽

勅令第三百三十二號

水雷術練習艦條例

第一條 水雷術練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ尉官及機關士上等兵曹兵曹ニ水雷術ヲ教授シ掌水雷兵ト爲ルヘキ兵曹水兵ヲ教育シ又機關手火夫ニ水雷工業ヲ修學セシムル所トス(二十四年二月二十八日勅令第一七七號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第二條 水雷術練習艦ニ於テ教育スル兵曹水兵ヲ水雷術練習生ト稱シ機關手火夫ヲ水雷工練習生ト稱ス(同上)

第三條 水雷術ノ教授ヲ受クル尉官機關士上等兵曹及水雷術練習生ハ員外乘員トス水雷術ノ教授ヲ受クル尉官機關士上等兵曹及水雷術練習生ノ人員ハ海軍大臣毎年之ヲ定ム

第四條 水雷術練習艦ニ軍艦條例第十條ニ掲グル職員ノ外左ノ職員ヲ置ク  
教官 大尉 大機關士 本艦在職ノ者ヲ以テ兼補ス(同上ヲ以テ本項中追加ス)

第五條 艦長ハ軍港司令官ノ指揮ヲ受ケ軍艦條例第十一條ニ掲グルモノ、外教務ヲ統理スルコトヲ掌ル

第六條 副長ハ軍艦條例第十三條ニ掲グルモノ、外教務ヲ整理スルコトヲ掌ル

第七條 教官ハ水雷術教授及試験ノ事ヲ掌ル

○海軍水路部條例二十一年六月二十六日勅令第四百十九號

朕海軍水路部官制ヲ廢シ水路部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽  
勅令第四百十九號

水路部條例

第一條 水路部ハ水路ヲ測量シ兵要及一般ノ海圖ヲ調製シ水路誌ヲ編纂シ圖誌ノ配備其他航海ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ル所トス(二十二年三月二十二日勅令第一四十四號ヲ以テ本條中削除ス)

第二條 水路部ニ測量科圖誌科計算課ヲ置ク(同上ヲ以テ各項中削除ス)

- 第三條 水路部ニ左ノ職員ヲ置ク(同上ヲ以テ各項中削除ス)
  - 部長 大佐 一人
  - 測量科長 佐官 一人
  - 圖誌科長 少佐 一人
  - 測量班長 少佐 三人
  - 圖誌科僚 大尉 二人
  - 測量士 尉官或ハ技士 九人
  - 測量助手 上等技工 若干人
  - 計算課長 屬 一人

第一類 第三章 海軍省 海軍水路部

製圖手 技手 若干人

- 第四條 部長ハ海軍參謀部長ニ隸シ部事ヲ整理シ其實ニ任ス(二十二年三月二十二日勅令第四十號ヲ以テ本條中改正ス)
- 第五條 部長ハ其名ヲ以テ水路告示ヲ發シ及外國海軍水路部ト直接通信スルコトヲ得
- 第六條 測量科長ハ左ノ事項ヲ掌ル
  - 一 各班ヲ部署シ測量教令ヲ下タス事
  - 二 各班測量原圖ノ精査及保管ニ關スル事項
  - 三 各班水路記事ノ調査ニ關スル事項
  - 四 測量經費豫算ニ關スル事項
  - 五 測量ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項
- 第七條 測量科長ハ須要ナル方面ノ測量ニハ班長以下ヲ指揮シテ之ニ從事ス
- 第八條 測量班長ハ各班ニ長トシテ一方面ノ測量事業ヲ主幹シ測量原圖ヲ調整シ其水路記事及報告書ノ記述ニ從事ス
- 第九條 測量士ハ各班ニ分屬シテ其業ニ服ス
- 第十條 測量士ハ時宜ニ依リ一方面ノ測量ニ主幹タラシムルコトアル可シ
- 第十一條 測量助手ハ各班ニ分屬シ班長ノ命ヲ承ケテ測量士ヲ助ク
- 第十二條 圖誌科長ハ左ノ事項ヲ掌ル
  - 一 測量原圖又ハ外國ノ海圖ニ依リ海圖及航海ニ必要ナル圖類ヲ調整刊行スル事

- 二 水路誌燈臺表其他水路ニ緊要ノ書類ヲ編述又ハ翻譯シテ刊行スル事
- 三 水路告示ヲ起草スル事
- 四 内外諸圖書ヲ調査シ及圖誌ヲ增補又ハ改正スル事
- 五 圖誌ノ購買準備及拂下ニ關スル事項
- 六 圖誌ヲ各鎮守府ニ配賦シ及新舊圖誌ヲ交換スル事
- 七 外國ト圖誌ヲ交換スル事
- 八 圖誌ヲ保管スル事
- 九 圖誌ノ經費豫算ニ關スル事項
- 十 圖誌ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項
- 第十三條 圖誌科僚ハ科長ノ命ヲ承ケ圖誌ニ關スル事業ヲ分掌ス
- 第十四條 製圖手ハ科僚ニ屬シテ其業ニ服ス
- 第十五條 (同上ヲ以テ本條並各項共削除ス)
- 第十六條 計算課長ハ左ノ事項ヲ掌ル
  - 一 經費金收入金ノ豫算書決算書ノ調整ニ關スル事項
  - 二 經費金收入金ノ出納ニ關スル事項
  - 三 水路部内ノ庶務及物品ノ保管ニ關スル事項
- 第十七條 水路部ニ編修編修書記ヲ置キ圖誌科ニ屬セシム(二十三年十月十八日勅令第二百四十一號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第十八條 水路部ニ上等技工技工手屬ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ部務ニ従事セシム(二十三年十月)

十八日勅令第二百四十一號ヲ以テ本條以下追加ス

第十九條 水路部ノ定員ハ左ノ如シ

部長 大佐		計	課	課長	一	編修書記	二
測量科	班長	圖誌科	編修科	大尉	一	技手	九
測量士	少佐	少佐	少佐	大尉	二	技工	九
佐官	少佐	少佐	少佐	大尉	六	上等技工	九
佐官	少佐	少佐	少佐	大尉	三		
佐官	少佐	少佐	少佐	大尉	一		

○砲術練習艦條例二十二年十二月二十一日勅令第三百三十一號

朕砲術練習艦條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三百三十一號

砲術練習艦條例

第一條 砲術練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ尉官上等兵曹商船學校生徒ニ砲術ヲ教授シ掌

砲兵及砲術教員ト爲ルヘキ兵曹水兵ヲ教育スル所トス(二十四年二月二十八日勅令第

十六號ヲ以テ本條ヲ改正ス

(同上ヲ以テ第一項ヲ削除ス)

第二條 砲術練習艦ニ於テ教育スル兵曹水兵ヲ砲術練習生ト稱ス

第三條 砲術ノ教授ヲ受クル尉官上等兵曹及砲術練習生ハ員外乘員トス

第四條 砲術練習艦ニ軍艦條例第十條ニ掲クル職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

教官 大尉 本艦在職ノ者ヲ以テ兼補ス

第五條 艦長ハ軍港司令官ノ指揮ヲ受ケ軍艦條例第十一條ニ掲クルモノ、外教務ヲ統理スルコトヲ掌ル

第六條 副長ハ軍艦條例第十三條ニ掲クルモノ、外教務ヲ整理スルコトヲ掌ル

第七條 教官ハ砲術教授及試験ノ事ヲ掌ル

○海軍造兵廠條例二十四年三月二十七日勅令第二十五號

朕海軍造兵廠官制ヲ廢シ海軍造兵廠條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十五號

海軍造兵廠條例

第一條 海軍造兵廠ハ兵器火藥爆裂藥ヲ製造改造修理購買シ鎮守府兵器部ニ供給スル所トス

第二條 海軍造兵廠ニ造兵科火藥科検査科會計課倉庫課ヲ置ク

第三條 造兵科ニ於テハ兵器及其屬具ノ製造改造修理ヲ掌ル

第一類 第三章 海軍省 砲術練習艦 海軍造兵廠

第四條 火藥科ニ於テハ火藥爆裂藥ノ製造改造ヲ掌ル  
 第五條 検査科ニ於テハ兵器火藥爆裂藥ノ検査試験ヲ掌ル  
 第六條 會計課ニ於テハ經費金收入金ノ整理材料物品ノ保管出納購賣却ヲ掌ル  
 第七條 倉庫課ニ於テハ製成物件ノ保管出納輸送ヲ掌ル  
 第八條 海軍造兵廠ニ左ノ職員ヲ置ク

- 廠長 大佐
- 造兵科主幹 大技監
- 造兵科主幹 技監技士
- 火藥科主幹 少佐
- 火藥科主幹 技監技士
- 検査科主幹 少佐
- 検査科主幹 大尉技士
- 會計課長 主計少監
- 會計課長 大主計
- 倉庫課長 大尉
- 軍醫長 大軍醫
- 軍醫 大軍醫

第九條 廠長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ廠務ヲ總理ス  
 第十條 科長課長ハ廠長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ整理ス  
 第十一條 主幹ハ科長ノ命ヲ受ケ科務ヲ分掌ス  
 第十二條 課次長ハ課長ヲ助ク  
 第十三條 軍醫長ハ醫務衛生ヲ掌ル  
 第十四條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ受ケ其主務ニ從事ス  
 第十五條 海軍造兵廠ニ判任官及卒ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ廠務ニ從事セシム  
 第十六條 海軍造兵廠ノ定員ハ左ノ如シ

廠長 大佐		造兵科		火藥科		検査科		會計課		倉庫課		軍醫	
科長	主幹	科長	主幹	科長	主幹	課長	課次長	課長	課次長	大軍醫長	少軍醫	大軍醫	少軍醫
技監	大技監	少技監	大技監	少技監	大技監	少技監	大尉	大主計	主計少監	大尉	大主計	大軍醫	少軍醫
上等兵曹	三	看職手	一	技手	二十八	書記	二十三	看病夫	二				

○造船造兵監督官條例二十四年七月廿三日 勅令第八十號

朕造船造兵監督官條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十號

造船造兵監督官條例

- 第一條 海軍造船造兵ノ工事ヲ造船部造兵廠外ノ工場ニ委託スルトキハ造船監督官造兵監督官ヲ置キ其事業ヲ監督セシム
- 第二條 造船造兵ノ事ニ於テハ監督官ノ外會計主務官ヲ置キ其會計事務ヲ整理セシメ監督助手ヲ置キ事業ノ監督ヲ補助セシム
- 第三條 造船造兵監督官ハ佐尉官技監技士ヲ以テ之ニ補シ會計主務官ハ主計官ヲ以テ之ニ補シ監督助手ハ准士官下士又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 造船造兵監督官會計主務官監督助手ハ別ニ定員ヲ置カス豫算定額内ニ於テ造船造兵事業ノ程度ニ應シ須要ノ人員ヲ置クコトヲ得
- 第五條 造船造兵監督官會計主務官ハ海軍省第二局長ノ指揮監督ヲ受ケ監督助手ハ監督官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

○海軍機關學校條例二十三年十月十八日 勅令第二百五十三號

朕海軍機關學校官制ヲ廢シ海軍機關學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百五十三號

海軍機關學校條例

- 第一條 海軍機關學校ハ横須賀鎮守府ニ屬シ機關師ト爲ルヘキ機關手機關手ト爲ルヘキ火夫ヲ教育スル所トス
- 第二條 海軍機關學校ニ於テ教育スル機關手火夫ヲ海軍機關學校練習生ト稱ス
- 第三條 練習生ヲ命スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第四條 練習生ハ校内ニ寄宿セシム
- 第五條 練習生ノ學期ハ一箇年トス
- 第六條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 機關大監

教官 機關少監大機關士

部長 教官ヲ以テ兼補ス

軍醫長 大軍醫

主計長 大主計

第七條 校長ハ横須賀軍港司令官ノ命ヲ受ケ校務ヲ總理ス

第八條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス

第一類 第三章 海軍省 造船造兵監督官 海軍機關學校

- 第九條 部長ハ校長ノ命ヲ受ケ部員ヲ統率シ其事務ヲ掌ル
- 第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ受ケ醫務衛生ヲ掌ル
- 第十一條 主計長ハ校長ノ命ヲ受ケ會計給與及庶務ヲ掌ル
- 第十二條 海軍機關學校ニ機關師下士卒ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ從事セシム
- 第十三條 海軍機關學校ノ定員ハ左ノ如シ

校長 機關大監	教官	機關少監	機關師
部長	大機關士	一等下士	一等下士
軍醫長	教官ヲ以テ兼補ス	二等下士	二等下士
主計長	大軍醫	三等下士	三等下士
	大主計	卒	卒
		五	四
		一	九
		一	八
		一	一
		十	十

機關師及下士ノ内十二人ハ教員トス

教官教員ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

○海軍造船工學校官制 二十二年五月二十八日 勅令第七十四號

朕海軍造船工學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十四號

海軍造船工學校官制

第一條 海軍造船工學校ハ横須賀鎮守府造船部内ニ設ケ造船ニ從事スヘキ技手出身志願

ノ生徒ヲ教育スル所トス(二十四年七月二十八日勅令第百五十八號ヲ以テ本條改正ス) 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

●參照舊令

第一條 海軍造船工學校ハ横須賀鎮守府造船部内ニ設ケ技工出身志願ノ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍造船工學校ノ事務ハ總テ横須賀鎮守府造船部ニ於テ管理ス

第三條 海軍造船工學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 一人

教官 若干人

造船部在職ノ技監或ハ技士ヲ以テ兼補ス  
造船部員ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 校長ハ造船部長ノ命ヲ受ケ校務ヲ整理ス

第五條 教官ハ各科ノ教授ヲ擔任ス

○海軍大學校條例 二十三年十月十八日 勅令第二百四十九號

朕海軍大學校官制ヲ廢シ海軍大學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百四十九號

海軍大學校條例

第一條 海軍大學校ハ海軍將校及機關官ニ高等ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條 海軍大學校ニ於テ教授スル海軍將校及機關官ヲ海軍大學校學生ト稱ス

第一類 第三章 海軍省 海軍造船工學校 海軍大學校



第三條 海軍大學校學生ハ分テ左ノ三種トス

甲號 大尉ニシテ砲術水雷術航海術ノ高等學科ヲ修ムル者及大機關士ニシテ高等機關學ヲ修ムル者

乙號 佐官機關監又ハ大尉大機關士ニシテ任意ノ學科ヲ修ムル者

丙號 少尉少機關士ニシテ高等ノ學科ヲ修ムル者

第四條 甲號學生丙號學生ハ試験ヲ行ヒ合格者ニ就キ海軍大臣之ヲ命ス乙號學生ハ志願ニ依リ海軍大臣之ヲ認可ス

第五條 學生ハ校内ニ寄宿セシム但校長ハ學生ノ願ニ依リ通學ヲ許スコトヲ得

第六條 甲號乙號及丙號學生ノ學期ハ一箇年トス(二十四年五月二十八日勅令第

第七條 砲術科水雷科ヲ卒業シタル甲號學生ハ各其專科ノ練習艦ニ移シ六箇月間實地ノ練習ヲ爲サシム

第八條 航海科卒業及機關學卒業ノ甲號學生ニハ卒業ノ後其他ハ練習艦卒業ノ後各其科ニ應シ砲術長水雷長航海長機關長適任證書ヲ授與ス

各適任證書ヲ授與スル者ニハ記章ヲ附與ス(同上ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第九條 海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 中將或ハ少將

次長 大佐

副官 大尉

教頭 次長ヲ以テ兼補ス

教官 佐官大尉陸軍工兵佐官機技部上長官士官教授

軍醫長 大軍醫

主計長 大主計

第十條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ總理ス

第十一條 次長ハ校長ヲ佐ケ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第十二條 副官ハ校長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ掌ル

第十三條 教頭ハ校長ノ命ヲ受ケ教官ヲ指揮シ教授ノ事ヲ監督ス

第十四條 教官ハ教頭ノ指揮ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス

第十五條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ受ケ校内ノ醫務衛生ヲ掌ル

第十六條 主計長ハ校長ノ命ヲ受ケ會計給與ヲ掌ル

第十七條 海軍大學校ニ下士卒判任文官ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ從事セシム

第十八條 海軍大學校ノ定員ハ左ノ如シ

(二十四年五月二十八日勅令第

四十七號ヲ以テ本表ヲ改正ス)

第一類	第三章	海軍省	海軍大學校
教頭	次長ヲ以テ兼補ス	一	

校長 中將 次長 大佐		教官 少佐 大尉 陸軍工兵佐官 大尉 少佐 機關少監 大尉 少佐 少技監 大尉 少佐 大技士 大尉 少佐 教授		副官 大尉 軍醫長 大軍醫 主計長 大主計		一等下士 助教 書記 一等卒 二等卒 三等卒 四等卒
		六				
		二				
		二				
		二				
		二				
		二				
		二				
		二				

教官ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

○海軍兵學校條例 二十三年十月十八日 勅令第二百五十號

朕海軍兵學校官制ヲ廢シ海軍兵學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百五十號

海軍兵學校條例

- 第一條 海軍兵學校ハ將校及機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス
- 將校ト爲ルヘキ生徒ヲ將校生徒ト稱シ機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ機關生徒ト稱ス
- 第二條 海軍兵學校ニ軍艦ヲ屬シ實地練習ノ用ニ供ス

第三條 生徒ノ學期ハ四箇年トス

第四條 生徒ハ年齡滿十六年以上二十年未滿ニシテ海軍將校若クハ海軍機關官タラシトシテ志願スル者ニ就キ身體學術ヲ検査シ合格シタル者ヨリ選抜シテ採用ス

第五條 左ノ諸項ニ掲クル者ハ生徒ニ採用スルコトナシ

- 一 有妻ノ者
- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 三 身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ヲ終ヘサル者
- 第六條 生徒ノ召募ハ海軍大臣之ヲ告示ス
- 第七條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス
- 第八條 生徒ハ情願ヲ以テ免スルコトナシ
- 第九條 生徒左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ免ス
  - 一 品行不良或ハ怠惰ニシテ屢訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
  - 二 試験ノ成績屢不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
  - 三 傷疾疾病ニ罹リ卒業ノ目的ナキ者
- 第十條 海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 少將
- 次長 大佐
- 第一類 第三章 海軍省 海軍兵學校

副官 大尉  
 教頭 大佐  
 教官 少佐機關少監少技監大尉大機關士大技士教授  
 監事長 少佐  
 監事 大尉大機關士  
 軍醫長 軍醫少監  
 軍醫  
 主計長 主計少監  
 代理ス  
 第十一條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ總理シ所屬練習艦ヲ統轄ス  
 第十二條 次長ハ校長ヲ佐ケ校務ヲ調理シ教育紀律ヲ監シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス  
 第十三條 副官ハ校長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ掌理シ其他校長ノ命スル事務ニ服ス  
 第十四條 教頭ハ校長ノ命ヲ受ケ學術教授ノ事ヲ監督シ編纂翻譯ノ事ヲ管理ス  
 第十五條 教官ハ教頭ノ指揮ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス  
 第十六條 監事長ハ校長ノ命ヲ受ケ生徒ヲ監督シ校内ノ紀律ヲ維持シ専ラ生徒ノ體育ヲ掌ル

第十七條 監事ハ監事長ノ指揮ヲ受ケ生徒ヲ分轄シ其事務ヲ掌ル  
 第十八條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ受ケ醫務衛生ヲ掌ル  
 第十九條 軍醫ハ軍醫長ノ指揮ヲ受ケ其主務ニ従事ス  
 第二十條 主計長ハ校長ノ命ヲ受ケ會計給與ヲ掌ル  
 第二十一條 主計ハ主計長ノ指揮ヲ受ケ其主務ニ従事ス  
 第二十二條 海軍兵學校ニ判任官卒ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ従事セシム  
 第二十三條 附屬練習艦ノ艦長副長砲術長水雷長航海長分隊長機關長ハ本校職員ヲシテ兼務セシム  
 第二十四條 海軍兵學校ノ定員ハ左ノ如シ

第一類	第三章	海軍省	海軍兵學校
校長 少將	教頭	砲術教官	大佐
		水雷術教官	少佐
		運用術教官	少佐
		航海術教官	少佐
		機關術教官	少佐
		造船造機學教官	少佐
		造船學教官	少佐
		機關少監	大機關士
		大機關士	大機關士
		大技士	大技士
		少技士	少技士
		大技士ノ内	一本職アル者ヲ以テ兼務セシム
		二等下士	十四
		一等下士	十五
		船匠師	一
		機關師	二
		上等兵曹	三
			二百四十二

次長 大佐		普通軍教官	教授	十三
副官		大尉	二	三等下士
監事長		少佐	一	九
監事		大尉 十三 ヲシテ兼務セシム 二 教官ヲシテ 兼務セシム	二	十一
軍醫長		大機關士	一	十九
大軍醫		軍醫少監	二	二十六
少軍醫		主計少監	三	二十九
主計長		主計少監	四	五十九
大主計				

上等兵曹機關師及一等下士ノ内十八人二等下士ノ内十八人三等下士ノ内八人ハ教員トス  
教官教員ノ數ハ海軍大臣適宜之ヲ減少スルコトヲ得

○海軍軍醫學校條例

二十三年十月八日  
勅令第二百五十一號

朕海軍軍醫學校官制ヲ廢シ海軍軍醫學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百五十一號

海軍軍醫學校條例

第一條 海軍軍醫學校ハ軍醫少軍醫候補生ニ高等ノ學術ヲ教授シ軍醫ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

- 第二條 海軍軍醫學校ニ於テ教授スル軍醫少軍醫候補生ヲ海軍軍醫學校學生ト稱ス
- 第三條 學生生徒ハ總テ通學セシム
- 第四條 學生ノ學期ハ一箇年トシ生徒ノ學期ハ四箇年トス
- 第五條 學生ハ海軍大臣軍醫少軍醫候補生ヨリ選抜シテ之ヲ命ス
- 第六條 生徒ハ官費私費ノ二種トシ私費生徒中ノ優等ナル者ヲ官費生徒トス
- 第七條 生徒ハ年齡滿十七年以上二十年未滿ニシテ海軍軍醫タラシコトヲ志願スル者ニ就キ身體學術ヲ檢査シ合格シタル者ヨリ選抜シテ採用ス
- 第八條 左ノ諸項ニ掲クル者ハ生徒ニ採用スルコトナシ
  - 一 有妻ノ者
  - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
  - 三 身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ヲ終ヘサル者

第九條 生徒ノ召募ハ海軍大臣之ヲ告示ス

第十條 生徒ハ海軍兵籍ニ編入ス

第十一條 生徒ハ情願ヲ以テ免スルコトナシ

第十二條 生徒左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ免ス

- 一 品行不良或ハ怠惰ニシテ屢訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
- 二 試験ノ成績屢不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

第一類 第三章 海軍省 海軍軍醫學校

三 傷痍疾病ニ罹リ卒業ノ目的ナキ者

第十三條 海軍軍醫學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 軍醫大監

教官 軍醫監大軍醫大藥劑官

監事 大軍醫

會計主務 屬

第十四條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ總理ス

第十五條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス

第十六條 監事ハ校長ノ命ヲ受ケ學生生徒ヲ監督ス

第十七條 會計主務ハ校長ノ命ヲ受ケ會計庶務ヲ掌ル

第十八條 海軍軍醫學校ニ屬ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ從事セシム

第十九條 海軍軍醫學校ノ定員ハ左ノ如シ

長 軍醫大監	一	教官 軍醫監或ハ大軍醫 大藥劑官	三	會計主務	屬
監事 大軍醫	三	屬	三	屬	一
					二

教官ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

○海軍主計學校條例 二十三年十月十八日 勅令第二百五十二號

朕海軍主計學校官制ヲ廢シ海軍主計學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽 勅令第二百五十二號

海軍主計學校條例

第一條 海軍主計學校ハ主計ニ高等ノ學術ヲ教授シ新募ノ少主計候補生ニ海軍主計官ニ

必要ノ學術ヲ教授シ主帳廚夫ニ主帳ニ必要ナル學術ヲ教授スル所トス

第二條 海軍主計學校ニ於テ教育スル主計少主計候補生ヲ海軍主計學校學生ト稱シ主帳

廚夫ヲ海軍主計學校練習生ト稱ス

第三條 學生ハ海軍大臣之ヲ命ス

主帳廚夫ニ練習生ヲ命スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條 學生練習生ハ校内ニ寄宿セシム但校長ハ學生ノ願ニ依リ通學ヲ許スコトヲ得

第五條 學生ノ學期ハ一箇年トシ練習生ノ學期ハ十箇月トス

第六條 海軍主計學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 主計大監  
監事 主計少監大主計  
教官 教授  
軍醫長 大軍醫

第一類 第三章 海軍省 海軍主計學校

主計長 大主計

- 第七條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ總理ス
- 第八條 監事ハ校長ノ命ヲ受ケ學生練習生ヲ監督ス
- 第九條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス
- 第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ受ケ醫務衛生ヲ掌ル
- 第十一條 主計長ハ校長ノ命ヲ受ケ會計給與及庶務ヲ掌ル
- 第十二條 海軍主計學校ニ上等主帳下士卒屬ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ從事セシム
- 第十三條 海軍主計學校ノ定員ハ左ノ如シ

校長 主計大監	監事 主計少監 或大主計	三	上等主帳
軍醫長 大軍醫	教授 大主計	四	下士
主計長 大主計		一	卒屬
			七

上等主帳及下士ノ内二人ハ教員トス

教官教員ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

○海軍中央文庫官制 勅令第五十五號

朕海軍中央文庫官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十五號

海軍中央文庫官制

- 第一條 海軍中央文庫ハ海軍參謀部ニ屬シ海軍ニ必要ナル圖書ヲ蒐集保存スル所トス
- 第二條 海軍中央文庫ニ左ノ職員ヲ置ク  
主計 一人 大尉
- 第三條 海軍中央文庫主管ハ圖書ノ蒐集保存分類整頓其他一切ノ事ヲ掌理ス
- 第四條 本職アル士官士官相當官及技師主理教授ノ内若干人ヲ海軍中央文庫掛トシ各科ノ圖書類別存廢ノ事ニ於テ主管ヲ補助セシム
- 第五條 海軍中央文庫ニ屬二人ヲ置キ主管ノ命ヲ受ケ文庫ノ事務ニ從事セシム (二十三年十月十八日勅令第二百四十七號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

○海軍病院條例 二十二年四月二十二日 海軍省達第九十七號

海軍病院條例ヲ定ムルコト左ノ如シ

海軍病院條例

- 第一條 海軍病院ハ鎮守府衛生會議ニ屬シ鎮守府所在ノ地ニ之ヲ置ク
- 第二條 鎮守府衛生會議議長ハ鎮守府衛生會議議員及海軍病院軍醫以下ヲ指揮シテ醫務ヲ統理ス
- 第三條 鎮守府衛生會議議員タル軍醫大監ハ治療掛ノ長トシテ患者治療ノ事ヲ掌リ會議第一類 第三章 海軍省 海軍中央文庫 海軍病院 三百四十九

議長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス

第四條 鎮守府衛生會議議員タル軍醫少監ハ治療掛ノ副長トシテ掛長ヲ助ク

第五條 鎮守府衛生會議附藥劑官ハ調劑掛ノ長トシテ調劑分析ノ事ヲ掌ル

第六條 海軍病院ニ軍醫若干人ヲ置ク其數ハ鎮守府所管ノ兵數ニ應シ之ヲ定ム

第七條 海軍病院附軍醫ハ衛生會議議長ノ指揮ヲ受ケ患者治療ノ事ヲ掌リ又各所ニ派出シテ醫務衛生ノ事ニ服ス

第八條 海軍病院ノ會計及庶務ハ鎮守府主計部病院課長之ヲ掌理ス(二十二年六月三日海軍省達第百七十五號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第九條 鎮守府主計部病院課長ハ海軍病院ノ會計庶務ヲ掌理スト雖モ定規アル日常ノ事件ハ衛生會議議長ノ告知ニ依リ處分スヘシ(上同)

第十條 海軍病院ニ於テハ軍醫候補生及看護手看病夫ノ教育ヲ爲ス

第十一條 海軍病院ニハ定員トシテ看護手主廚看病夫若千人ヲ置ク

第十二條 看護手看病夫ハ衛生會議議長ノ命ヲ受ケ看護調劑ノ事ニ服ス

第十三條 主廚看病夫ハ病院課長ノ命ヲ受ケ庖厨ノ事ニ服ス(上同)

第十四條 軍醫以下ハ衛生會議議長ノ命アルトキハ會議ニ關スル事務ニ服スヘキモノトス

第十五條 艦營其他各所ニ要スル藥品療用品ハ海軍病院ヨリ供給ス

第十六條 計算課派出員ハ藥品療用品供給ノ事務ヲ掌リ藥劑官ハ藥品療用品ノ保管及現品供給ノ事ニ於テハ病院課長ヲ補助ス(二十三年海軍省達第百二十三號ヲ以テ本條中加除ス)

第十七條 看護手看病夫ハ藥劑官ノ命ヲ受ケ藥品療用品保管供給ノ事ニ服ス

○新原採炭所官制(二十三年三月二十四日勅令第四十號)  
朕新原採炭所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十號

新原採炭所官制

第一條 新原採炭所ハ海軍豫備炭山ヲ管轄シ石炭ヲ採掘スル所トス

第二條 新原採炭所ニ左ノ職員ヲ置ク  
所長 一人 機關少監或ハ大機關士  
屬 二人

技手 一人

第三條 所長ハ佐世保鎮守府司令長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ整理ス

第四條 屬技手ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ニ從事ス

○新原炭坑採炭規程(二十四年六月九日海軍省達第百二十一號)  
新原炭坑採炭規程左ノ通定ム

第一類 第三章 海軍省 新原採炭所 新原炭坑採炭規程

新原炭坑採炭規程

- 第一條 新原採炭所ニ於テハ毎年別ニ定ムル所ノ炭層及採炭額ニ依リ石炭ヲ採掘ス可シ
- 第二條 石炭ハ其精粗ニ依リ上等炭中等炭下等炭ノ三種ニ區別シ上等炭中等炭ハ撰別シテ八分目篩ヲ以テ篩分タル塊炭トシ下等炭ハ撰除シタル塊炭及粉炭トス
- 第三條 上等炭中等炭ハ艦船用ニ充テ下等炭ハ坑業用ノ燃料ニ充ツヘシ但燃料ニ充タル殘餘ハ成規ニ依リ賣却處分スヘシ
- 第四條 坑内ノ監查石炭ノ篩分撰別及檢査ハ採炭所員之ヲ爲シ坑業ニ必要ナル人員ハ職工人夫ヲ使役スヘシ
- 第五條 採炭事業一口金高百圓未滿ノモノハ採炭所長ニ於テ雇職工人夫ヲ使役シ之ヲ處辨スルコトヲ得
- 第六條 採炭請負規則ニ依リ請負ニ附スル事業ハ其設計圖面及仕様書豫量價格等ヲ定メ金高三千圓以内ハ採炭所長決定シ三千圓以上ハ所屬鎮守府司令長官ノ指揮ヲ受ケ之ヲ決定スヘシ
- 請負ニ附スヘキ事業一口五百圓以上ハ其事項ヲ廣告シテ競争ニ附スヘシ一口五百圓未滿ハ隨意契約ニ據ルコトヲ得但請負契約期限ハ滿一箇年ヲ超ユルヲ得ス
- 請負契約書ハ採炭所長之ヲ作り會計監督部ノ調査ヲ經ルモノトス
- 第七條 石炭ノ價格ハ採掘費坑業用器具器械ノ修補費其他材料消耗品職工人夫ニ係ル

諸費及箱崎炭庫マテノ運搬費等ヲ二箇月毎ニ平均シ之ヲ其原價トス但其價格ハ炭量毎千基ヲ以テ算定スヘシ

第八條 採炭所長ハ採掘シタル炭量及其費額並ニ坑業ノ狀況ヲ調査シ二箇月毎ニ坑業報告ヲ作り所屬鎮守府司令長官ニ出シ司令長官ハ之ヲ査閲シ大臣ニ報告スヘシ

沿革要領

明治五年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ海軍省ヲ置ク○同年同月晦日元ト兵部省中海軍武官並兵學寮ヲ管ス○同年三月七日海軍省無號達ヲ以テ翻譯局ヲ設ケ譯官ヲ置キ等級ヲ定ム○同年同月二十日海軍省無號達ヲ以テ水路局中測量生ヲ置キ俸給ヲ定ム○同年同月二十三日海軍省無號達ヲ以テ造船局ノ外附屬ノ名目ヲ廢シ等外吏ヲ置ク○同年同月二十五日海軍省無號達ヲ以テ水路局ニ附屬ヲ置ク○同年四月海軍省ニ第三十四號達ヲ以テ翻譯局ヲ廢シ其事務ヲ秘書局ニ合ス○同年五月海軍省ニ第七十號達ヲ以テ水兵本部所轄ノ水夫ヲ造船局ニ屬ス○同年六月海軍省ニ第八十號達ヲ以テ會計局ニ附屬ヲ置ク○同年八月海軍省ニ第百號ヲ以テ軍艦乘組員ノ官等ヲ改正ス○同年十月海軍省ニ第百五十五號ヲ以テ橫須賀造船所橫濱製作所ヲ屬セラレシ旨ヲ達シ主船寮ノ管轄ト爲ス○同年同月第三百五號ヲ以テ海軍省職制官等ヲ改正シ本省ニ祕史軍務會計ノ三局ヲ置キ及主船水路兵學軍醫ノ四寮機關造兵武庫ノ三司水兵本部裁判所提督府ト爲ス○同年同月海軍省ニ第二百五十六號達ヲ以テ水路局ヲ廢シ水路寮ヲ置キ第二百五十七號達ヲ以テ海軍病院ヲ廢シ海軍軍醫寮ヲ置キ第二百五十八號達ヲ以テ造船局中武庫掛ヲ廢シ武庫司ヲ置キ第二百五十九號達ヲ以テ紮間掛ヲ廢シ海軍裁判所ヲ置ク○同年同月海軍省ニ第六十號達ヲ以テ主船寮ニ附屬ヲ置ク○同年同月海軍省ニ第七十號達ヲ以テ造船局ヲ廢シ主船寮ヲ本省中ニ置キ第七十一號達ヲ以テ橫須賀造船所橫濱製造所元造船局所轄ノ艦船ヲ管セシム○同年十一月海軍省ニ第七十六號達ヲ以テ海軍軍醫寮中二病院ヲ置ク○同年同月海軍省ニ第八十號達ヲ以テ橫濱製作所ヲ橫濱製造所ト改稱ス○同年同月海軍省ニ第二百



八十八號達ヲ以テ浦賀造船局出張所ヲ主船寮出張所ト改ム○同年同月海軍省乙第三百五號達ヲ以テ橫須賀ニ提督府ヲ置ク●六年一月海軍省甲第十四號達ヲ以テ十二等以下ノ譯官ヲ置ク○同年同月海軍省乙第二十四號達ヲ以テ主船寮所轄ノ諸工水火夫掛ヲ提督府ニ屬ス○同年五月第五百五十四號ヲ以テ海軍武官官等ヲ改正ス○同年同月第五百五十七號ヲ以テ海軍中少尉ヲ委任ト爲ス等級ハ舊ニ依ル○同年同月海軍省甲第六號達ヲ以テ海軍艦曹長ヲ廢シ曹長以下ノ等級ヲ定ム○同年同月海軍省甲第九號達ヲ以テ譯官ヲ廢ス○同年六月第二百三十三號達ヲ以テ海軍省官等ヲ改正シ秘史軍務會計ノ三局主船水陸兵學軍醫ノ四寮造兵武庫ノ二司水兵本部裁判所提督府ト爲ス○同年八月第二百八十八號達ヲ以テ海軍武官官等ヲ改正ス○同年同月海軍省甲第六十七號達ヲ以テ海軍少尉試補ヲ少尉補ト改稱ス○同年九月海軍省甲第八十七號達ヲ以テ機關大少監大中少機關士ヲ主船寮ニ屬ス○同年十一月第三百九十四號ヲ以テ軍醫秘書司計機關科中少尉相當ノ官ヲ以テ委任トス○同年十二月五日橫濱製鐵所ヲ大藏省ニ屬セシム●七年一月十二日海軍省號外達ヲ以テ造兵所ヲ廢シ其事務ヲ武庫司ニ屬ス○同年同月二十八日陸軍所屬ノ鹿兒島器械所ヲ管セシム○同年二月四日海軍省無號達ヲ以テ鹿兒島器械所ヲ改メテ製造所ト稱シ武庫司ノ管轄ト爲ス○同年四月二十七日海軍機關科中機關士補ヲ置ク○同年五月第四十九號布告ヲ以テ海兵部中樂隊次長ヲ廢シ樂隊等級ヲ改正ス○同年同月海軍省甲第五十三號達ヲ以テ秘史軍務ノ二局ヲ廢シ六課ヲ置ク○同年八月十四日假リニ提督府ヲ鹿兒島ニ設ク○同年九月二十日海軍省號外達ヲ以テ水雷製造局ヲ兵學寮中ニ置ク●八年五月第七十五號布告ヲ以テ造兵武庫ノ二司ヲ廢シ尋テ海軍省記三第六十五號達ヲ以テ兵器局ヲ置キ其事務ヲ管セシム○同年十月七日海防局ヲ置キ海陸軍兩省ニ隸屬ス●九年七月第六十九號達ヲ以テ海軍樂隊官等ヲ改正ス○同年同月海軍省記三第六十七號達ヲ以テ鹿兒島製造所ヲ改メテ鹿兒島造船所ト稱シ主船寮ニ屬ス○同年同月海軍省記三第七十號達ヲ以テ水夫ヲ改メテ水兵ト稱ス○同年同月第八十三號達ヲ以テ東海西海鎮守府ヲ置ク○同年同月第一百十三號布告ヲ以テ海軍文武官官等ヲ改正ス○同年九月海軍省丙第十一號達ヲ以テ橫須賀造船所中ニ業生工手巡吏鹿兒島造船所ニ工手ヲ置キ等級月俸ヲ定ム○同年同月第九十五號達ヲ以テ海軍省職制章程ヲ更定シ省務ヲ支分シ軍務會計主船水陸醫務兵器ノ六局ト

爲ス○同年同月海軍省丙第四十七號達ヲ以テ芝新錢座海兵隊屯管ヲ東海鎮守府所轄トシ水兵屯所ト改稱ス○同年十一月海軍省丙第四十九號達ヲ以テ會計局其他諸課廢置分合及所轄ヲ更定ス○同年十二月海軍省丙第七十四號達ヲ以テ長崎海軍出張所ヲ本省直管トシ兵庫海軍用所ヲ主船局所轄トス○同年同月海軍省丙第七十七號達ヲ以テ橫須賀水兵屯集所ヲ東海鎮守府ノ所轄トス●十年一月第三號達ヲ以テ諸寮並大少丞以下ヲ廢シ更ニ書記官屬官ヲ置ク○同年同月第四號達ヲ以テ文官四等以下ノ官等月給ヲ改ム○同年同月第十五號達ヲ以テ海軍技術官並裁判所官等ヲ更定シ技術官ヲ技監大中小匠司師五等工長五等ニ分チ裁判官主理書記ト爲シ各五等ニ分ツ權判事以上ハ舊ニ依ル○同年同月海軍省丙第十七號達ヲ以テ海軍本病院ヲ醫務局所轄トス○同年九月海軍省丙第九十二號達ヲ以テ橫須賀水兵屯集所ヲ東海水兵本管ト改稱シ浦賀水兵屯集所ヲ東海水兵分管ト改稱ス○同年十月海軍省丙第一百十八號達ヲ以テ新錢座水兵假屯集所ヲ廢シ東海水兵假分營ヲ置ク○同年十一月海軍省丙第二百二十二號達ヲ以テ兵學校二次長ヲ置ク●十一年二月海軍省丙第二十四號達ヲ以テ鹿兒島造船所ヲ長崎出張所所轄トス○同年同月第五號達ヲ以テ海軍文武官官等表中海兵部ヲ廢ス○同年同月海軍省甲第一號布達ヲ以テ舊主船寮ノ事務ハ造船所及主船局ニ舊水陸寮ノ事務ハ水路局ニ舊兵學寮ノ事務ハ兵學校ニ舊軍醫寮ノ事務ハ醫務局ニ舊武庫司ノ事務ハ兵器局ニ舊水兵本部舊提督府ノ事務ハ鎮守府ノ管轄トス○同年六月海軍省丙第七十八號達ヲ以テ兵學校橫須賀分枝ヲ兵學校附屬機關學校ト改稱ス○同年十月十九日內務省所轄橫濱製鐵所ヲ海軍省ノ管轄ニ附ス●十二年六月海軍省丙第四十八號達ヲ以テ東海鎮守府所轄東海水兵假分營ヲ廢ス○同年十月海軍省丙第九十二號達ヲ以テ兵學校教員等級ヲ定ム○同年同月海軍省丙第九十八號達ヲ以テ目黒火藥庫ヲ廢シ火藥製造所ヲ設ケ兵器局ノ所轄トス○同年同月海軍省丙第九十九號達ヲ以テ兵器局ニ業生ヲ置ク●十三年五月海軍省丙第五十號達ヲ以テ橫須賀ニ海軍用所ヲ置キ章程ヲ定ム○同年六月海軍省丙第五十七號達ヲ以テ海軍本病院ヲ東京海軍病院ト改稱ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ海軍省職制及事務章程ヲ追加改正ス●十四年四月第三十一號達ヲ以テ海軍省職制及事務章程第二章第七條第十一條ヲ改正ス○同年五月第四十八號達ヲ以テ規程局ヲ置ク○同年七月第六十六號達ヲ以テ海軍機關學校ヲ置ク○同年十月海軍省丙第五十三號達ヲ以

ヲ長崎海軍出張所所轄唐津海軍石炭用所ヲ主船局ノ所管トス○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム●十五年三月海軍省丙第二十一號達ヲ以テ東海鎮守府所轄東海水兵本營ヲ水兵屯管ト改稱シ東海水兵分營ヲ水兵練習所ト改稱ス○同年六月第三十三號達ヲ以テ海軍武官官等表ヲ改正ス○同年八月海軍省丙第五十五號達ヲ以テ海軍卒准卒職名ヲ改正ス○同年十月海軍省乙第六號達ヲ以テ鎮守府司令ヲ鎮守府長官ト改稱ス○同年十二月海軍省丙第十號達ヲ以テ海軍樂隊中學生ヲ置キ等級ヲ定ム●十六年二月海軍省丙第十三號達ヲ以テ水雷局ヲ置ク○同年八月二十四日無號達ヲ以テ教官ヲ置キ名稱等級ヲ定ム○同年十二月第五十八號達ヲ以テ技術官名稱等級ヲ改ム●十七年一月海軍省丙第三號達ヲ以テ調度局ヲ置キ統計課ヲ內局ニ屬ス○同年同月海軍省丙第十二號達ヲ以テ神戸ニ小野濱海軍造船所ヲ設置シ主船局所管ニ附ス○同年同月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス○同年二月海軍省丙第十八號達ヲ以テ主船局所轄橫須賀兵庫唐津ノ三海軍用所ヲ調度局所轄ニ附ス○同年同月海軍省丙第二十一號達ヲ以テ軍務局ヲ廢シ更ニ軍事部ヲ置ク○同年同月第二十一號達ヲ以テ工手監護ヲ置キ等級ヲ定ム○同年三月海軍省丙第五十一號達ヲ以テ兵器局並造船所業生工手及造船所巡吏ヲ廢シ丙第五十二號達ヲ以テ水路局附屬ヲ廢ス○同年四月第二十九號達ヲ以テ海軍裁判所ヲ廢シ同月海軍省丙第六十三號達ヲ以テ東京軍法會議並東京監獄署ヲ設置ス又丙第六十四號達ヲ以テ東海鎮守府刑事課監囚課ヲ廢シ同府ニ鎮守府軍法會議並鎮守府監獄署ヲ設置ス○同年五月海軍省丙第八十六號達ヲ以テ規程局ヲ廢ス○同年七月第六十四號達ヲ以テ武官官等表中ヘ追加ス○同年十二月海軍省丙第六十號達ヲ以テ醫務局ヲ廢ス○同年同月海軍省丙第六十九號達ヲ以テ橫須賀海軍用所ヲ廢ス○同年同月海軍省丙第七十三號達ヲ以テ水兵屯管ヲ橫須賀屯管ト改稱ス○同年同月海軍省丙第七十七號達ヲ以テ內局ヲ廢ス●十八年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ海軍大臣ヲ置ク○十九年二月海軍省丙第十六號達ヲ以テ長崎海軍出張所ヲ廢シ同所ニ橫須賀鎮守府武庫及倉庫ノ分局ヲ置キ丙第十七號達ヲ以テ兵庫海軍用所ヲ橫須賀鎮守府倉庫兵庫分局ト改稱ス○同年同月勅令第二號ヲ以テ海軍省官制ヲ定ム○同年四月勅令第二十四號ヲ以テ海軍條例ヲ定ム○同年同月勅令第二十五號ヲ以テ鎮守府官制ヲ定ム○同年同月勅令第二

十六號ヲ以テ海軍水路部官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十七號ヲ以テ督買部官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十八號ヲ以テ衛生部官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十九號ヲ以テ醫學校官制ヲ定ム○同年同月勅令第三十號ヲ以テ會計検査部官制ヲ定ム○同年同月勅令第三十一號ヲ以テ兵器製造所官制ヲ定ム○同年同月勅令第三十二號ヲ以テ火藥製造所官制ヲ定ム○同年同月勅令第三十七號ヲ以テ海軍武官官等ヲ定ム○同年七月勅令第五十二號ヲ以テ武官官等表ヲ改正ス○同年十月勅令第六十八號ヲ以テ海軍諸學校ニ文官教官ヲ置ク●二十年七月勅令第三十五號ヲ以テ機關學校官制ヲ定ム○同年十月勅令第五十五號ヲ以テ主理録事ノ官等俸給ヲ定ム○同年十二月勅令第七十二號ヲ以テ海軍兵器製造所官制第三條ヲ改正ス●二十一年二月勅令第三號ヲ以テ海軍督買部海軍會計検査部ヲ廢シ海軍省會計局ニ検査課ヲ置キ又同局中經費課ヲ廢シ其事務ヲ整理課ニ屬セシム○同年五月勅令第二十六號ヲ以テ海軍參謀本部條例ヲ定ム○同年六月勅令第四十四號ヲ以テ海軍兵學校官制ヲ定ム○同年同月勅令第四十九號ヲ以テ水路部官制ヲ廢シ水路部條例ヲ定ム○同年七月勅令第五十五號ヲ以テ海軍大學校官制ヲ定ム●二十二年二月勅令第十五號ヲ以テ海軍大學校官制第二條ヲ改正ス○同年同月勅令第十六號ヲ以テ主計學校官制ヲ改正ス○同年同月勅令第十七號ヲ以テ海軍軍樂練習所官制ヲ定ム○同年三月勅令第二十五號ヲ以テ參謀官制及海軍參謀本部條例ヲ廢シ參謀本部條例ヲ定ム○同年同月勅令第二十九號ヲ以テ海軍省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三十號ヲ以テ海軍參謀部條例ヲ定ム○同年同月勅令第四十號ヲ以テ水路部條例中ヲ改正ス○同年四月勅令第四十六號ヲ以テ海兵團條例ヲ定ム○同年同月勅令第四十八號ヲ以テ海軍衛生部官制ヲ廢シ海軍衛生會議條例ヲ定ム○同年同月勅令第四十九號ヲ以テ海軍醫學校官制ヲ廢止シ海軍軍醫學校官制ヲ定ム○同年同月勅令第五十號ヲ以テ鎮守府官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第五十一號ヲ以テ海軍兵器製造所官制ヲ廢止シ海軍造兵廠官制ヲ定ム○同年同月勅令第五十二號ヲ以テ海軍火藥製造所官制ヲ廢止シ海軍火藥工廠官制ヲ定ム○同年同月勅令第五十三號ヲ以テ海軍兵器會議條例及海軍造船會議條例ヲ廢止シ海軍技術會議條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十四號ヲ以テ海軍會計監督部條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十五號ヲ以テ海軍中央文庫官制ヲ定ム○同年五月勅令第七十二號ヲ以テ鎮守府官制ヲ廢止シ鎮守府條例ヲ制定ス○同年同月勅令

第七十三號ヲ以テ海軍機關學校官制ヲ改正ス○同年同月勅令第七十四號ヲ以テ海軍造船工學校官制ヲ定ム○同年同月海軍省達第百五十八號ヲ以テ橫須賀造船所官制ヲ廢ス○同年六月海軍省達第百七十五號ヲ以テ海軍病院條例中ヲ改正ス○同年七月勅令第九十八號ヲ以テ海軍武官官等表中判任ノ部ヲ改正ス○二十三年一月海軍省達第二十九號ヲ以テ唐津石炭用所ヲ廢ス○同年三月閣令第一號ヲ以テ小野濱造船所官制ヲ廢ス○同年二月勅令第七號ヲ以テ第五海軍鎮守府ノ位置ヲ定ム○同年同月勅令第十六號ヲ以テ海兵團條例中ヲ改正加除ス○同年同月海軍省達第四十五號ヲ以テ海軍大學校條例中ニ改正追加ス○同年五月海軍省達第二百三號ヲ以テ海軍病院條例第十六條中改正ス○同年同月海軍省達第二百十八號ヲ以テ海軍大學校條例中ヲ改正ス○同年同月海軍省達第二百十九號ヲ以テ海軍主計學校條例中ヲ改正加除○同年同月勅令第二十六號ヲ以テ海軍造船工學校官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第四十號ヲ以テ新原探炭所官制ヲ定ム○同年同月勅令第四十一號ヲ以テ海軍軍樂練習所官制ヲ廢止ス○同年同月勅令第五十二號ヲ以テ海軍省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第六十三號ヲ以テ鎮守府條例中ヲ改正ス○同年六月勅令第九十號ヲ以テ海軍編輯官官制ヲ定ム○同年八月勅令第六十七號ヲ以テ海軍火藥工廠官制ヲ廢止ス○同第百六十八號ヲ以テ海軍造船工廠官制ヲ改正ス○同年九月海軍省達第三百二十三號ヲ以テ海軍大學校條例中ヲ追加ス○同年十月勅令第二百四十號ヲ以テ海軍參謀部條例中ヲ改正追加ス○同年同月勅令第二百四十一號ヲ以テ水路部條例中ニ改正追加ス○同年同月勅令第二百四十二號ヲ以テ海軍技術會議條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四十四號ヲ以テ海軍衛生會條例中ヲ削除ス○同年同月勅令第二百四十五號ヲ以テ海軍會計監督部條例中ヲ改正追加ス○同年同月勅令第二百四十七號ヲ以テ海軍中央文庫官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四十八號ヲ以テ造船造兵監督官條例ヲ定ム○同年同月勅令第二百四十九號ヲ以テ海軍大學校官制ヲ廢シ同校條例ヲ制定ス○同年同月勅令第二百五十號ヲ以テ海軍兵學校官制ヲ廢シ同校條例ヲ制定ス○同年同月勅令第二百五十一號ヲ以テ海軍軍醫學校官制ヲ廢シ同校條例ヲ制定ス○同年同月勅令第二百五十二號ヲ以テ海軍主計學校官制ヲ廢シ同校條例ヲ定ム○同年同月勅令第二百五十三號ヲ以テ海軍機關學校官制ヲ廢シ同校條例ヲ制定ス○同年同月勅令第二百六十一號ヲ以テ軍醫條例第十條中ニ追加ス○二十四年三月勅令第十六號ヲ以テ高等水兵練習條例ヲ廢止ス○同年同月勅令第十七號ヲ以テ砲術練習條例中ヲ改正削除ス○同年同月勅令第十八號ヲ以テ水雷術練習條例中へ改正追加ス○同年同月勅令第二十四號ヲ以テ海軍造兵廠條例制定海軍造兵廠官制ヲ廢止ス○同年四月勅令第四十三號ヲ以テ海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ書記ヲ置ク○同年五月勅令第四十八號ヲ以テ海軍大學校條例中ニ改正追加ス○同年六月勅令第六十二號ヲ以テ警備隊條例第四條第五條中ニ追加ス○同年同月海軍省達第百二十一號ヲ以テ新原炭坑探炭規程ヲ定ム○同年七月勅令第七十八號ヲ以テ海軍會計監督部條例ヲ改正ス○同年同月勅令第八十號ヲ以テ造船造兵監督官條例ヲ改正ス○同年同月勅令第九十一號ヲ以テ海軍省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第九十八號ヲ以テ海軍造船工學校官制第一條ヲ改正ス

第四章 司法省 文部省 農商務省 遞信省

○司法省官制 二十四年七月二十四日 勅令第九十二號

朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十二號

司法省官制

- 第一條 司法大臣ハ司法上ノ行政、司法警察及恩赦ニ關スル事務ヲ管理シ裁判ノ執行ヲ監視シ行政事務ニ付テ裁判所ヲ監督ス
- 第二條 司法省專任參事官ハ五人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス
- 第三條 司法省ニ總務局ヲ置ク

第一類 第四章 司法省

總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 民事ノ法律命令ニ關スル事項
- 二 刑事ノ法律命令ニ關スル事項
- 三 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
- 四 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
- 五 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
- 六 裁判所附屬吏員及代言人ノ身分ニ關スル事項
- 七 統計報告ノ調整並官報掲載ニ關スル事項
- 八 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
- 九 公文書類ノ接受發送ニ關スル事項

第四條 總務局長ハ勅任トス

第五條 司法省試補ハ四人ヲ以テ定員トス

第六條 司法省屬ハ九十八人ヲ以テ定員トス

附則

第七條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

●參照舊令

○司法省官制 二十三年六月二十日  
勅令第百號

第一條 司法大臣ハ司法上ノ行政及警察並懲罰ニ關スル事務ヲ管理シ裁判ノ執行ヲ監査シ行政事務ニ付テ裁判所ヲ監督ス

第二條 司法省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ラシム

- 一 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
- 二 裁判所附屬吏員及代言人ノ身分ニ關スル事項
- 三 判事檢事巡回ニ關スル事項
- 第三條 司法省專任參事官ハ五人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス
- 第四條 司法省ニ左ノ諸局ヲ置ク

民事局

刑事局

會計局

第五條 民事局長及刑事局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス

第六條 民事局ニ於テハ民事ノ法律命令ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 刑事局ニ於テハ刑事ノ法律命令ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 會計局ニ於テハ本省會計事務並裁判所ノ豫算及決算ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 司法省試補ハ五人ヲ以テ定員トス

第十條 司法省屬ハ百六十人ヲ以テ定員トス

附則

第十一條 裁判所構成法實施ノ日ニ至ルマテ第三條ノ規程ニ拘ラス參事官七人書記官二人ヲ増置スルコトヲ得

○事務分掌規定

官報 二十四年八月十九日

第一類 第四章 司法省 事務分掌規定